公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

JFA news

12月情報号
NO.464
2022.

特集

WEリーグ 2年目の挑戦

髙田春奈 WEリーグチェア
小野剛 WEリーグテクニカルアドバイザー
小林美由紀 WEリーグ理念推進部部長
「WE ACTION」の取り組み

japan world cup kit

idas is the official supplier of the Japan National Team BLUE LOCK ©Muneyuki Kaneshiro, Yusuke Nomura / Kodansha Ltd.

JFA news No.464

2022 12月情報号

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、
人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、
人々に勇気と希望と感動を与える。

常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには
世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー

エンジョイ◉スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト◉選手にとっての最善を考えること
フェア◉オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ◉成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト◉関わりのあるすべてを大切に思うこと

CONTENTS

特集

WEリーグ 2年目の挑戦

004 髙田春奈 WEリーグチェア
007 小野剛 WEリーグテクニカルアドバイザー
010 小林美由紀 WEリーグ理事／理念推進部部長
013 「WE ACTION」の取り組み

【日本代表】
065 SAMURAI BLUE
国際親善試合 vs カナダ代表
FIFAワールドカップカタール2022速報
069 U-17日本女子代表
FIFA U-17女子ワールドカップインド2022 大会レポート
狩野倫久監督インタビュー
074 なでしこジャパン
国際親善試合
vs イングランド女子代表、スペイン女子代表
077 U-21日本代表
国際親善試合
vs U-21スペイン代表、U-21ポルトガル代表

【連載】
058 隔月連載 日本全国FAコーチ巡り
徳島県サッカー協会
「一人一人と真摯に向き合い、
徳島県サッカー全体を発展させる」
060 隔月連載 日本サッカータイムスリップ
「プロ化への道のり」
062 隔月連載 サッカー心育論
中山雅雄
「大木を見習う」
063 隔月連載 ビーチサッカーナビ
茂怜羅オズ ビーチサッカー日本代表監督兼選手
「若手とベテランの融合を目指して」
064 いつも心にリスペクト
大住良之
「世界のサッカーファンに対するリスペクト」

【特別企画】
026 野々村芳和 Jリーグチェアマンインタビュー
028 木暮賢一郎 フットサル日本代表監督インタビュー

【REPORT】
078 初の公式アプリ
「JFA Passport」配信スタート

【大会・試合】
017 皇后杯 JFA 第44回全日本女子サッカー選手権大会 開幕
018 第29回全国クラブチームサッカー選手権大会
019 JFA 第10回全日本O-40サッカー大会
021 第24回日本フットボールリーグ
022 全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2022
023 2022明治安田生命J1リーグ
024 2022明治安田生命J2リーグ
025 2022明治安田生命J3リーグ

016 日本サッカーミュージアム
030 月刊レポート～JFAリリースインフォメーション&活動報告
035 会議レポート
038 DATA BOX
054 蹴球通信
068 サッカーファミリー広場
080 次号予告

※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、©F.LEAGUE、©Walnix

アスパス!

JFAは社会課題解決に向けた活動「アスパス!」に取り組んでいます。これは"地球(earth)の未来(明日)のために私たち(us)がつなぐパス"の意を込めた造語でサッカーファミリーが世代や時代を超えて"パスを繋いでいく"という強い決意を表現しています。

dunhill

JAPAN
JFA
OFFICIAL GOODS
©JFA

特集 | WEリーグ2年目の挑戦

世界一のリーグを目指せ！

日本初の女子プロサッカーリーグとして2021年9月に開幕したWEリーグが、2シーズン目を迎えている。今号では、今年9月に岡島喜久子前チェアからバトンを引き継いだ髙田春奈チェアをはじめ、WEリーグのテクニカルアドバイザーを務める小野剛氏（日本サッカー協会技術委員会副委員長）、WEリーグの理念推進を担当する小林美由紀WEリーグ理事にそれぞれ話を聞いた。
理念として掲げる「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」の実現に向け、挑戦し続けるWEリーグの今に迫る。

髙田春奈 WEリーグチェア

WEリーグに期待して、一緒に夢を見てほしい

初開催となった2022-23 WEリーグカップを終え、2年目のWEリーグが10月に開幕した。2シーズン目を迎えるWEリーグはどのように進むのか。今年9月29日、第2代WEリーグチェア（理事長）に就任した髙田春奈氏に、チェアとしての抱負、WEリーグの魅力や可能性などについて聞いた。

○取材日：2022年11月11日

可能性のある女子サッカー選手たちが輝ける場に

――チェアに就任されて1カ月ほどがたちました。活動される中で感じられていることや変化はありますか。

髙田　就任前から大変な仕事であることは理解していましたので、心境としての変化はあまりありません。WEリーグには大きな可能性があります。2011年になでしこジャパン（日本女子代表）がFIFA女子ワールドカップで世界一になった記憶をみんなが持っていて、ワールドカップでの優勝を現実的な目標として考えられる。それはとても夢のあることです。選手たちには再び世界一を取ってほしいですし、WEリーグで頑張れば自分も世界一を目指せるのだと思えるリーグにしなければならないと考えています。そういう意味ではいろいろと変化がある中でも、常にワクワクしながら仕事をしています。

――チェア就任を決断された思いを今一度お聞かせください。

髙田　WEリーグが開幕したことは知っていたのですが、同じサッカー界にいながらその動向はあまり把握できていませんでした。実際にどんなクラブがあるのか、どんな状況なのかを調べるところから始めて、試合も見に行きました。ピッチ上の選手たちはとても生き生きと輝いていて、格好よくて素敵で、サポーターの皆さんに愛され、同じ女性としても憧れる存在でした。日本の女子サッカー代表は各年代が国際舞台で良い成績を残しています。そう考えたとき、選手たちをもっと輝く場所につれていきたい、と。WEリーグをさらに良いものにして日本女子サッカーの位置づけを高めることで、その発展に貢献できるのではないかと考えるようになりました。チェアはやりがいのある仕事です。WEリーグに携わるようになり、大きな可能性を秘めたリーグですが情報が十分に知れ渡っていないと感じることもありますので、多くの人々に情報を発信しながら良いリーグにしていきたいと思っています。

――情報を広く発信する上で、露出や発信の仕方も大事だと。

髙田　WEリーグはいろいろな角度から情報を発信できる組織だと思っています。設立意義にある「女性活躍推進」は現代社会で求められている役割の一つであり、WEリーグの動向は企業や社会から注目されています。それをどう発信していくか、という部分はもっと考えなければなりません。

しかしプロリーグですから"サッカー"が活動の中心にあることを忘れてはなりません。日本女子サッカーのレベルの高さを知ってもらい、そこで頑張っている選手の素顔や戦っている姿を通して女性活躍社会を発信していくことも大切です。

――V・ファーレン長崎では18年から役員を、20年1月からは約2年にわたり代表取締役社長を務められました。組織のトップとして大切にされていることを教えてください。

髙田　V・ファーレン長崎の社長になったとき、一般企業に比べてサッカー界では各クラブの社長が表に出る機会が多いと感じました。社長の見られ方がクラブの見られ方にも直結するわけです。自分の言葉で伝えることは大切ですし、一方で責任はすごく重いという覚悟を持って発信をしてきました。WEリーグに来てからも、リーグの認知度を上げるためにはもっと発信していかなければならない、その一つのチャネルとして自分という存在があると思っています。ですから、WEリーグの顔として、WEリーグの代表として出ているという意識を常に持っています。トップとして大切なことを発信していく、その時に必要とされる発信の仕方をしようと心掛けています。

特集 WEリーグ2年目の挑戦

<プロフィール>

髙田春奈（たかた はるな）
1977年5月17日生まれ
長崎県佐世保市出身
国際基督教大学を卒業後、ソニー入社。秘書、人事を経て、2005年独立。主にジャパネットグループにおける人事コンサルティング、広告代理店業（メディアバイイング、クリエイティブ）を経て、2018年JクラブのV・ファーレン長崎の上席執行役員に就任。広報や運営業務を担当した。2020年同クラブの代表取締役社長就任。一貫して人とメディアに関わる仕事に携わる傍ら、大学にて経営学・教育学について学び、現在は東京大学大学院教育学研究科博士課程に在籍し、教育思想の研究を継続している。
2022年3月Jリーグ常勤理事、JFA理事に就任。Jリーグでは社会連携ほか、複数の部門を担当した。同年9月にWEリーグの2代目チェアに就任。Jリーグ特任理事とJFA副会長も務める。

パートナー企業各社とJリーグとの連携も推進

――就任会見では、サッカー界全体で考えたときにご自身がチェアに就かれることでJリーグにも良い影響を与えられるといったお話もされていました。

髙田　Jリーグは来年、開幕30周年を迎え、クラブ数も60に増えます。その存在や活動は全国に浸透しており、リーグとしても成熟してきています。私自身、Jリーグの理事になってやりがいもありましたし、入って間もないタイミングだったので、すぐにWEリーグに移っていいものかと悩みましたが、Jリーグの中にいるよりは、新しくできたWEリーグやこれから伸ばしていくべき女子サッカーに携わった方が、自分がサッカー界に貢献できることは多いのではないかと最終的には思いました。

V・ファーレン長崎で代表取締役社長をやっていたとき、当時56クラブの中で女性の経営者は私一人、歴代で二人目でした。Jリーグの理事も女性は一人でした。WEリーグを成長させるだけではなく、Jリーグにも良い影響を与えたいと思ったのは、これだけ多様性がうたわれている社会において、男子のプロサッカーリーグとはいえ、Jリーグには女性の視点がまだまだ少ないなと。WEリーグで女性が活躍して良いリーグをつくることで、Jリーグにも新たな気づきや刺激を与えることができるはずですし、WEリーグとJリーグとの連携によって相乗効果も生み出せたらと思っています。

――WEリーグが果たすべき役割は大きいですね。

髙田　夢があり、価値のあるリーグです。パートナー企業を増やし、見てくださるサポーターを増やすとともに、選手がプロとして生活できる世界にしなければなりません。結婚や出産、育児などライフステージが変わっても、選手たちが自立し、サッカーを続けられるリーグにすることが本当の意味で平等になるということです。それが女性スポーツの世界で成立すれば、ビジネス界などでも女性役員を増やそうといった動きになっていくのではないかと考えています。

――プロとして、選手も責任ある場に立ったり、その言動に注目が集まったりする機会も増えると思います。その点についてはいかがでしょうか。

髙田　選手が自分自身の価値を上げるためにも、社会に対する自身の影響力やプロ選手としての自覚を持つことは大切だと思います。キックオフカンファレンスのとき、サンフレッチェ広島レジーナの近賀ゆかり選手が「自分たちの世代が世界一になったときのことを伝えていく責任があると思うので、やれることがあれば何でも言ってください」と話してくれました。気概を感じましたし、私自身も自分の立場で選手に伝えられることがあれば、伝えていきたいと思っています。

10月17日の2022-23シーズンWEリーグキックオフカンファレンスでは、WEリーグ設立以降初めて全11クラブの選手が集結。髙田チェアにとっても初の顔合わせとなった。

――理事の顔触れは半分ほど変わりました。リーグを統括する組織として、どういう組織にしていきたいとお考えですか。

髙田　理事にはそれぞれ担当を持ってもらいたいと思い、全体のバランスを考えてお願いをしました。来年には分科会のような形で話し合う場を設けたいと思っています。

9月の役員改選では役員の約半数が新たな顔ぶれに。Jリーグや元アスリート選手、現役プロサッカー選手などさまざまな分野で活躍する面々がそろった（写真は就任会見に対面で出席した役員）

高田　理事には、Jリーグ理事の窪田慎二さんと馬場浩史さんにも入っていただきました。お二人ともWEリーグのこともすごく考えてくださっているので、具体的な施策を検討し、連携できることを増やしていきます。

――Jリーグではご自身も「シャレン！（社会連携活動）」を推し進められてきました。WEリーグは「WE ACTION」という形で理念推進活動に取り組んでいます。印象はいかがですか。

高田　WE ACTIONは、女性活躍推進のみならず、シャレン！のように地域貢献活動に近い取り組みでもあります。やはりスポーツ団体として、地域に根差した活動は絶対に必要だと再認識しています。というのも、どういう人たちが自分たちを応援してくださっているのか、どうやってサポーターやファンは増えていくのか、何が皆さんに感動をもたらすのか、そうしたことを肌で感じられることは、選手の成長において絶対に必要で、大きな意義があるからです。

心強いのは、パートナー企業の皆さんを巻き込んだ活動が活発に行われていること。それも個々の取り組みというよりは、WE ACTIONのくくりの中で各企業がWEリーグと一緒になり、横のつながりを構築して社会課題に取り組んでくださっていることが素晴らしいです。WEリーグは理念への理解や熱意を持ったパートナー企業の皆さまに支えられています。もっとWEリーグの意義を打ち出し、その輪を広げていきたいと考えています。

競技力、環境面において世界に認められるリーグへ

――キックオフカンファレンスでは、「魅せるリーグにしたい」とお話されていました。

高田　プロリーグですから、サッカーで"魅せる"ことが重要です。選手たちにはプロとして格好いいプレーを見せてもらい、私たちはエンターテインメントとして、興行として、人々を魅了するものをつくっていく。WEリーグには代表クラスの選手や素晴らしい選手がたくさんいます。サッカーに全身全霊で打ち込む選手たちに、ぜひ注目していただきたいです。

――「魅せる」ためには、全体の競技力向上も重要になります。

高田　私自身、目下の目標としたいのは、世界トップレベルの女子サッカー選手たちがどの国のリーグでプレーしたいかといったとき、そこにWEリーグが選択肢として挙がることです。レベルが高く、環境もいいからWEリーグに行きたいと言ってもらえるリーグにすること。そのためにJFA技術委員会の小野剛副委員長にテクニカルアドバイザーをお願いしたり、アメリカ在住の中村武彦さんに国際アドバイザーをお願いしたりして、レベル向上のためのアドバイスをいただいています。そのほか、JFA女子委員会とも連携し、アドバイスをいただきながら、やるべきことに取り組んでいきたいと思っています。

――WEリーグが目標とする観客動員数は1試合平均5000人です。2021-22シーズンは平均1715人と及びませんでした。

高田　2011年に女子ワールドカップで初優勝し、なでしこリーグの観客動員数が爆発的に増えてから、徐々にその数が伸び悩んでいることは事実です。しかし、WEリーグは昨年スタートを切ったばかり。まだまだこんなもんじゃない、というところを見せるにはタイミングは逃していないと思っています。来年の女子ワールドカップに向けて、今季は勝負だと思っていますし、「なでしこジャパンが強くなった要因の一つにWEリーグがある」と言ってもらえるようにすることが重要です。なでしこジャパンの活躍に期待していますし、大会後には日本中の多くの皆さんにWEリーグを見ていただけるよう、リーグとしてもワールドカップを盛り上げていきます。リーグ戦は毎週試合が行われていますから、WEリーグが毎週話題に上がるくらい、注目度と人気度、知名度を上げていきたいと強く思っています。

キックオフカンファレンスでは「魅せる」を目標に掲げた高田チェア。プロリーグであるからには、サッカーで魅せることを大事にしている

各担当がそれぞれの責任を果たすことで、全体の成果を最大化することにつながります。私は人事畑出身なので、組織をつくることは好きですし、強い組織をつくる部分で成果が求められていると思っています。着任後もまずは組織づくりから着手しています。同じビジョンを持ち、各ポジションの能力に長けた人を配置し、連携しながら推し進められる組織にしたいと考えています。

――JリーグとWEリーグの連携については、どういうお考えを持たれていますか。

――サッカーファミリーの皆さんへメッセージをお願いします。

高田　WEリーグに期待してほしい、可能性を感じてほしいと思っています。いつかWEリーグと関わることがうれしいと皆さんに思っていただけるような組織にしたい。応援してください、というよりは、期待してください、という気持ちですね。女子サッカーには大きな可能性があります。一緒に夢を見てほしいと思いますし、皆さんに期待していただくためにも、まずは私自身がWEリーグに一番期待する人でありたいと思っています。

特集 WEリーグ2年目の挑戦

世界一のリーグを目指して競技力の向上を図る

小野剛

WEリーグテクニカルアドバイザー／JFA技術委員会副委員長

インタビュー

日本サッカー協会（JFA）技術委員会の小野剛副委員長は、WEリーグのテクニカルアドバイザーとして技術面でのサポートを行っている。テクニカルアドバイザーの役割、WEリーグの1シーズン目の分析とその特徴、今後高めるべき要素などを、インタビューを通じてひも解いていく。

○取材日：2022年11月14日

世界のサッカーの流れは女子にも必ず反映される

――昨年9月、WEリーグが開幕しました。日本サッカー全体、女子サッカー全体におけるリーグの重要性をどう捉えられていますか。

小野　JFA技術委員会では「Japan's Way」を発表していますが、ワールドカップのトロフィーを掲げるためには、「特定の人だけがやっているサッカー」ではなく、「みんなのサッカー」になっていかなければなりません。われわれはサッカーが日常にある環境をつくりたい。そこで大きな可能性を秘めているのが、女子サッカーです。「サッカーをやってみたい」という女の子が増え、サッカーファミリーの裾野が広がり、それが強化にもつながっていく。女の子たちの憧れや目標として、WEリーグの存在価値は大きいと思います。

以前、欧州サッカー連盟（UEFA）の関係者が「女子サッカーでは、欧州はアメリカやアジアに後れを取っている」と話していました。ところがその後、欧州各国で女子リーグの創設やプロ化の流れができ、今では競技力や注目度も上がり、大きく飛躍しています。なでしこジャパン（日本女子代表）がもう一度、世界の頂点を目指す上でもWEリーグの誕生は大きなマイルストーンになると思います。

――WEリーグテクニカルアドバイザーとして、どのような活動を進められているのでしょうか。

小野　WEリーグのビジョンである「世界一の女子サッカー」「世界一のリーグ価値」の実現に向けて競技力の向上は重要な柱ですから、それを高めるためのサポートをしています。

具体的には、WEリーグの各クラブの監督を集めて監督フォーラムを開催しています。これはWEリーグ創設時から行っているもので、これまで3回実施しました。ビジョンを実現するという全クラブの思いを一つにする意味でも非常に大切な取り組みだと考えています。選手に対しては、WEリーガーテクニカルセミナーを開催してきました。プロになり、選手たちはサッカー中心の生活になりました。サッカーを学び、自分を高めてほしいという意図で、世界のサッカーの潮流、フィジカルやGKなどさまざまなテーマを設けて講演を行いました。

そのほか、WEリーグ開幕時からInStat社に分析データの蓄積をお願いしており、そのデータを使って競技力をさらに高めるための世界戦略も練っています。

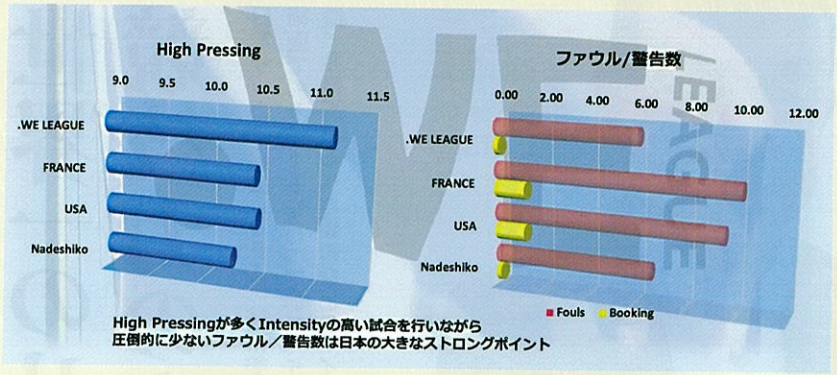
――世界のサッカーと照らし合わせることの意義とは？

小野　男子の最高峰の戦いであるFIFAワールドカップやUEFAチャンピオンズリーグが世界の最先端のサッカーだとすると、そこで見られる傾向は少々遅れてでも確実にアジアサッカーに反映されてきます。そしてその流れは、必ず女子サッカーにも反映され、アジアや日本、そして育成年代へと広がっていきます。そうした流れを考えると、常に世界のサッカーの潮流をキャッチアップすることは競技力を高めていく上で極めて重要であることが分かります。

世界に誇れるインテンシティーの高さ

――WEリーグ1シーズン目を終え、見えてきた特徴を教えてください。

小野　世界の女子サッカーでは、高いインテンシティーが主流になっています。4年前、オリンピック・リヨン（フランス）が連覇したUEFA女子チャンピオンズリーグ2018のテクニカルレポートでは、リヨンのハイプレッシングに



ハイプレッシングのゲームが展開されているにもかかわらず、ファウルや警告数が少ない。小野テクニカルアドバイザーは「育成段階から「ファウルをせず、フェアに、しっかりと良い準備や判断をして戦うことを指導者が志向しているからこそ」と話す

対応できるチームはなかったと分析されていました。しかし、今年の同大会のテクニカルレポートでは、どのチームもハイプレッシングを用いており、それをどうかいくぐるかがポイントだったと述べられています。WEリーグを見ると、非常にポジティブなデータが出ており、ハイプレッシングの回数が非常に多いんです。WEリーグ発足前のなでしこリーグと比べても高い数値ですし、平均値で言えばすでにフランスやアメリカのリーグを上回っています。それだけWEリーグは高いインテンシティーの中で試合が行われてきているということです。

なぜこれが重要かというと、ハイプレッシングを実践するチームがなければ、それをかいくぐろうとするアンチプレッシングは育たないわけです。日本が世界と戦う際は、ハイプレッシングにさらされることになると思いますが、日本の選手たちがその中で正確な技術を獲得し発揮するためにも、日常的に高いインテンシティーの中でプレーすることが重要です。

――WEリーグでは、世界のサッカーと対等な試合が展開されているんですね。

小野　ハイプレッシングが主流の中、アンチプレッシングは勝敗の鍵を握ると言われていますが、そこで要となるのがGKです。GKがビルドアップに加わり、相手のハイプレッシングをかいくぐっていく。そういう意味で、GKのプレーにも変化が見られます。フランスやアメリカのリーグに比べてGKがプレーする回数が多く、パスの本数や成功率が高くなっている。これはパスをつないで相手を崩そうと試みている示唆と捉えることができます。

また、こうしたインテンシティーの中で試合を行うと、どうしてもファウル数やエキサイトする場面が増えるものですが、WEリーグではファウルや警告数が非常に少ない。プレー強度が上がっている中でも、相手に対するリスペクト、ファウルに頼らないプレーが実践できている証拠だと思います。これは世界に誇れる部分ですし、育成年代からの指導のたまものであり、日本サッカーが長年培ってきたストロングポイントだと言えます。

――その他、InStat社の分析データから見えてきたことはどのようなことでしょうか。

小野　フランスやアメリカのリーグと比較してシュート数はあまり変わりませんが、WEリーグはオンターゲット率が低く、シュートに至るまでにつなぐパスの本数も多い傾向が見られます。オンターゲット率については、ゴールにもっと向かっていく、シュートの精度を高めることが求められます。シュートまでに要するパスの本数は、フランスやアメリカのリーグは約36～37本ですが、WEリーグだと約47本で10本ほど多い。日本はパスを丁寧につなぎ、ゴールを目指すと見れば長けているとも言えますが、世界は少し強引にゴールまで持っていく、直線的にゴールを目指すスタイルだということです。

また、チャンスの数、どれだけビッグチャンスをつくっているかを示す「xG＝ゴール期待値」を比較すると、これらも少し低い。「xG」が高いということは決定機も多く、スタジアムで多くの歓声が上がることにつながります。魅力的なリーグ、試合を提供していく上では高めていく必要のある要素だと思います。

――優れている部分として、クロスの成功率が高いことも挙げられています。

小野　クロスの数が多いわけではないのですが、その成功率は他のリーグを圧倒しています。というのも、ゴール前の選手にピンポイントで合わせる精度が非常に高い。このピンポイントクロスは、世界と戦う上で大きな武器になります。クロスというと、タッチライン付近から上がったクロスに、ゴール前で競り合いに強い選手がヘディングで決めるイメージがありますが、小柄な日本がその競り合いに勝つのはなかなか難しい。ですから、サイドの奥深くまで崩す、あるいは相手の守備が整っていないうちにピンポイントクロスを入れるという技術は、日本が世界にもまれる中で築き上げてきたものと言えるでしょう。これは日本の強みになっており、確実に数字に表れています。

――こうしたデータの蓄積を進めていくことの意義をどうお考えでしょうか。

小野　データが5年、10年と積み重なってきたとき、さらに大きな価値を持つでしょう。シーズンを重ねて縦軸に見る変化、それから世界との比較で横軸として見る変化、その両方で分析していけば、WEリーグの特徴や現在地がもっと明確に見えてくると思います。なお、ここに挙げた項目は良い悪いで判断するものではなく、あくまでも特徴です。日本の武器を伸ばしつつ、改善を図っていくことでより良いリーグになっていくでしょう。

現代はさまざまなデータを入手しやすくなりましたが、大事なのは"データに溺れない"こと。やはり現場で、自分の目で見ることも必要だと思います。現場での目や感性を数字として検証したり、客観的に周囲に伝えたりするためにデータを武器にしてほしいですね。

「ライバルであり仲間」全クラブの思いを一つに

――各クラブの監督が一堂に会する「WEリーグ監督フォーラム」を開催している理由を教えてください。

小野　私も監督を務めた経験がありますが、チームは日々の活動や目先の勝敗にフォーカスせざるを得ません。そうすると大きな目標を見失いがちです。そこで、年に数回、WEリーグが掲げる「世界一のリーグ価値」を再認識するために監督フォーラムを開催しています。

初回からキーワードにしているのは、「Rivals and Fellows」=「ライバルであり仲間」です。強いチームをつくるにはチーム内の競争が必要で、まずは選手同士のレギュラー争いがありますが、試合ではそのライバルが力を合わせ、仲間として相手に立ち向かいます。その次に、チーム同士でライバル心を燃やして激しく競い合い、切磋琢磨してリーグを盛り上げる。海外の代表チームと対戦する際は、各クラブから招集された選手たちが強い絆を結束して戦う。それと同じように世界ではリーグ同士も競い合っているのです。WEリーグが世界一のリーグを目指す上では、「ライバルズ・アンド・フェローズ」の精神で、激しく競い合っているクラブ同士が、ことリーグ価値という面では強い絆で協力して欧州やアメリカのリーグに立ち向かっていくことが必要なのです。

――ヨーロッパやアジアでは、開幕前やシーズン途中に各クラブの監督が集まってフォーラムを開催しています。そうしたフォーラムに参加された経験が基になっているのでしょうか。

小野　まさにその通りです。UEFAのエリートクラブコーチフォーラムには、ユルゲン・クロップ監督やジョゼップ・グアルディオラ監督、ジョゼ・モウリーニョ監督などそうそうたるメンバーが集まり、欧州サッカーを向上させるために建設的な話をしています。アジアサッカー連盟（AFC）でも毎年、AFCチャンピオンズリーグ（ACL）の出場チームを中心にトップクラブの監督が集まり、エリートコーチフォーラムを行っています。そこでは世界やアジアのサッカーについて議論されています。各クラブが勝つために戦う一方で、互いのサッカーをさらに発展させ、価値を高めるためにみんなで話をする、本当に素晴らしい機会です。WEリーグではこれがスタンダードとなるよう1シーズン目から取り組んでいます。こうしたフォーラムを日本でも当たり前の文化にしていきたいと思いますし、このフォーラム開催がその一翼を担えればと考えています。

――監督フォーラムではデータ共有のほかにさまざまなディスカッションが行われています。ある監督からは、「アクチュアル・プレーイングタイム（実際にプレーが動いている時間）を延ばそう」という意見が出ていました。

小野　監督フォーラムでは監督側からも建設的な意見がたくさん出されています。みんな日本女子サッカーを背負う仲間なんだという意識が非常に強い。アクチュアル・プレーイングタイムの問題はとても重要で、AFCでも、すぐに倒れずにできるだけプレーを続けようと提案して取り組んでくれています。WEリーグでは、選手や指導者、そして審判員が協力して、タフでたくましくプレーを続けているので、その点は非常に高いレベルにあります。見る人の心を揺さぶるのはそういったプレーですし、それを続けることでもっと多くの人を引き込むことができる。今シーズンのWEリーグ開幕前に行われた「2022-23 WEリーグカップ決勝」もまさにそういった試合でした。

――最後に、2シーズン目のWEリーグに期待することをお聞かせください。

小野　先に挙げたWEリーグカップ決勝は、魂と魂がぶつかり合うような素晴らしい試合で、あの試合を見たらまた次も見に行きたくなると感じました。1シーズン目の数値にも表れたように、激しい試合の中でもWEリーガーは非常にフェアにプレーしています。選手たちがこうした試合を続けていけば、競技力も上がり、魅力的なリーグになっていきますし、世界に通用する選手も育ってくるだろうと感じます。また先日、「JFA Magical Field Inspired by Disney ファミリーサッカーフェスティバル"First Touch"」で、女の子たちが楽しんでサッカーをしている様子を見ました。そうした笑顔の一つ一つが、今後の女子サッカーを築くものだと確信しました。初めてボールを蹴った女の子が「WEリーグを目指して頑張りたい」と憧れを抱けるようなリーグになっていけばいいなと思います。

「見ていてワクワクするような試合が展開できれば」と小野テクニカルアドバイザー。選手にとっても見る人にとっても魅力的なリーグを目指していく

特集・WEリーグ2年目の挑戦

小林美由紀 WEリーグ理事／理念推進部部長インタビュー

選手が自信を持って、自ら発信してほしい

2021年9月に開幕したWEリーグは、「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する。」という理念を掲げている。その理念を推進するための取り組み「WE ACTION」は、WEリーグの要ともいえる。理念推進部部長を務める小林美由紀理事に初年度の総括と2年目に向けた展望を聞いた。

○取材日：2022年11月11日

他クラブの選手と思いをシェアできる

――WEリーグは多様性社会の具現化に向けた活動「WE ACTION」に取り組んでいます。1年目を終え、どのように評価していますか。

小林　WEリーグでは、参入基準として女性活躍やジェンダー平等を促進する項目を定めています。役職員の50％以上を女性とすることや役員など意思決定に関わる者のうち少なくとも1人は女性とすることなど、まずは目指す形に近づけるために、あえて数を定めるところからスタートしました。実際に女性の登用は増えていますし、各クラブの努力も成果として表れ始めています。チームが試合のない節に行うWE ACTION DAY（理念推進日）も、アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）について子どもと一緒に考えたり、年齢や性別を問わないサッカー教室を開催したり、選手が自分たちでいろいろな企画を立て、その内容も深くなってきている印象です。

11月10日には11クラブから1人ずつ選手が参加してオンライン座談会を実施しました。そこでは、「自分たちがキャリアを重ねていることをしっかり見せられれば、女の子たちもサッカー選手を目指すようになるのではないか。自分たちにできるのはそういうことではないか」といった声を聞くことができました。自分の思いや考えを他のクラブの選手とシェアできるのは「WE ACTION」があるからこそだと思いました。

WE ACTION

WEリーグに所属する選手、クラブ、そして、サポートするパートナー企業を始めとするさまざまな人が、リーグの理念「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する。」の実現のために輪となり、私たちみんな（WE）で起こす行動（ACTION）こと。

アルビレックス新潟レディースはホームスタジアムでサッカー教室などを実施

特集 WEリーグ2年目の挑戦

ノジマステラ神奈川相模原は知的障がいや発達障がいのある子どもたちを活動拠点のピッチに招待し、交流した

――プロリーグとしての側面に加え、理念の実現を目指すことにも選手たちは積極的に取り組んでいますね。

小林 WEリーグの「WE」は「Women Empowerment（女性活躍）」を表したものです。選手全員が参加したWEリーガー研修でも、まずは自分の強みを表現することが大切だということを伝えています。周囲をどうこうしようと考えるのではなく、自分の力に自信を持ち、輝いている姿を示すことで、見ている人たちに力を与えることができるという話をしました。

――「WE ACTION」を象徴する活動としてWE ACTION DAY（アクションを起こす日）があります。これはどのような役割を期待して導入されたのでしょうか。

小林 どのクラブも社会貢献活動に取り組んでいますが、それをリーグとして取り組むこと、そしてシーズン中に全選手が参加して行うことに意義があると思っています。WEリーグの理念を選手間に浸透させる目的もあって始めたことですが、たとえば、ちふれASエルフェン埼玉が児童養護施設の子どもたちに夢や希望を持って生きることの素晴らしさを伝えようと交流イベントを行ったところ、選手らが子どもたちからパワーをもらうなど、多くの学びを得たようです。また、INAC神戸レオネッサなど清掃活動を行ったチームは、これがきっかけになって、サッカーとの接点がなかった人たちに関心を持ってもらい、試合を見に来てもらうようになったそうです。サッカーやスポーツに縁がなかった人々とつながることができた、という点で大きな意味があったと思います。

――2021-22シーズンは各クラブが年に2回ずつ実施しました。反応はいかがでしょうか。

小林 先ほど紹介したEL埼玉の活動は「2021-22 MOST IMPRESSIVE WE ACTION DAY」を受賞しました。児童養護施設の先生方は「子どもたちがこんなに屈託なく笑顔で話している様子は見たことがない」と、涙ながらに話していらっしゃいました。選手からも、WE ACTION DAYに限らず月に1回はやろうという話が出ていました。残念ながらコロナ禍の影響で実現しませんでしたが、選手たちも自分たちの取り組みがどれだけ意義のあることかを実感していましたし、周囲の方々にも影響を与えられたのではないでしょうか。

リーグが大切にしていることそれを広めることが重要

――「2021-22 MOST IMPRESSIVE WE ACTION DAY」はどのような形で選考されたのでしょうか。

小林 WEリーグの理事やWE ACTION MEETINGに参加してくださったパートナー企業の皆さんと選考委員会を設置し、投票で選出しました。EL埼玉はWE ACTION DAYのためのスポンサーを見つけ、自分たちがデザインしたパーカーを作って参加した子どもたちに配るなど、選手が企画から実施まで積極的に関わり、クラブの独自性と主体性を表現したことで高い評価を受けました。チームの監督が女性で、女性の取締役も複数人いて、それを自分たちのアピールポイントにしていこうという意思のあるクラブですから、それが選手たちにも浸透しているのかもしれません。それぞれの得票数が、リーグ戦の順位とほぼ反比例していたことも興味深かったですね。

――賞を設けることの意義とは？

小林 「理念推進活動に優劣をつける必要があるのか」という意見もありましたが、そうではなく、"WEリーグが大切にしているものを広く知っていただくため"という意味合いの方が強いです。そのため、2022-23シーズンは「どんな団体と組んでどんな動きをしたか」「どれだけ拡散できたか」「選手の主体性がどれだけあったか」の三つを評価対象とする賞をそれぞれ設けることにしました。

10月にはノジマステラ神奈川相模原が今シーズン1回目のWE ACTION DAYを実施しました。ノジマのアメリカンフットボールチームであるノジマ相模原ライズの選手やチアリーダー、プロ野球の横浜DeNAベイスターズの選手OBの協力も得て、小学生や障がいのある子どもたちを招いてスポーツフェスティバルを開催するなど、他団体との協働や拡散の動きも出てきています。

――理念推進部部長として、WE ACTION DAYに求めることはありますか。

小林 正解、不正解はありません。しかし、各クラブには選手がその目的や意義を認識する内容にしてほしいと伝えています。今シーズンに関しては、2回のうち1回はジェンダーをテーマにして取り組んでもらいます。大宮アルディージャVENTUSは10月下旬から11月上旬を「VENTUS ACTION WEEK」とし、さいたま市内の中学校、高校を訪問して埼玉県男女共同参画推進センターの専門員によるアンコンシャス・バイアスに関する講義やジェンダーについて考えるディスカッションを実施しました。子どもたちからいろいろな意見が出てきて、選手も刺激を受けたと聞いています。

大宮アルディージャ VENTUSはVENTUS ACTION WEEKと題して、5日間にわたって活動を実施。写真は「手話を使ったサッカー教室」より

「MOST IMPRESSIVE WE ACTION DAY」を受賞したちふれASエルフェン埼玉は、第2回の活動日にホームタウンの子どもたちと交流した

――昨シーズンと今シーズン、クラブは試合がない節にWE ACTION DAYを実施しています。2023-24シーズンからはセレッソ大阪堺レディースがWEリーグに参入して12チームとなり、各節で全てのチームに試合があることになります。WE ACTION DAYはどう継続されるのでしょうか。

小林　まだ検討段階ですが、試合日以外の特定の日をWE ACTION DAYに指定し、全12クラブが取り組む形などを考えています。WE ACTION DAYは少しずつクラブに浸透してきていますのでどのような形になろうと継続させていく考えです。

――今後、日本サッカー協会（JFA）やJリーグをはじめとした関係各所との連携についてはいかがでしょうか。

小林　現在、WEリーグは月例で理念推進担当者会議を実施しています。そこにJリーグの「シャレン！（社会連携活動）」の担当者にも参加してもらい、いろいろなアドバイスをいただいています。また、乳がんの早期発見、早期診断、早期治療の大切さを伝えるピンクリボン活動は、男性に知ってもらうことにも大きな意義がありますので、今後はJリーグやJクラブとも連携して取り組めたらと思っています。

リーグの理念を外に広げていく段階

――昨シーズンは「WE ACTION MEETING」を3回実施し、リーグのパートナー企業にも加わってもらい、ジェンダー平等や女性活躍推進について話し合いました。その意図を教えてください。

小林　選手は、日常活動でサッカー以外の方と接する機会がなかなかありません。そこで、パートナー企業にはなるべく選手と同年代の男女2人に参加してもらうようにお願いし、社会課題などについて話し合う場を設けました。企業の皆さんからも「選手と話をする機会を得られてよかった」「サッカーを一生懸命やっている選手たちが何を考えているのか知ることができてよかった」という声をいただきました。WE ACTION MEETINGをきっかけに実際に試合を見に行き、クラブスタッフとも知り合いになり、互いが何を求めているのかを知ることにつながったという成果もありました。

WE ACTION MEETINGはリーグのパートナー企業にも参加してもらってジェンダー平等や女性活躍推進について話し合った

――昨シーズンの開幕前にはクレド開発ミーティングを実施し、選手自ら「WEリーガークレド（行動規範）」を作成しました。プロリーグができ、WE ACTIONに取り組む中で選手たちの変化をどうご覧になっていますか。

小林　WEリーグはみんなでつくり上げるものだと思っていますので、リーグとしても、意図的に選手が関わるようにアプローチしています。WEリーガークレドは、あらかじめ想定していた文言があったのですが、開発ミーティングを経て様変わりしました。最終的には「共にワクワクする未来をつくる」「みんなが主人公になるためにプレーする」など、選手ならではの言葉になりました。WE ACTION MEETINGで選手たちは、「プロになり、サッカーで生活ができることはすごく幸せなこと」と話していましたが、自分たちが幸せな人生を送らなかったら次の世代につながっていかない、といった選手たちの思いもそこで知ることができました。WE ACTION DAYでの選手たちの言動を見ていても、本気で取り組んでいる姿を頼もしく思います。

「理念推進は選手の中では進んできた。周りを巻き込んで、さらに広げていきたい」と小林美由紀理事

――WEリーグは2シーズン目がスタートしています。理念推進の側面から期待していることを教えてください。

小林　今シーズンは、理念と活動をさらに外に向けて発信していくフェーズにあると思っています。実際に選手やクラブも、理念の実現を目指したい、WEリーグを盛り上げていかなければならない、といった思いをそれぞれが持っていると感じます。そうした考え方や動きを他の女子スポーツにもつなげていきたいと思いますし、選手たちにはもっともっとWEリーグのスポークスマンになってもらいたい。選手の言葉は何よりも響きます。説得力もあります。リーグの競技レベルも上がってきていますので、ピッチの外でも自信を持って、自分の言葉でどんどん発信していってほしいですね。

「WE ACTION」の取り組み

WE ACTION の最新情報はこちら
https://weleague.jp/weaction/

11クラブ座談会を開催
～女子がスポーツを続けるために

WEリーグは11月10日、11クラブ座談会をオンラインで開催した。座談会には各クラブから1名の選手が参加し、「女子がスポーツを続けるために」をテーマにしたディスカッションを行った。

日本では、男子スポーツと異なり、女子スポーツでは多くが10代で競技をやめる傾向にある。スポーツクラブの加入率も、女子の場合は小学校高学年でガクンと下がる。

サッカーを続けたくても女子のクラブチームが近くにないために続けられない、男子チームに交じって続けるにしても成長するにつれ体力面で差が生じるなどのほか、更衣室の問題などもあって競技を継続しにくい環境に置かれてしまう。こうしたことが、女子にとって、サッカーなどのスポーツを続けにくくしている要因なのだ。

WEリーグができてプロ選手となった中にも、女子チームがない環境下でサッカーを続けてきた者はいる。サッカーを続けたくても離れざるを得なかった仲間を見送った選手もいる。

「どうして自分は今までサッカーを続けてこられたのか」「サッカーの魅力は何だろうか」「何が変われば女子がサッカーをずっと続けられるのか」などについて選手たちは考え、意見を出し合い、「選手やクラブができることは何か」という課題に対して正面からぶつかった。

次のステップは、課題解決のために実際のアクションに変えること。座談会に参加した11人の選手はディスカッションした内容をクラブに持ち帰り、再度、チームメートと議論した上でWE ACTIONを起こしていく。

●選手たちの言葉

- 女子のチームが少ないため、一つのチームをやめてしまうと、自分のやりたい頻度や競技レベルに合うチームを見つけることが男子よりも難しい。
- 女子のコーチが少ないため、チームが少ない。
- 今、WEリーガーはC級コーチライセンスを取得しているが、女子のチームを増やしていくためにはとても良いことだと思う。
- WEリーグができて（女子も）プロサッカー選手が職業になった。プロである自分たちが、その後のキャリアを含めて自分のやりたい人生を過ごしていけば、それに憧れる少女も増えるのではないか。
- 幼少期を過ごしたアメリカでは、サッカーをする場所に困らなかった。姉は小5の時にアメリカでサッカーを始めたが、特に問題なく始めることができた。日本に帰ってきてチームを探すのに苦労した。

NEXT STEP

⇒WE ACTION「女子は10代でスポーツをやめちゃう問題」における解決策をクラブで考え、実践する。

●設立の意義

1. 日本の女性活躍社会を牽引する。
2. 日本に「女性プロスポーツ」を根付かせる。
3. 日本の女子サッカーの発展に貢献する。
4. なでしこジャパンを再び世界一にする。

●名称とロゴ

WEリーグは「Women Empowerment League」の略称。これには日本に“女子プロサッカー選手”という職業が確立され、リーグを核に関わるわたしたちみんな（WE）が主人公として活躍する社会を目指す、という思いが込められている。

.WE LEAGUE

ブランドモチーフの「●」は、「サッカーの躍動感」「新たなつながり」「これからの日本」を表す

●WEリーガークレド

※選手が定めた行動規範

WE PROMISE

私たちは、自由に夢や憧れを抱ける未来をつくる。
私たちは、共にワクワクする未来をつくる。
私たちは、互いを尊重し、愛でつながる未来をつくる。
みんなが主人公になるためにプレーする。

WE ACTION DAY

第1節 10月23日

ノジマステラ神奈川相模原「ノジマスポーツフェスティバル」

小学生約100人が参加し、学年、性別、障がいの有無を超えて、みんなが一緒になって多競技のスポーツを楽しんだ。イベントの目的は、それぞれのバックグラウンドなどにとらわれないコミュニケーション、他者への思いやりの心を育んでもらうこと。実行委員を杉田亜未選手、工藤真子選手、出来村亜美選手、野島咲良選手が務めた。株式会社ノジマが支援するスポーツチームのつながりから、プロ野球の横浜DeNAベイスターズの選手OB、アメリカンフットボールのノジマ相模原ライズの選手、チアリーダーたちも駆けつけた。

第2節 10月26日

大宮アルディージャ VENTUS「VENTUS ACTION WEEK」

第2節にあたる週をVENTUS ACTION WEEKとし、埼玉県さいたま市内で学校訪問やサッカー教室を行った。10月26日にはさいたま市立大宮北中学校、同28日には埼玉県立大宮武蔵野高校を訪れ、「ジェンダーについて考えよう！」をテーマに生徒たちと対話。「無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)」について、なぜそのような偏見があるのか、その原因や解決案に踏み込んだ。30日には性別や年齢、国籍などさまざまな属性を持つ人々が参加するサッカー教室を行い、VENTUS ACTION WEEKを締めくくった。

第3節 11月16日

INAC神戸レオネッサ「WE ACTION サッカー教室 in UNDOKAI WORLD CUP」

「UNDOKAI WORLD CUP」は、3日間で約6万人が参加する、淡路島最大のスポーツフェスティバルで、約20種類の競技を楽しむことができる。I神戸は、その大規模イベントにWEリーグ初代チャンピオンとして参加。「年齢・性別問わず、誰もが平等にスポーツを楽しむ場所の提供」を目指し、多くの人々と交流を深めた。

第4節 11月22日

浦和レッズレディース「レッズレディース×埼玉大学生 ワークショップ」

浦和の選手14人とホームタウンにある埼玉大学の学生15人が参加し、思春期をテーマにワークショップを実施。イベントは、「女子サッカーと埼玉」実行委員会委員長の埼玉大学教育学部・薄井俊二教授による講義でスタート。その後、中学生年代にどういった力を獲得させたいか、どういう道を歩んでほしいかを話し合い、「今の中学生年代へ伝えたいこと」を発表した。

ノジマスポーツフェスティバル

VENTUS ACTION WEEK

WE ACTION サッカー教室 in UNDOKAI WORLD CUP

レッズレディース×埼玉大学生 ワークショップ

●「センサリールーム」に2家族を招待

2022-23 Yogibo WEリーグの第5節（12月4日開催／I神戸対EL埼玉）、第7節（12月25日開催／I神戸対AC長野）において、Yogiboプロデュースによってノエビアスタジアム神戸に設置された「センサリールーム」に2家族を招待。

センサリールーム詳細はこちら ▶▶▶ https://weleague.jp/sensoryroom/

スポーツ 夢 実現!!

アスリートのためのスポーツ食

MIZUMA（ミズマ）

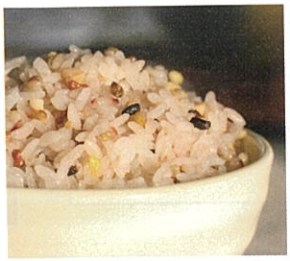
「MIZUMA」はアスリートとして世界で戦った経験と知識を持つ開発者が商品を考案しました。「MIZUMA」にはそんなアスリートとして活躍した開発者の豊かな経験と知識が生きています。

毎日の体づくりの基本に

1小袋につき
アミノ酸
4,284 mg

穀物の力 スポーツ雑穀米

16種類の穀物をスポーツ愛好家のためにブレンドしたアミノ酸スコア100の雑穀米。大豆の配合量が多く、豊富なたんぱく質を手軽に摂取できます。12種類を発芽させて栄養価をアップ。白米と炊くだけで歯ごたえのよい食感に。毎日の食事に雑穀米をプラスしてバランスの良い食生活を。



栄養成分(100g中)

エネルギー	351kcal
たんぱく質	19.4g
脂質	5.5g
糖質	50.6g
食物繊維	10.7g
食塩相当量	0.0g
カリウム	730mg
カルシウム	61mg
マグネシウム	150mg
鉄	2.5mg

アミノ酸スコア100

亜鉛	2.3mg
ビタミンB1	0.48mg
ビタミンB6	0.86mg
ナイアシン	4.9mg
パントテン酸	1.26mg
γ-アミノ酪酸	9mg
たんぱく構成アミノ酸	21.420mg
総ポリフェノール	320mg
大豆イソフラボン	54mg

食品から得られる運動前のエネルギー補給・運動後のリカバリーに

1小袋につき
アミノ酸
3,788 mg

穀物の力パウダー

16種類の穀物をブレンドした、栄養バランスに優れた雑穀パウダー。持ち歩きに便利な小袋タイプで、そのまま食べてもおいしく水に混ぜてもOK。黒糖と雑穀の豊富な栄養から手軽にエネルギーを補給。程よい甘さが空腹感を和らげます。(穀物が溶けないので、混ぜながらお飲みください。)

栄養成分(100g中)

エネルギー	384kcal
たんぱく質	20.1g
脂質	6.7g
糖質	57.2g
食物繊維	7.0g
食塩相当量	0.4g
カリウム	1,600mg
カルシウム	220mg
マグネシウム	190mg
鉄	4.9mg
亜鉛	2.1mg
ビタミンB6	0.37mg
ビタミンB12	2.36μg
ナイアシン	1.7mg
パントテン酸	1.16mg
γ-アミノ酪酸	7mg
たんぱく構成アミノ酸	18,940mg
総ポリフェノール	830mg

※総ポリフェノールには大豆イソフラボンを含みます。　※赤字は健康増進法に基づく栄養表示基準において、豊富と言える栄養素

国内産にこだわった安全・安心な商品で皆様の健康をサポートいたします。

ベストアメニティ
〒830-0102 福岡県久留米市三潴（みづま）町田川32-3
TEL 0120-580-359
ご注文・お問合せはコチラから →

日本サッカーミュージアム

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り（本郷3-10-15）
Tel：050-2018-1990

■営業時間　火～金曜日　12:00～17:00（最終入場16:30）
土・日・祝日　10:00～17:00（最終入場16:30）
特別営業期間 10:00～17:00（最終入場16:30）
■休館日　月曜日（祝日の場合は翌火曜日）
年2回のメンテナンス期間
■入場料　一般大人：550円、小中学生：300円、幼児：無料
団体（20名様以上）・障がい者の方：
大人450円、小中学生200円
※割引については、入場ゲートスタッフまでお問い合わせください。
■URL　https://www.jfa.jp/football_museum/
※臨時休館をしている場合もございますので、JFA公式ウェブサイトで最新の開館情報をご確認の上ご来館ください。

「新しい景色を～SAMURAI BLUE 2022～」展示

日本サッカーミュージアムは11月23日より、地下2階の有料ゾーンで「新しい景色を～SAMURAI BLUE 2022～」と題したFIFAワールドカップカタール2022の企画展示を開始した（終了日は未定）。

展示スペースの左側には、大迫力のSAMURAI BLUE（日本代表）メインビジュアルのパネルが広がる。展示内のモニターには日本サッカー協会（JFA）公認サッカー日本代表応援ソング「勝利の笑みを 君と～日本サッカーのために～」（ウカスカジー）とSAMURAI BLUE 新しい景色を2022公式テーマソング「DAWN (in 2022)」（DISH//）の映像が流れ、気分を盛り上げてくれる。カタール大会の組み合わせ表などの特大パネルも設置されている。

そのほか、9月に行われたキリンチャレンジカップ2022でSAMURAI BLUEが実際に着用したユニフォームを、これまで展示していた1階エントランスから移して展示している。より間近で見られるだけでなく、ユニフォームを隣に写真を撮ることもできる。

ワールドカップをはじめ、各種大会にまつわる常設展示で日本サッカーの歴史に触れることができるミュージアム。今回のワールドカップでのSAMURAI BLUEの快進撃を受け、ミュージアムでもユニフォームや試合球などワールドカップに関連した物品を追加展示しており、連日大盛況となっている。

※予告なく展示物が変更になる場合あり

「FIFAワールドカップカタール2022 パブリックビューイング」を開催

11月27日、日本サッカーミュージアム1階のヴァーチャルスタジアムでFIFAワールドカップカタール2022グループステージ第2戦となるコスタリカ代表戦のパブリックビューイングが開催された。

イベントには、JFA公式アプリ「JFA Passport」ダウンロードキャンペーンの当選者や文京区民の方々を招待。元日本代表の永島昭浩さん、名良橋晃さんをゲストに迎え、試合前やハーフタイムにはゲストが見どころなどを解説。進行役をフリーアナウンサーの日々野真理さんが務めた。招待者はゲストらと共にモニター越しにSAMURAI BLUEを応援した。結果は0-1で敗れたが、全力で戦った選手たちに会場から大きな拍手が送られた。

なお、試合前にはSAMURAI BLUEの主将である吉田麻也選手より、パブリックビューイング来場者へ向けたビデオメッセージも流された。

日本サッカーミュージアム休館のお知らせ

日本サッカーミュージアムは、来年のJFAオフィスの移転に伴い、2023年2月5日（日）をもって休館します。
ミュージアムはサッカーの歴史や貴重な文献を所蔵する施設です。JFAは、その存在価値を最大限に示せる移転先を検討中です。
最終営業日：2023年2月5日（日）10：00～17：00
※当日は休館セレモニーを実施予定（内容は調整中）。
※日本サッカー殿堂は、ミュージアム再開後、間を置かずに公開できるよう、移設先を検討中。併設されている「adidas JFA SHOP」および「JFA STORE 日本サッカーミュージアム店」も同日が最終営業日となる。

年末年始の開館について

日本サッカーミュージアムは、年末年始休館となる12月29日（木）から2023年1月2日（月祝）までの5日間を除き、12月24日（土）から1月9日（月祝）まで冬季特別開館期間として期間中は10時より開館します。
※12月26日（月）および1月9日（月祝）は10：00～17：00（最終入場16:30）で臨時開館

日本サッカーミュージアムを支援いただいている企業（五十音順）　※2022年12月1日現在

株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ
アスカ美装株式会社
カルテック株式会社
キリンビール株式会社
キリンビバレッジ株式会社
KDDI株式会社
広友物産株式会社
株式会社ジエフ
株式会社シミズオクト
株式会社ジャミング
株式会社スケール
ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社
株式会社テレビ東京
株式会社電通
株式会社電通ライブ
西鉄旅行株式会社
公益社団法人日本プロサッカーリーグ
株式会社野村総合研究所
ぴあ株式会社
株式会社ビッグ・バーン
ホテル東京ガーデンパレス
マッシュコーポレーション株式会社
株式会社ムラヤマ
株式会社モルテン
ヤマザキビスケット株式会社

皇后杯 JFA WOMEN'S CHAMPIONSHIP

皇后杯JFA第44回全日本女子サッカー選手権大会が開幕！上位進出を目指して熱戦が続く

皇后杯JFA第44回全日本女子サッカー選手権大会が11月26日に開幕した。決勝は来年1月28日、大阪府のヨドコウ桜スタジアムで行われる。

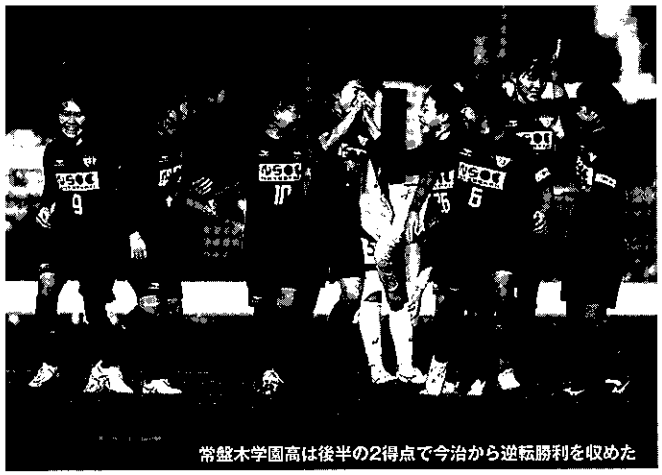
高校や大学チームが上位カテゴリーから白星

第44回皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権大会の1回戦は宮城県、静岡県、三重県、兵庫県、鳥取県の5会場で開催され、各地域代表の25チームとなでしこリーグ1部の9チームが参加した。

セレッソ大阪堺レディース（大阪府）やオルカ鴨川FC（千葉県）など、なでしこリーグ1部のチームが順当に勝ち上がる中、地域代表の座を勝ち取った大学や高校チームが健闘を見せた。藤枝順心高校（東海2／静岡県）は辻澤亜唯がハットトリックを達成し、3-0で福岡J・アンクラス（九州3／福岡県）を下す。筑波大学（関東6／茨城県）はスペランツァ大阪（なでしこ1部／大阪府）と対戦し、延長戦の末に2-1で勝利をつかんだ。早稲田大学（関東2／東京都）はバニーズ群馬FCホワイトスター（なでしこ1部／群馬県）を3-1で撃破して2回戦進出を決めた。

初出場は札幌大学ヴィスタ（北海道2）、東海大学（関東5／神奈川県）、リリーウルフ・F石川（北信越1／石川県）の3チームだったが、いずれも大会初勝利はならず。一方で、初出場の前回大会に続き2度目の出場となったヴィアマテラス宮崎（九州1／宮崎県）とFCふじざくら山梨（関東7／山梨県）が大会初勝利を手にした。ふじざくらは、なでしこ1部の日体大SMG横浜（なでしこ1部／神奈川県）に1-0で競り勝つという番狂わせを起こした。

2回戦からはなでしこリーグ1部の上位3チームが参戦し、上位進出を目指す戦いはさらに熱を帯びるはずだ。


常盤木学園高は後半の2得点で今治から逆転勝利を収めた

東洋大は終始、ノルディーア北海道を圧倒し5-0で快勝

WEリーグチームは4回戦から出場

WEリーグ開幕初年度で迎えた前回大会は、前身のさいたまレイナスFC時代を含めて7度目の決勝進出となった三菱重工浦和レッズレディースが、悲願の初優勝を果たした。ベスト4には、なでしこリーグ1部のC大阪堺と日テレ・東京ヴェルディメニーナが入り、その快進撃も注目を集めた。中でも、日テレ・東京ヴェルディベレーザの育成組織であるメニーナは、INAC神戸レオネッサ、大宮アルディージャVENTUSを連破して準決勝まで勝ち上がった。今大会は、メニーナが関東予選で敗退して出場を逃したが、前回大会のように上位カテゴリーのチームから金星を挙げる"ジャイアントキリング"が起こるのか、注目が集まる。

WEリーグチームが登場するのは12月17日と18日に行われる4回戦から。ディフェンディングチャンピオンの浦和は、AC長野パルセイロ・レディースと対戦する。前回大会で準優勝したジェフユナイテッド市原・千葉レディースは、アルビレックス新潟レディースとの一戦が待ち受けている。

2023年1月28日の決勝にたどり着くのはどのチームか。皇后杯を懸けた熱い戦いに注目だ。

初出場の札幌大は序盤の失点が響き、大差を付けられて敗退した

大会の日程や結果などはJFA.jp内大会ページをご参照

※大会結果および準決勝・3位決定戦・決勝戦の公式記録、参加選手名は47～50ページに掲載

第29回全国クラブチームサッカー選手権大会

[大会概要]
10月29日～11月1日、三重県・三重交通Gスポーツの杜 鈴鹿 サッカー・ラグビー場で開催。9地域と三重県（前年度の国民体育大会の開催地）の代表16チームが参加し、ノックアウト方式で優勝を争う。試合時間は70分（35分ハーフ）。

OKFCが短期決戦を制して初の日本一に輝く

先制ゴールを挙げたOKFCの10番・沼田大輝。「連戦で疲れも溜まっているので、早めに先制点を取りたいとゴールを意識していた」と得点シーンを振り返った

全国クラブチームサッカー選手権大会は、都道府県リーグで活動する社会人チームの頂点を決める大会として1994年にスタートし、今年で29回目を迎えた。今大会は三重県を舞台に全国から16チームが集結し、熱い戦いが展開された。

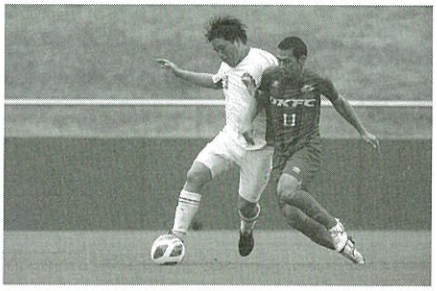
1回戦から接戦が繰り広げられる。8試合のうち2試合が1点差のゲームとなり、2試合がPK戦での決着となった。準々決勝でも4試合のうち3試合がPK戦にもつれ込む。ベスト4には開催県代表のTSV1973四日市（四日市市）とE・X・D（伊賀市）、FC KUROSHIO 84（四国／高知県）、OKFC（関西／大阪府）が勝ち上がった。

準決勝の第1試合、TSV1973対KUROSHIOは点の取り合いとなり、4-4からPK戦に突入。これを5-4で制したKUROSHIOが決勝に駒を進めた。E・X・DとOKFCによる第2試合も互いに譲らず、1-1から迎えたPK戦の末、3-1で競り勝ったOKFCが決勝進出を決めた。

雨の中で行われたKUROSHIOとOKFCの決勝戦、先手を取ったのはOKFCだった。3分、相手ボールを拾った沼田大輝がドリブルで持ち込み、左足のシュートで均衡を破った。その後も「自分たちがやりたいパスサッカーを具現化できた」という金大監督の言葉通り、OKFCは多くのチャンスをつくる。12分にPKで、31分にはヘディングで濱中優俊が2点を追加した。一方、「選手全員の理解を得た上で、先発にはこれまで出場機会が少なく、裏側で支えてくれた選手を中心に起用した」（久保田聖也監督）というKUROSHIOは攻撃の糸口をなかなかつかめず、防戦一方の展開となった。

前半途中でメンバーを入れ替え、反撃を試みるKUROSHIOだったが、OKFCの勢いを止めることができない。OKFCは、後半にも尾野匡祐の2ゴールでリードを広げ、安定した守備を見せて5-0で勝利。初優勝を成し遂げた。

OKFCの金監督は「勝ち進むにつれ、日本一になろう、チームのために頑張ろうという気持ちがより強くなっていった」と総括した。一方、KUROSHIOの久保田監督は「前回出場したときのベスト8以上を目標とする中で、チームが一つになってここまで勝ち上がることができた。決勝は負けてしまったが、力を出し切れた」と振り返った。



4日間で4試合目となるハードスケジュールの上、決勝は雨中の激戦となった。両チームが優勝を目指して火花を散らした

惜しくも準優勝となったFC KUROSHIO 84。久保田聖也監督は「決勝は点差をつけられたが、それ以上に選手が楽しくプレーしていると感じた。それだけで満足」と語った

OKFCのキャプテン、森永佑（中央）は「日本一になれてうれしい。いろいろなスタイルのチームがいて対応は難しかったが、みんなで話し合いながら前向きに取り組めたのが良かった」と喜びを口にした

JFA 第10回全日本O-40サッカー大会

[大会概要]
11月5日から7日、藤枝総合運動公園サッカー場を含む4会場で開催。各地域から選出された16チームが4グループに分かれてリーグ戦を行い、各グループ1位チームが決勝ラウンドに進出。4チームによるノックアウト方式で優勝を決定する。

開催地代表の藤枝フットボールクラブが初優勝！

かつて甲府や京都で活躍した秋本倫孝も藤枝フットボールクラブでプレー

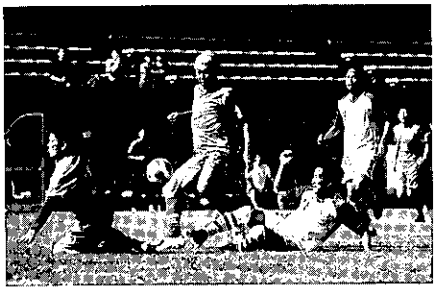
JFA 全日本O-40サッカー大会は前回と同様、静岡県藤枝市で開催され、全国から集った16チームが1次ラウンドから激戦を繰り広げた。前回大会でベスト4に進出した藤枝フットボールクラブ（開催地／静岡県）、TONAN CLUB（関西／奈良県）、FC船橋（関東3／千葉県）、羅針盤倶楽部NAGOYA（東海／愛知県）はグループが分かれたため、1次ラウンドは前回大会の4強対各地域代表という構図となった。

連覇を狙ったグループCのFC船橋とグループBのTONANは3試合全て引き分けに終わり、共にグループ3位で大会を後にした。前回大会の準優勝チームで2016年に優勝を経験している羅針盤倶楽部は、グループDで2勝1敗と健闘したが、勝ち点で及ばず2位で敗退。2大会連続でベスト4に入ったのはグループAの藤枝のみという波乱含みの展開となった。

準決勝はいずれも接戦となる。藤枝と広島フォーティーズ（中国／広島県）の一戦は、前半をスコアレスで折り返すと、後半開始から6分に藤枝が先制ゴールを挙げ、1-0で決勝に駒を進めた。もう一方のSOL TODA（関東2／埼玉県）といわきシニアFC（東北1／福島県）の対戦は、前後半に1点を重ねたSOL TODAが初の決勝進出を決めた。

決勝も緊迫の一戦となった。突破力のあるツートップにボールを集めるSOL TODAに対し、パスワークを生かして勝ち進んできた藤枝が決勝でもその力を発揮した。縦パスを受けたセンターフォワードの杉山和弘が相手DFの間にラストパスを送ると、これに井口大輔が反応。井口が冷静にゴール右隅に流し込み、藤枝が先制。SOL TODAも後半から3人の選手を投入し、システムも変更して反撃に出る。しかし、藤枝がボールを支配する時間が続く。試合はそのまま1-0で終了し、藤枝が初優勝に輝いた。

決勝ゴールをアシストした杉山は「この大会に懸けて1年間やってきたので、涙が込み上げてきてしまった。最後は気持ちの勝負。相手も勝利を狙ってくるので、本当に紙一重の差だった」と、喜びのコメントを口にした。


前回大会で準優勝の羅針盤倶楽部NAGOYAは、2勝1敗で惜しくも1次ラウンド敗退

第3回大会以来の決勝進出を狙った広島フォーティーズは、準決勝で藤枝に惜敗した

藤枝との決勝、SOL TODAはキャプテンマークを巻く長瀬博一を中心に攻め込むもゴールは遠かった

JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

SAMURAI BLUE

©JFA / キリンチャレンジカップ2022 対アメリカ代表戦 先発メンバー (2022.9.23)

OFFICIAL PARTNER

OFFICIAL SUPPLIER

SUPPORTING COMPANIES

奈良クラブが初優勝！ J3昇格を決める

JFLへの注目度が上昇 多数の記録更新も

今シーズンの日本フットボールリーグ（JFL）は、3月13日に幕を開け、約8カ月にわたって全国各地で熱戦を繰り広げてきた。今年もコロナ禍や悪天候の影響で延期される試合はあったが、16チームによるホーム&アウェイ方式の総当たりで、予定されていた240試合全てが無事に終了した。

今年は鈴鹿ポイントゲッターズに三浦知良が加入したことで、記録更新が数多くあった。55歳の三浦は試合に出場するたびにリーグ最年長出場記録を更新した。先発メンバーに名を連ねた最終節では、2009年にアマラオ（当時FC刈谷に在籍）が記録した43歳9日の最年長出場記録を55歳267日へと大幅に更新。最年長ゴール記録も2度塗り替えた。第29節では、CKのボールを頭で合わせてJFL最年長ゴール記録を55歳259日としている。

また、三浦の存在はリーグ全体の注目度を引き上げ、鈴鹿のみならず他チームにも良い影響をもたらした。三浦擁する鈴鹿をホームに迎えた試合で7クラブが各クラブ史上最多となる観客数をマーク。中でも、クリアソン新宿が国立競技場で開催した第24節では、1万6218人が来場した。08年に栃木グリーンスタジアムで行われた栃木SC対FC刈谷戦の1万3821人を大きく上回り、これまで14年間破られていなかったリーグ歴代最多入場者数を更新。リーグ全体としては、年間で27万477人の観客が来場した。1試合の平均観客数も1127人となり、初めて1試合平均が1000人を超えた。

14年にJ3リーグがスタートしてから10年目となる来シーズンからはJ3との入れ替え戦が導入され、JFLへの注目度はさらに上がることが期待される。リーグ全体、そして、各クラブにとっても新たなスタートを切るための準備となるシーズンとなった。

奈良クラブとFC大阪がJ3に参入

リーグ戦では、昨シーズン、勝ち点4差でいわきFCに優勝を譲ったHonda FC、FCマルヤス岡崎、東京武蔵野ユナイテッドFCが首位を争う展開となった。加えて、J3参入に名乗りを上げていた6クラブの中からラインメール青森、ヴィアティン三重、奈良クラブ、FC大阪、ヴェルスパ大分も上位争いに参戦。その結果、16勝11分け3敗と勝ち点の取りこぼしが3試合のみだった奈良が初優勝を果たした。リーグ最多の17勝を挙げたFC大阪は、勝ち点で奈良と並んだが、得失点差で上回って準優勝に。15年にJFLに入会した両クラブが来シーズンからJ3に参入する。そして上位2チームに勝ち点3差で及ばなかったものの、得失点差では最多を記録したHonda FCが3位となった。奈良とFC大阪のJ3参入に伴い、15位の新宿と16位のMIOびわこ滋賀は地域リーグへの降格を免れ、来シーズンもJFLで戦う。

第24回日本フットボールリーグ 順位表

順位	チーム名	勝ち点	得失点差
1	奈良クラブ	59	23
2	FC大阪	59	13
3	Honda FC	56	24
4	ラインメール青森	51	12
5	FCマルヤス岡崎	49	14
6	東京武蔵野ユナイテッドFC	48	16
7	ヴィアティン三重	45	14
8	ヴェルスパ大分	43	-4
9	鈴鹿ポイントゲッターズ	41	-9
10	ホンダロックSC	36	0
11	高知ユナイテッドSC	34	-9
12	FC神楽しまね	34	-10
13	FCティアモ枚方	32	-10
14	ソニー仙台FC	28	-16
15	クリアソン新宿	24	-22
16	MIOびわこ滋賀	21	-36

※戦績表は52ページに掲載

三浦知良が鈴鹿ポイントゲッターズに加入し、迎えたJFLでの初シーズン。その存在は多方面に好影響をもたらした

全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2022

ブリオベッカ浦安が初優勝！JFL昇格を決める

※大会結果は49ページに掲載

沖縄SVは高原直泰選手兼任監督の下、チーム一丸となった戦いでJFL初昇格の切符をつかんだ

全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2022は、9地域リーグの王者と全国社会人サッカー選手権大会の上位3チームの12チームが出場し、日本フットボールリーグ（JFL）昇格を懸けてハイレベルな戦いを繰り広げた。

3グループに分かれて行われた1次ラウンドは、3日間の連戦となった。各グループ1位のFC刈谷（東海／愛知県）と沖縄SV（九州／沖縄県）、ブリオベッカ浦安（全社1／千葉県）と、全グループ2位のうち勝ち点7と最も良い戦績だった栃木シティFC（関東／栃木県）が決勝ラウンドに進出。沖縄にとってはJFL初昇格、残り3チームにとってはJFL復帰を目指す戦いとなった。

中1日で行われた決勝ラウンドの第1節、沖縄と浦安は0-0の引き分けとなり、栃木Cと刈谷の対戦は栃木Cが2-0で勝利した。第2節では沖縄と栃木Cがスコアレスドロー、浦安が試合終了間際の劇的弾で刈谷を1-0で下した。その結果、栃木Cと浦安が勝ち点4で並び、勝ち点2の沖縄がそれを追う形となった。

命運が懸かった第3節。第1試合では沖縄と刈谷が対戦した。ここまで得失点0の沖縄は、勝ち点を得た上で得失点差も積み上げたいところ。落ち着いて試合を運ぶと、前半のうちに山田雄太の2ゴールを含む3点を奪い、4-0でこれを制した。元日本代表の高原直泰選手兼監督の下、4年連続4度目の挑戦となった今大会を無失点で終えた沖縄。高原監督は試合後、「選手たちはやってきたことを信じ、戦ってくれた。このような経験をさせてくれた選手・スタッフに感謝している」と語った。

沖縄が勝ち点と得失点差を伸ばしたことで、第2試合に臨む浦安は勝利が、栃木Cは引き分け以上がJFL昇格の条件となった。

先にスコアを動かしたのは浦安だった。32分に伊藤純也が先制し、さらに後半立ち上がりに村上弘有が2点目を奪う。栃木Cは吉田篤志の1点で追い上げるが、87分には再び浦安が上松瑛のゴールで栃木Cを突き放し、3-1で勝利。この結果、優勝は勝ち点7の浦安、準優勝は勝ち点5の沖縄、3位は勝ち点4の栃木となり、浦安と沖縄のJFL昇格が決まった。「監督として胴上げされるのが夢だった」という浦安の都並敏史監督は、「感謝の気持ちを大切に、高いレベルのサッカーを見せ、地域の皆さんに愛されるクラブにしていきたい」と新たな夢を語った。

栃木シティFC（右）はあと一歩及ばず第3位に。JFL復帰はかなわなかった

2022明治安田生命

J1リーグ

横浜F・マリノスが5度目の栄冠に輝く！

最終節までもつれた今シーズンのJ1リーグを制したのは、総合力に勝る横浜F・マリノスだった。就任2年目のケヴィン・マスカット監督は攻守のバランスが取れたチームをつくり上げ、3年ぶり5度目の優勝に導いた。5月下旬の第16節から首位に立ち、その後6連勝するなど、安定して勝ち点を積み重ねた。第32、33節と2連敗を喫して足踏みしたものの、残り2試合で底力を発揮して首位を堅持した。特筆すべきはリーグ最多の70ゴールを挙げた攻撃力。レオ・セアラ、アンデルソン・ロペス、西村拓真の3人が2桁得点をマークした。堅陣も光り、失点数の「35」はリーグ最少タイ。守備の要となった岩田智輝は、初の最優秀選手賞を受賞した。

3連覇を狙う川崎フロンターレは、最終節まで優勝の可能性を残していたが、勝ち点2差の2位でフィニッシュ。シーズン終盤には、首位をひた走る横浜FMに迫るなど粘り強さを見せた。際立ったのは個の能力だ。36歳の家長昭博とマルシーニョがチーム最多タイの12点をマークするなどし、5人がベストイレブンに選出された。

3位のサンフレッチェ広島は2位と勝ち点11差をつけられたが、昨シーズンの11位から躍進した。強度の高いプレスでボールを奪取。大卒1年目の満田誠ら若さあふれる選手らが躍動し、旋風を巻き起こした。就任1年目のミヒャエル・スキッベ監督は、優秀監督賞を受賞した。

王座奪還を狙った鹿島アントラーズは昨シーズンに続いて4位。シーズン途中で指揮官を交代し、OBの岩政大樹監督が立て直しを図ったものの、追い上げることはできなかった。

一方、継続体制で一定の成功を収めたクラブもあった。小菊昭雄監督が率いるC大阪は昨シーズンの12位から5位へ、ネルシーニョ監督は柏レイソルを昨シーズン15位から7位に引き上げている。

レギュラーシーズン、し烈を極めた残留争いで生き残ったのは、ガンバ大阪とアビスパ福岡だった。昇格組の京都サンガF.C.は16位でJ1参入プレーオフに回ったが、J2のロアッソ熊本を退け、降格を免れた。涙をのんだのは、"サッカー王国"の2クラブだ。ジュビロ磐田は最下位に沈み、清水エスパルスは、得点王に輝いたチアゴ・サンタナを擁しながら17位で2015年以来2度目のJ2へ。Jリーグ開幕30年目で初めてJ1から静岡勢が消えることになった。

■J1年間順位表

順位	チーム名	勝ち点	得失点差
1	横浜F・マリノス	68	35
2	川崎フロンターレ	66	23
3	サンフレッチェ広島	55	11
4	鹿島アントラーズ	52	5
5	セレッソ大阪	51	6
6	FC東京	49	3
7	柏レイソル	47	-1
8	名古屋グランパス	46	-5
9	浦和レッズ	45	9
10	北海道コンサドーレ札幌	45	-10
11	サガン鳥栖	42	1
12	湘南ベルマーレ	41	-8
13	ヴィッセル神戸	40	-6
14	アビスパ福岡	38	-9
15	ガンバ大阪	37	-11
16	京都サンガF.C.	36	-8
17	清水エスパルス	33	-10
18	ジュビロ磐田	30	-25

※戦績表は50～51ページに掲載

■J1得点ランキング

順位	選手名	チーム名	得点
1	チアゴ・サンタナ	清水エスパルス	14
2	町野修斗	湘南ベルマーレ	13
3	アダイウトン	FC東京	12
3	マルシーニョ	川崎フロンターレ	12
3	家長昭博	川崎フロンターレ	12

2022Jリーグ最優秀選手賞を受賞した横浜FMの岩田智輝。DFの選出は16年ぶり4人目の快挙となった

アルビレックス新潟がJ2優勝を飾る！横浜FCもJ1へ

2022明治安田生命 J2リーグ

J2では、シーズンを通して安定して力を発揮した2チームがJ1昇格を果たした。

アルビレックス新潟は、2試合を残した第40節に自動昇格を確定させて6年ぶりのJ1復帰を決めると、翌節には優勝が決定。第17節から自動昇格圏の2位以内をキープした強さは、頭一つ抜けていた。就任1年目の松橋力蔵監督は前任のアルベル監督が築いたポゼッションサッカーを継続し、主導権を握りながら勝ち点を積み重ねた。シーズン途中に背番号10を背負う本間至恩がベルギーへ移籍したが、チーム力を落とすことはなかった。主将の堀米悠斗をはじめ、GK小島亨介、攻撃の核となった伊藤涼太郎ら6人がベストイレブン入りを果たすなど、全員が主役となる活躍ぶりを見せた。

2位でフィニッシュした横浜FCは、1年でJ1に返り咲いた。昨シーズンはJ1最下位に沈んだものの、今シーズンは四方田修平新監督の下で再出発。開幕から13戦負けなしと序盤で勝ち点を稼いだ。シーズン半ばに自動昇格圏外の3位に転落した時期もあったが、終盤から盛り返した。得点源となった小川航基は26ゴールを挙げて得点王に輝き、新設されたJ2の初代最優秀選手にも選ばれた。すでにJ1への切符を手にしていた最終節も勝利で締めくくり、日本代表として長く活躍した中村俊輔の引退に花を添えた。

大混戦となったのは、J1参入プレーオフ出場圏内の争いだ。最終節にモンテディオ山形が7位からボーダーラインの6位に滑り込んだ。昨シーズン、J1を戦った徳島ヴォルティスは23試合で引き分けと勝ち切れない試合が多く、最後に6位から8位に転落。1年での復帰を目指したベガルタ仙台はシーズン半ばから失速し、監督交代も奏功せずに7位のままシーズンを終了した。

3年ぶりに開催された参入プレーオフ決定戦を勝ち抜いたのは、4位のロアッソ熊本だった。3位のファジアーノ岡山が初戦で6位の山形に敗れる中、J3から昇格したばかりのチームは快進撃を続けた。参入戦ではJ1・16位の京都サンガF.C.と引き分け、レギュレーションによりJ2昇格は果たせなかったが、大健闘した。限られた戦力でJ2をかき回した大木武監督には、優秀監督賞が贈られている。

J3に降格したのは、昨シーズン9位のFC琉球とJ3から昇格してきたばかりのいわてグルージャ盛岡となった。

■J2年間順位表

順位	チーム名	勝ち点	得失点差
1	アルビレックス新潟	84	38
2	横浜FC	80	17
3	ファジアーノ岡山	72	19
4	ロアッソ熊本	67	10
5	大分トリニータ	66	10
6	モンテディオ山形	64	22
7	ベガルタ仙台	63	8
8	徳島ヴォルティス	62	13
9	東京ヴェルディ	61	7
10	ジェフユナイテッド千葉	61	2
11	V・ファーレン長崎	56	-4
12	ブラウブリッツ秋田	56	-7
13	水戸ホーリーホック	54	1
14	ツエーゲン金沢	52	-13
15	FC町田ゼルビア	51	1
16	レノファ山口FC	50	-3
17	栃木SC	49	-8
18	ヴァンフォーレ甲府	48	-7
19	大宮アルディージャ	43	-16
20	ザスパクサツ群馬	42	-21
21	FC琉球	37	-24
22	いわてグルージャ盛岡	34	-45

※戦績表は51ページに掲載

■J2得点ランキング

順位	選手名	チーム名	得点
1	小川航基	横浜FC	26
2	チアゴ・アウベス	ファジアーノ岡山	16
3	中山仁斗	ベガルタ仙台	14
3	髙橋利樹	ロアッソ熊本	14
5	佐藤凌我	東京ヴェルディ	13
5	林誠道	ツエーゲン金沢	13

1年でJ1への復帰を果たした横浜FC。小川航基はJ2初代最優秀選手に輝いた

2022明治安田生命 J3リーグ

いわきFCが参入1年目で優勝し、J2へ！
藤枝MYFCもJ2へ初昇格

J3ではいわきFCが一大旋風を巻き起こし、Jリーグ参入1年目にしてJ2昇格を決めると、リーグ優勝の栄冠を手にした。クラブは2016年に本格的に始動。福島県2部リーグからスタートし、次々とカテゴリーを上げて、7年目でJ2への扉を開いた。今シーズンの戦いぶりも堂々たるものだった。7月の第19節でトップに立つと、一度も首位を譲らず、2試合を残して優勝を確定させた。フィジカルに特化した練習で鍛え上げられた若い選手らが躍動。得点力は群を抜いており、34試合でリーグ最多72ゴールをマーク、2位とは14点差をつけた。大卒1年目の有田稜が17ゴールを挙げて得点王と最優秀選手賞を受賞するなど、個人にもスポットライトが当たった。

混戦を極めたのは2位争いだ。J2昇格への残り1枠をめぐる戦いは最終節までもつれた。

シーズン半ばに首位に立った鹿児島ユナイテッドは、終盤にまさかの失速。第29節から3敗を含む4試合勝ちなしと大きくリズムを崩した。昇格圏内の2位から3位に転落すると、そのままフィニッシュした。J1経験を持つ松本山雅FCは名波浩監督の下、1年でのJ2復帰を目指したが、勝負どころで勝ち点を積み上げられなかった。第32節からの連続4失点を喫しての2連敗は痛恨。鹿児島と共に勝ち点1及ばず4位でシーズンを終えた。

ライバルが足踏みする中、接戦を制したのは藤枝MYFCだった。須藤大輔監督はボールを丁寧につないでゲームの主導権を握るスタイルを貫き、最後に2位を確保した。攻撃をけん引したのは、大卒で藤枝に加入し、3年目を迎えた横山暁之。チーム最多となる13得点8アシストをマークし、クラブ初のJ2昇格に大きく貢献した。

元日本代表監督の岡田武史がオーナーを務めるFC今治は着実に力をつけており、昇格圏内に迫る5位で終えた。昨シーズン、昇格争いを演じたテゲバジャーロ宮崎は、勢いに乗れず、9位。シーズン前に元日本代表コンビの田中順也、宇賀神友弥らを補強して注目を集めたFC岐阜は、序盤から歯車が噛み合わずに苦戦する。監督交代などでも状況は好転せず、14位に沈んだ。J3も大型補強だけでは勝てないリーグになりつつある。

藤枝MYFCは混戦を制し、初のJ2昇格を決めた

■J3年間順位表

順位	チーム名	勝ち点	得失差
1	いわきFC	76	49
2	藤枝MYFC	67	29
3	鹿児島ユナイテッドFC	66	16
4	松本山雅FC	66	13
5	FC今治	60	15
6	カターレ富山	60	7
7	愛媛FC	52	10
8	AC長野パルセイロ	52	1
9	テゲバジャーロ宮崎	46	-2
10	ヴァンラーレ八戸	43	-14
11	福島ユナイテッドFC	42	-8
12	ガイナーレ鳥取	41	-1
13	ギラヴァンツ北九州	40	-4
14	FC岐阜	37	-10
15	アスルクラロ沼津	31	-19
16	Y.S.C.C.横浜	28	-41
17	カマタマーレ讃岐	27	-22
18	SC相模原	25	-19

※戦績表は51～52ページに掲載

■J3得点ランキング

順位	選手名	チーム名	得点
1	有田稜	いわきFC	17
2	藤岡浩介	FC岐阜	16
3	石川大地	ガイナーレ鳥取	15
3	有田光希	鹿児島ユナイテッドFC	15
5	岡田優希	テゲバジャーロ宮崎	14

特別企画

スタジアムの熱量と競技力向上がJリーグの価値をさらに高める

2022シーズンのJリーグを終え、野々村芳和Jリーグチェアマン（日本サッカー協会副会長）に今シーズンの総括と2023シーズンに向けた課題、Jリーグのビジョンなどについて聞いた。

●オンライン取材日：2022年11月25日

声援が大きな活力に 醸成されてきたクラブ哲学

――2022年はJリーグにとってどのようなシーズンになったとお考えですか。

野々村　おおむね前に進むことができたシーズンでした。コロナ禍の影響は少し残っていますが、通常に近い形のコンペティションになってきたのかなと感じています。

――シーズン途中からコロナ禍で制限されていた声出し応援が一部解禁されたことも大きいと思います。現場を視察され、肌で感じられたことはありますか。

野々村　約2年間、聞くことのできなかった熱量のある声援を耳にしたときは感動しました。選手、監督、チームスタッフもみんな、心を震わせたはずです。クラブ力というのはファン・サポーターを含めて測るものだと思っています。あらためて声援のありがたみを感じました。クラブによって「最良の作品（試合）」の在り方は異なりますが、声出し応援が戻ったことで、それぞれ最良の作品に近づいたのではないでしょうか。見ている人たちの喜ぶ声が選手たちに直接届くことはとても価値のあること。選手たちはそれを力に変えてより良いプレーを発揮し、それが素晴らしい試合を生み出すといっても過言ではないからです。

――コロナ禍でプロ入りした選手たちは、Jリーグの舞台で一度も声援を聞いたことがなかったので、スタンドの声援を受けて「これがJリーグなんだ」と感慨深そうに話す選手もいました。

野々村　プロ3年目までの選手は、Jリーグで名前をコールされたこともなければ、チャント（応援歌）を聞くこともなかったでしょうからね。ようやくJリーグ本来の姿に戻りつつあります。

――競技面についての総括をお聞きします。まずJ1リーグはいかがでしたか。

野々村　今季も良い意味でどこが勝つか最後まで分からなかった。Jリーグはまだ、クラブの規模でチャンピオンが決まるような段階ではありません。その中でも、リーグの上位を占めたクラブは、ロジカルなサッカーで見る人たちを楽しませていました。それは良い傾向だと思います。それぞれのクラブ哲学が見えた点は、10年前に比べて大きく変わったところですね。優勝した横浜F・マリノス、2位の川崎フロンターレは共にサッカーを進化させています。インテンシティーが高く、攻守の切り替えも速い。グローバルスタンダードのサッカーに近いですよね。もちろん、全てのチームが同じスタイルである必要はありません。J1残留を最優先に考えるチームは守備に重きを置いた戦い方を選択することもあるでしょう。各クラブが立ち位置を理解し、ピッチで表現するようになってきました。

――J2はいかがでしょうか。

野々村　優勝して昇格を決めたアルビレックス新潟は、J1の上位チームと似たようなサッカーをしていました。前任のアルベル監督（現、FC東京）が2年かけてベースを築いたものを松橋力蔵監督が引き継ぎ、しっかりと結果を残した。クラブとしてぶれずに哲学を貫いてきた証左だと思います。手本となるよ

インタビュー
野々村芳和
Jリーグチェアマン

うな成長を遂げていますよね。

昨年J2へ昇格したロアッソ熊本は惜しくもJ1昇格を逃しましたが、目を見張るような躍進ぶりでした。J1参入プレーオフ決定戦を盛り上げ、素晴らしいサッカーを見せていましたからね。大木武監督の指導力には敬服するばかりですが、彼はチームを劇的に変化させる手腕を持っています。

J2は面白いトライをするチームが多いですね。多様性のあるサッカーをJリーグにいかに持ち込めるか。リーグ全体としても考えていきたいです。チャレンジするチームが増えてくれれば、もっと楽しくなります。

――J3でも特徴のあるチームが旋風を巻き起こしました。

野々村　J2昇格を決めたいわきFCはビジョンを持ち、特徴的なサッカーで結果を残したと思います。フィジカルを前面に押し出したスタイルを貫くのも面白いトライだと思いました。

優勝争いが最終節までもつれこんだJ1リーグは横浜F・マリノスが首位を守った。上位陣はどこもインテンシティーの高さとクラブの哲学を発揮

■クラブ力を試される時代に

――チェアマンに就かれた当初、試合レベルの数値化を目指すことも話されていました。

野々村　いま時間をかけて取り組んでいるところです。9月に新設した「フットボール委員会」で、目指す方向性を議論し、分かりやすい数字で示せるようにしていく考えです。根本的な問題として、ゲームを取り巻く環境は大事。例えば、5000人収容のスタジアムであっても満員で熱狂的な応援があれば、選手たちのインテンシティーは上がります。サッカーのレベルを上げるためにJリーグができることは、熱量を生み出すゲーム環境をいかにつくり出すか、だと思っています。

――11月に発表された「Jリーグ新たな成長戦略とリーグ組織の構造改革」（32ページ参照）にもリンクしてくる話ですね。

野々村　もちろんです。Jリーグの魅力、そしてピッチ上のレベルを上げていくためには、各クラブの競争力を高めていく必要があります。今後はクラブ力を試される時代になっていきます。

――来季以降、各クラブへの配分金の割合を変更する方針も打ち出しています。

J2優勝と同時にJ1昇格を果たしたアルビレックス新潟。序盤は苦戦したが攻撃的なサッカーを貫き、シーズンを戦い抜いた

野々村　Jリーグとヨーロッパのリーグを比較すると、トップリーグと下位リーグの配分金割合が大きく異なる現状がありました。日本ではJ1とJ2の割合は2対1ですが、海外の1部リーグと2部リーグはもっと差があります。例えば、スペインは9対1、ドイツは6対1です。日本もJ1の価値をもっと高めたい。トップカテゴリーに上がれば大きな収益が出るという仕組みにすれば、競争力もより高まるはずです。クラブとしては、上に行くためにあらゆる努力をするでしょう。クラブスタッフもよりプロフェッショナルになっていく。これからは監督を引き抜くだけではなく、海外のように優秀なスポーツディレクター、社長を取り合うようなフェーズに入っていかなければ世界から取り残されてしまいます。

――世界に伍するトップクラブを育てていくと。

野々村　世界を見渡せば、その国のリーグの魅力や価値はトップ5、トップ10のクラブの人気、実力と同等です。日本もそうなっていかなければ、ビジネス的な成長が鈍るでしょう。リーグ全体の収益において放映権の占めるウエイトは大きいですからね。ナショナル（グローバル）コンテンツとして輝くものにしていきたい。ただし、フットボールの観点をおざなりにはしません。だからこそ、フットボール委員会を設置したんです。競技力を向上させるために何が最善なのかを考えた上でビジネスのことも考えていきます。

――Jリーグは、アジアで大きな存在感を示しています。今シーズンのAFCチャンピオンズリーグでは、浦和レッズが決勝（23年2月開催）に進出しています。

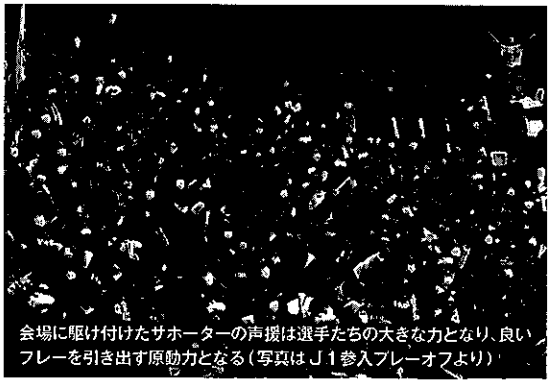
野々村　Jリーグを代表して浦和がアジアの舞台でファイナルに進出したことは、誇らしいことです。今季、出場したJリーグ勢も実力的には決勝に駒を進めるだけの地力を持っていたと思います。今後は毎シーズン、圧倒的な力を示して優勝を争ってもらいたい。むしろ、アジアでは絶対的な存在でなければならないでしょう。

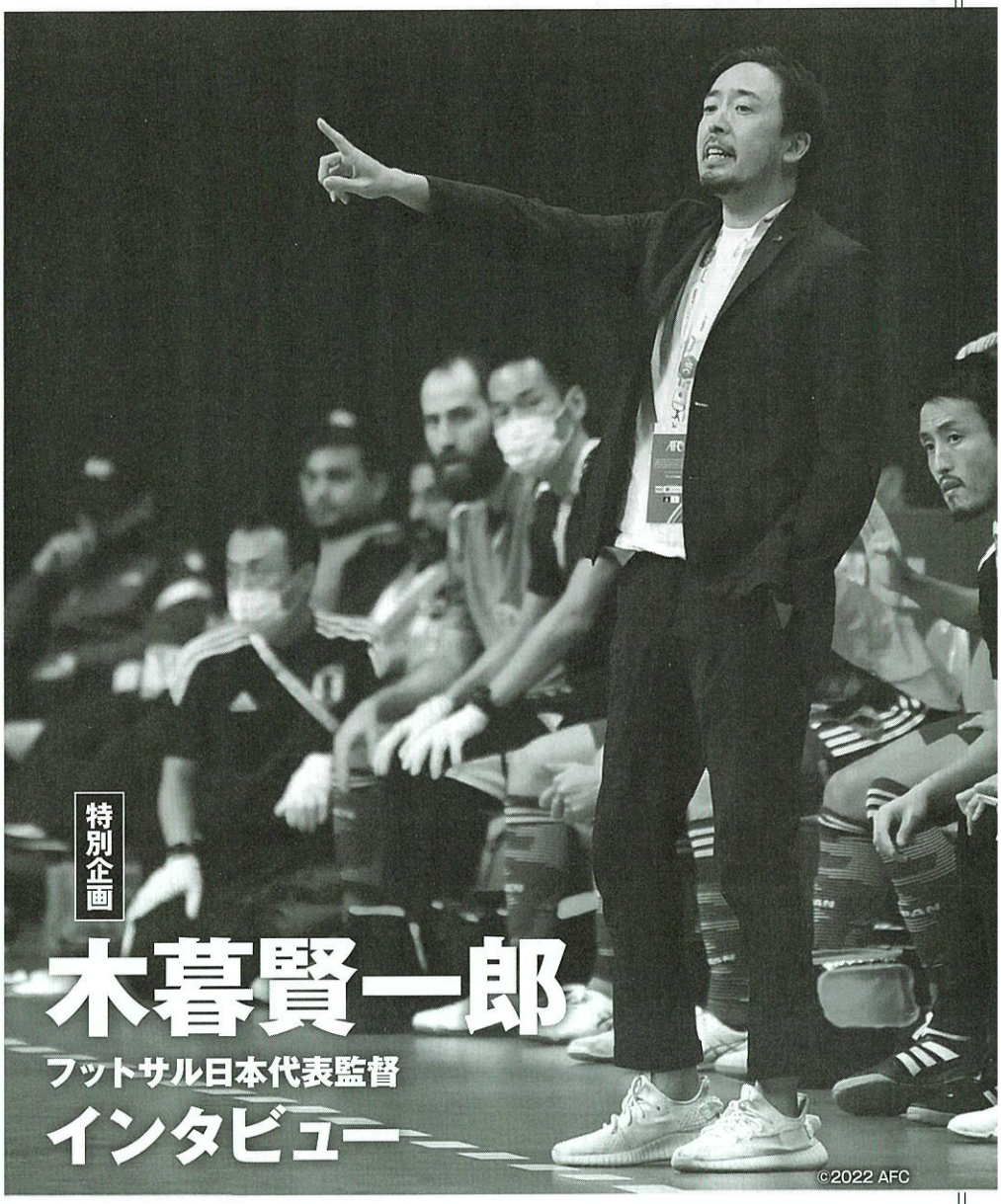
――来季への抱負をお聞かせください。

野々村　来季からは、J1からJ3まで全60クラブとなります。新たな一歩を踏み出すチームもあります。Jリーグも共に成長していきたい。今年10月からは5地域にJリーグの職員を派遣し、クラブと一緒になってプロモーション活動や現場の仕事に当たっています。試合当日の看板運び、ローカルメディアへの露出方法を考えるなど、仕事内容は多岐にわたります。Jリーグ側とクラブ側がこれまで以上に交流を深めていくことで、新たなものを生み出していきたいと考えています。

――最後にサッカーファミリーの皆さんへメッセージをお願いします。

野々村　サッカーファミリー全体の数を倍にしていくために一緒に取り組んでいきましょう。それが地域のサッカーを、日本サッカー全体を強くすることにつながるはずです。


会場に駆け付けたサポーターの声援は選手たちの大きな力となり、良いプレーを引き出す原動力となる（写真はJ1参入プレーオフより）



特別企画

木暮賢一郎
フットサル日本代表監督
インタビュー

自分たちが培ってきたものは間違いではなかった

10月、フットサル日本代表がAFCフットサルアジアカップクウェート2022で3大会ぶり4度目の優勝を飾った。初戦を落としながらも巻き返すことができた理由、今大会で得た収穫、今後の展望を木暮賢一郎監督に聞いた

○オンライン取材日：2022年11月18日

ショックから切り替え苦境を乗り越えて力に

——AFCフットサルアジアカップが終わってからひと月ほどたちました。

木暮　DAZNで放送されたことも関係してか、反響が大きかったですね。多くの方々に喜んでいただき、Fリーグが再開された際に試合を視察したときもたくさん声をかけてもらいました。

——グループステージ初戦でサウジアラビアに敗れるというスタートでした。

木暮　昨年、FIFAフットサルワールドカップが終わってから監督が代わり、選手もかなり入れ替わって、新しいフェーズで迎えた大会です。初めてAFCフットサルアジアカップに出場する選手も多かったわけです。18年のアジアカップと今大会の2大会に出場した選手は14人中4人で、それを踏まえてブラジルと国際親善試合を組んだり、時差に慣れるためにバーレーンで試合を行ったりと、さまざまな状況をシミュレートしながら準備しました。

ところが、初戦はその想定の中で最も良くない結果になってしまいました。われわれはサウジアラビアに負けたことがなかったですし、チャンピオンになるという野心を持って臨んだ最初につまずいた。ショックは大きかったです。

——そんな状況下、中1日で次の試合を迎えました。

木暮　限られた時間の中、気持ちを切り替えることができました。その理由として、一つは、初戦を落としたから優勝の可能性がなくなったとか、グループステージを突破できないというわけではなかったこと。もちろん、1位で抜けることと2位で抜けることは違いますが、残りの試合に全て勝てば優勝できるということに変わりなかったので。敗戦が最初にきただけで、いかに前向きに次の試合に臨むか整理がしやすかったんです。

もう一つは経験があったことです。14年に日本がAFCフットサル選手権ベトナムで優勝したとき、日本はグループステージでウズベキスタンに敗れ、そこから立ち直りました。当時、吉川智貴選手と内村俊太選手は若くして逆境を跳ね返しました。16年のAFCフットサル選手権ウズベキスタンでは準々決勝でベトナムに敗れ、翌日行われたキルギスとのプレーオフにも敗れてFIFAフットサルワールドカップコロンビア2016への出場を逃すという経験をした選手もいますし、スタッフもその出来事を知っています。今回、初戦で敗れたときも極端に悲観する必要はないと。選手同士でミーティングを行い、切り替え

るための話し合いをしたこともプラスに働いたのでしょう。翌日は、スタッフも選手もいつもと変わらずにトレーニングに打ち込みました。

――その後、日本は連勝し、1位でグループステージを突破しました。

木暮　勝つことによって嫌なムードが払拭され、勢いがつきました。自信を取り戻した面もあったと思います。若い選手が多かった分、大会への慣れ、アジアの選手との間合いや会場の雰囲気に適応するスピードもありました。私が監督になってから、代表チームというものは万全の準備ができなくとも結果を出さなければならない、勝ちながら完成度を高めることが求められると話してきました。日本は試合を積み重ねながら完成度を上げ、一つになることができました。

――グループステージの段階で優勝の手応えを感じましたか。

木暮　というより、優勝するつもりで大会に臨んでいました。チームが変わったことや経験が少ないことを言い訳にせず、まず決勝まで行こうと選手に伝えていました。それを前提にすると、初戦に負けはしましたが、勝つごとに優勝に近づいているという感触を持ちました。あとは、どんなスポーツにおいても逆転勝利が多いチーム、苦しさを乗り越えているチームは機運が上昇します。今回の日本も毎試合苦戦を強いられ、ドラマチックな試合をものにし続けたことによって勢いが加速しました。苦戦を乗り越えたことが力になっていたのかもしれません。

選手たちに胴上げされる木暮監督。勝つごとで自信をつけたチームは、試合を重ねるたびに成長していった

培ったものを発揮した結果「二つの軸」が融合した

――決勝ラウンドでは、どのようにして選手の力を引き出したのですか。

木暮　試合、休息日、試合という流れで大会を戦う中で、谷間の1日はリカバリーに充てながらも、単なるリカバリーではなく、次の試合で必要な解決策、改善すべきポイント、相手を上回るために必要なことを毎回落とし込みました。あとは、チームが一つになるために選手の心に訴えかけるような取り組み、声掛けを意識しました。

――具体的に教えてください。

木暮　私自身もかつては選手だったので、試合に出場する機会が少ない選手の心境や、調子を崩している選手の気持ち、あるいはプレッシャーを感じている選手の内面が理解できます。日本代表でさまざまな経験を積んだ人間として選手に寄り添うことができますし、自分の感覚で選手を観察することができました。

また、監督になってから日本代表には過去と現在があって未来につながるということ、日本代表のアイデンティティーをつないでいきたいと考えていました。そこで、幕張（JFA夢フィールド）で合宿を実施したときにフットサル日本代表の歴代キャプテンである市原誉昭さんと比嘉リカルドさん、星翔太選手を招き、日の丸を背負って戦うことの意義を語ってもらいました。合宿に招いた歴代のキャプテンは、年齢も背景もプレーした時代も異なりますが、自分たちは何のために戦ってきたかというメッセージを選手たちに届けてくれました。

――今回のAFCフットサルアジアカップを通じて日本代表の新たな一面を見ることができた、と。

木暮　ここ10年、われわれは毎月のように国内で合宿を行い、クラブチームに近い形で強化に時間を割いてきました。合宿と合宿の間隔を空けず、ある程度メンバーを固定して強化を図ってきた。私が監督に就任してからは合宿を組む頻度を減らし、あくまでもFIFAのマッチデイズや大会に向けて準備するため、そのとき最も調子が良い選手を招集し、試合に臨むという、従来とは異なるアプローチをしました。

その根底には、Fリーグの成長や選手のレベルが上がっているという側面があります。今回のアジアカップでは、初めて国際大会に挑んだ選手たちが良いプレーを披露してくれました。リーグや競技レベル、育成環境など、自分たちがここまで培ってきたものを信じてやってきたことが間違いではなかったと思います。今回の優勝は代表チームだけの勝利ではありません。Fリーグ、育成年代に携わる指導者、多くの人々がここ10数年、力を注いできてくれたからこそです。ベースが上がっていると肌で感じられたことは喜ばしいですし、日本フットサル界が残した一つの成果だといえます。

――最後に、今後の展望をお願いします。

木暮　私がフットサル日本代表の監督に就任してからおよそ1年ですが、コーチとしては18年からこのチームに携わっています。U-21フットサル日本代表も18年から見ています。それを踏まえると、現在の日本は、既存の日本代表とかつてアンダーカテゴリーの代表としてプレーしていた若手の「二つの軸」が重なっているグループです。例えば、原田快選手は今18歳ですが、私は彼が中学3年生のころから見ています。年代別代表で活躍していた選手と現在Fリーグで存在感を示している選手たちが融合し、切磋琢磨することでチームは成長します。来年の終盤にはFIFAフットサルワールドカップの予選となるAFCフットサルアジアカップが始まります。通常は4年間で準備するところ、今回はコロナ禍の影響で3年間に短縮されます。準備の1年目にあたる今年は結果を残して充実した1年になりましたが、24年はすぐにやってきます。チームをさらに磨き、最高の集団をつくりたいと思います。

金澤空（写真左）や原田快（写真右）ら若手が国際経験を積んだことも、AFCフットサルアジアカップで得た収穫の一つだ

※AFCフットサルアジアカップクウェート2022レポートは本誌前号84～85ページに掲載

日本サッカー協会

「高円宮妃杯 JFA 全日本U-15女子サッカー選手権大会」大会名称を変更

JFA 全日本U-15女子サッカー選手権大会は、JFA名誉総裁であらせられる高円宮妃殿下のお名前を冠し、第27回を迎える2022年度大会から「高円宮妃杯 JFA 全日本U-15女子サッカー選手権大会」の名称で開催する（11月10日発表）。

同大会は、日本国内における女子サッカーの技術向上と健全な心身の育成を図り、広く女子サッカーの普及振興に寄与することを目的に開催しているもので、高円宮妃杯を賜ることにより、大会の権威と価値がさらに向上し、U-15年代の女子プレーヤーの目標の大会として日本の女子サッカーのさらなる発展をもたらすものとJFAは考えている。

第27回大会は12月10日から27日にかけて静岡県、岐阜県、三重県、滋賀県、愛知県および東京都で開催。大会方式や出場チーム数などに変更はない。

【大会名称】
（変更前）JFA 第27回全日本U-15女子サッカー選手権大会
（変更後）高円宮妃杯 JFA 第27回全日本U-15女子サッカー選手権大会

子どもの成長に必要な動きがバランスよく身に付く「クラッキ！ダンス」を開発

JFAは、EXILE TETSUYAさん監修の下、「クラッキ！ダンス」を開発した。11月21日にダンス映像の配信がスタートした。

クラッキ！ダンスは2分45秒のプログラムで、ウオーミングアップになるオリジナルダンス。JFAチャレンジゲーム「めざせクラッキ！」のメニューやサッカーの動きが取り入れられている。クラッキ！ダンスの楽曲には、EXILEの「VICTORY」を採用。ダンス映像はEXILE TETSUYAさん、内田篤人さん（JFAユニクロサッカーキッズキャプテン）が出演しており、サッカーやスポーツの経験がない子どもからシニアまで遊び感覚で体を動かすことができる。

●クラッキ！ダンス
（ダンスバージョンとハウツー動画で構成）
URL: https://youtu.be/j6ObliW4n5w

・ダンス内で取り入れている「めざせクラッキ！」のメニュー：
両足ジャンプ／スーパー両足ジャンプ、サイドジャンプ、片足立ち、ケン・パー、ももキック（もも上げ）、手足の運動、ツーステップ、前後走（ダッシュ）

・その他の動き：
足踏み、腕回し、かかとタッチ、サイドランジ、バックランジ、深呼吸、手首足首ほぐし、シュート、勝利のポーズなど

●中山雅雄JFA普及ダイレクター（筑波大学体育系教授、博士）コメント
未就学児の多くの子どもたちは好奇心が旺盛です。目にするものに関心を持ち、触ってみて、それに合わせて体を動かすことで、外界との関わりを広げていきます。ボール遊びは多くの発見を子どもたちに与えます。小さいボールは手で扱えます。少し大きなボールは蹴ることができます。もっと大きなボールには翻弄（ほんろう）されるかもしれません。そこから生まれる多様な動きの全てが子どもたちの本来持っている能力を引き出します。
JFAチャレンジゲーム「めざせクラッキ！」には、サッカーはもちろん、いろいろなスポーツの基礎となる動きが詰まっています。手足でボールを扱い、多様なステップやターンは簡単にはクリアできないかもしれません。それで良いんです。「失敗して悔しい」「でももう一回やってみよう」「やった！できた」、この繰り返しがスポーツの上達の王道です。
クラッキ！ダンスは子どもたちの持っている力をさらに引き出してくれます。ベースになる体をリズミカルに回す動きはスポーツではあまり経験できません。新しい刺激です。サッカーでの動きとストレッチング、そしてリズムを組み合わせたクラッキ！ダンスは子どもたちを夢中にさせます。

エンパワーメントムービー「日本サッカーを愛する、すべての人と」JFA公式YouTubeチャンネル「JFATV」で公開

JFAは11月22日、「日本サッカーを愛する、すべての人と」と題するエンパワーメントムービーをJFA公式YouTubeチャンネル「JFATV」に公開した。

同ムービーは、SAMURAI BLUE（日本代表）がFIFAワールドカップカタール2022に臨むにあたって制作したもので、SAMURAI BLUEやなでしこジャパン（日本女子代表）、フットサル、ビーチサッカー、ブラインドサッカー、アンプティサッカーなどの各カテゴリー日本代表、さらにはキッズからシニアまでさまざまなカテゴリーや幅広い年齢層のサッカーファミリーが、楽しく、そして、懸命にサッカーに打ち込む姿が、ウカスカジーの「勝利の笑みを 君と ～日本サッカーのために～」（2021年／JFA公認サッカー日本代表応援ソング）に合わせて収録されている。過去から現在に至る各種大会やイベントにおける感動的なシーン、ロッカールームやトレーニングでの様子のほか、ファン・サポーター、スタッフなど、サッカーを支える人々の姿も収められている。

感動と興奮、共感、時に悔しさや絶望感などサッカーからもたらされるさまざまな感情を、サッカーに関わる全ての人々と共有し、また、それぞれがそれぞれの場所で持てる力を存分に発揮できるよう後押しする、“エンパワーメント”＝人々を力づける内容になっている。

なお、同ムービーは、国際サッカー連盟（FIFA）やアジアサッカー連盟（AFC）をはじめとする多くの関係者の理解と協力を得て公開に至った。

●エンパワーメントムービー概要
タイトル：「日本サッカーを愛する、すべての人と」（映像時間5分55秒）
公開URL：https://youtu.be/JbFnujlvUZk
※本映像は権利の関係上、2022年12月31日までの限定公開

●ウカスカジー（桜井和寿／GAKU-MC）からのコメント
「♪Wow wow wow oh ～！！」と、この曲のサビになっている部分には歌詞がありません。 初めてこの曲を聴く、そんな方でも簡単に歌えるように、メロディもシンプルです。 草サッカーみたいに、沢山の方に気軽に参加してほしくて、この曲を作りました。 サッカーはボールひとつあれば、どこでも誰でも参加可能で、プレーを通して心を交わし合うことが出来る素晴らしいスポーツです。 世代を超え、性別を超え、それぞれに抱えた問題をも超え、みんなが楽しく心を交わし合う、そんなイメージで日本サッカーを声高に応援させてください。

※備考：ウカスカジーの楽曲「勝利の笑みを 君と」は2014年に制作され、JFA公認サッカー日本代表応援ソング／「夢を力に 2014」公式テーマソングとして、また、2018年の応援プロジェクト「夢を力に 2018」でも公式テーマソングに採用された。2021年に新録された楽曲「勝利の笑みを 君と ～日本サッカーのために～」もJFA公認サッカー日本代表応援ソングに採用された。

JFA第46回全日本U-12サッカー選手権大会、阿部勇樹氏がアンバサダーに就任

12月26日（月）から29日（木）にかけて鹿児島県鹿児島市で開催する「JFA第46回全日本U-12サッカー選手権大会」の出場チームが出そろい、組み合わせおよびテレビ放送が決定した。なお、今大会のアンバサダーに阿部勇樹JFAモデルコーチが就任した（11月29日発表）。

●TV放送／インターネット配信
〔準決勝〕12月28日（水）第1試合14:00キックオフ予定、第2試合15:20キックオフ予定
ネット配信：TVer　第1試合13:58頃～14:51頃（ライブ配信）
第2試合15:18頃～16:12頃（ライブ配信）
テレビ放送：【CS】日テレジータス 2023年1月14日（土）14:00～16:00（フルマッチ）
〔決勝〕12月29日（木）9:30キックオフ予定
ネット配信：TVer　同日10:30～11:25（地上波同時配信）
テレビ放送：【地上波】日本テレビ系31局ネット 同日10:30～11:25（録画中継）
【CS】日テレジータス 2023年1月14日（土）16:00～17:15（フルマッチ）

●JFATV配信
1次ラウンド：ピッチ1～ピッチ4全試合ライブ配信
ラウンド16：ピッチ1～ピッチ4 ライブ配信、ピッチ5～ピッチ8 オンデマンド配信
準々決勝：全試合ライブ配信
準決勝、決勝：オンデマンド配信

●大会アンバサダー：阿部勇樹氏（JFAロールモデルコーチ）コメント
自分が小学生のときに出場したこの大会では、千葉県予選で敗退して悔しい思いをしたことを覚えています。厳しい予選を勝ち抜いて本大会に出場する選手たちには、自分たちが楽しむことはもちろんのこと、予選で戦った選手たちの思いも胸に精いっぱいプレーしてほしいと思います。

「HER TEAM」プロジェクト2022年度の募集開始（12月31日締め切り）～中学生年代の女性がサッカーを続けられる環境づくりをサポート

アディダス ジャパン株式会社は、JFAとのパートナーシップの下、より多くの中学生年代の女性がサッカーを続けられる環境づくりをサポートする「adidas『HER TEAM』プロジェクト」2022年度の募集を開始した。応募受付は12月31日（土）まで。審査後に支援チームを発表する。募集に合わせて、なでしこジャパン（日本女子代表）の長野風花選手を迎えた「Fuka Talk!－長野風花とHER TEAMサッカーガールズトーク－」を支援チーム向けに開催することも発表された。

アディダスは、「スポーツを通して、私たちには人々の人生を変える力がある」という理念の下、全ての人々が安心してスポーツに取り組むことができるようさまざまな活動を行っている。その一環として2020年、女子サッカーの普及・発展を目標とした「HER TEAM」プロジェクトをJFAと共に立ち上げ、女子中高生のスポーツ継続率の向上を目指した活動を開始。一人でも多くの女子プレーヤーが競技を続けられる環境を整え、女子サッカーの未来を変えるために立ち上げられた同プロジェクトは、これまでに全国18自治体、合計20チームを対象に創設サポートを提供。今年度も、審査を通過した新規創設予定チームを対象にサポートしていく。

【「HER TEAM」プロジェクト2022年度募集 概要】
創設サポート内容：
・メンバー募集のための告知ツール
・ユニフォームの提供（約20名分想定）
・サッカークリニックの開催
・JFAおよびアディダス フットボール関連活動への優先招待（2022～23年）
サポート期間：チーム創設初年度
募集エリア：全国（日本国内で活動するチームに限る）
募集数：非公開　※2021年は10チーム当選
募集期間：2022年11月18日（金）～12月31日（土）
募集対象：以下の全てに当てはまることが条件となる。
・中学生年代（U-15年代）の女子がプレー可能で、2023年度（2024年3月末まで）に新規創設されるチーム。
※既に「女子」以外の種別でJFA登録をされているチームが、新たに「女子」の種別でJFA登録をされる場合も対象となる。
・2023年度（2023年3月末まで）にチームが創設され、「女子」の種別でJFA登録を完了すること。
・継続的なチーム運営を前提とする。
その他：中学生年代（U-15年代）の女子に特化したチームを優先してサポートするが、幅広い年代が入会可能な女子チームの創設も対象となる（中学生・U-15年代がプレーできることが必須）。「チーム」には部活動も含む。

●プロジェクトおよび応募に関する詳細などは
特設ページ参照
https://shop.adidas.jp/football/herteamproject/

Jリーグ（日本プロサッカーリーグ）

2022Jリーグ アジアチャレンジin タイ～タイおよび日本国内中継情報、大会パートナー社が決定

2022Jリーグ アジアチャレンジ in タイのタイおよび日本国内の中継情報、大会パートナー社が決定した（11月9日・11日発表）。

同大会は日本政府の進める「日タイ修好135周年記念事業」に認定。Jリーグは同大会を通じて、日本、タイ王国両国のさらなる関係強化、交流活性化に貢献していく。

【大会概要（抜粋）】
大会名　：2022Jリーグ アジアチャレンジin タイ（英語名：2022 J.LEAGUE ASIA CHALLENGE in THAILAND）
主催　：公益社団法人 日本プロサッカーリーグ、タイリーグ
協賛　：ゴールドパートナー　Sports Authority of Thailand（タイ国政府スポーツ庁）

：シルバーパートナー　富士フイルムビジネスイノベーション株式会社、ミツトヨアジアパシフィック
：ブロンズパートナー　株式会社ニコン、株式会社モルテン

試合日程（現地時間）：
11月12日 17:00　BG パトゥム・ユナイテッド vs 川崎フロンターレ（BGスタジアム）
11月12日 19:00　ブリーラム・ユナイテッド vs 北海道コンサドーレ札幌（チャーン・アリーナ）
11月15日 18:00　北海道コンサドーレ札幌 vs 川崎フロンターレ（サンダー・ドーム・スタジアム）

放送：タイ／ Siamsport 社（YouTube チャンネルで配信）、PPTV社（地上デジタル放送）
日本／ DAZN、Jリーグ公式YouTube チャンネル（日本国内）
＊全3試合を上記プラットフォームでライブ配信・放送
＊Jリーグ公式YouTube（国際版）でも全試合ライブ配信（タイ、日本を除く全世界）

理事の追加

Jリーグは、11月15日に開催した2022年度第3回社員総会で、元榮太一郎氏（所属：弁護士ドットコム株式会社代表取締役社長、弁護士法人Authense法律事務所 代表弁護士 CEO）を2023年1月1日付で理事に選任することを決定した。任期は2024年3月に開催予定の定時社員総会終結の時まで。

Jリーグ新たな成長戦略とリーグ組織の構造改革

Jリーグは、1991年のJリーグ設立以来30年以上が経過する中、Jリーグを取り巻くさまざまな環境変化を踏まえ、リーグ全体のより一層の成長促進のために、新たな成長戦略の構想とその実現に向けた構造改革を検討してきた。そして今回、新たな成長戦略として「2つの成長テーマ」を掲げて注力していくことを決定し、それらの成長戦略を実現するための構造改革として（1）配分金構造の見直し、（2）リーグ組織のガバナンス改革を行っていく。構造改革は11月15日の方針決定の下、いずれも2023年1月1日付の関連規約規程の改定をもって適用開始となる（11月15日発表）。その他詳細はJリーグ公式ウェブサイト参照。

■Jリーグの新たな成長戦略 ～2つの成長テーマ～

1. 58クラブが、それぞれの地域で輝く
・J1からJ3までの全てのクラブが、それぞれの地域で成長していくことで、Jリーグ全体の価値を向上させていく。
・そのためには、それぞれの地域で圧倒的にサッカーの露出を増やすことで、地域ごとのスターを生み出し、サッカーへの関心を高めること、ファンを拡大していくことをねらいとする。
・この主たる戦略として、Jリーグはローカル露出支援プロジェクトを発足し、重点施策支援投資を検討。

2. トップ層が、ナショナル（グローバル）コンテンツとして輝く
・Jクラブの中で、世界に伍するトップクラブが生まれ、ナショナル（グローバル）コンテンツとして輝くことで、Jリーグの成長をけん引する。
・そのためには、フットボール改革のための投資と、これまでよりも明確な結果配分（競技&人気）、競争促進を進めていく。

2022Jリーグアウォーズ開催、各賞発表

Jリーグは11月7日に2022Jリーグアウォーズ、同14日に2022J2リーグアウォーズ、同21日に2022J3リーグアウォーズを開催し、2022シーズンの各賞を発表した。今シーズンからはJ2リーグ、J3リーグにおいても最優秀選手賞、ベストイレブン、最優秀ゴール賞の個人賞を新設し、受賞者を称えた。受賞一覧は下記の通り（その他詳細はJリーグ公式ウェブサイト参照）。

【2022Jリーグ各賞】

最優秀選手賞　：DF 岩田智輝（横浜F・マリノス）初受賞
ベストイレブン：GK 高丘陽平（横浜F・マリノス）初受賞
DF 谷口彰悟（川崎フロンターレ）4度目
DF 山根視来（川崎フロンターレ）3度目
DF 岩田智輝（横浜F・マリノス）初受賞
DF 小池龍太（横浜F・マリノス）初受賞
MF 家長昭博（川崎フロンターレ）4度目
MF 脇坂泰斗（川崎フロンターレ）2度目
MF 水沼宏太（横浜F・マリノス）初受賞
FW マルシーニョ（川崎フロンターレ）初受賞
FW エウベル（横浜F・マリノス）初受賞
FW チアゴ・サンタナ（清水エスパルス）初受賞
得点王：FW チアゴ・サンタナ（清水エスパルス）初受賞
ベストヤングプレーヤー賞：FW 細谷真大（柏レイソル）
フェアプレー個人賞：今年度該当なし
フェアプレー賞 高円宮杯：浦和レッズ（初受賞）、清水エスパルス（2度目）
フェアプレー賞（J1）：ヴィッセル神戸、サンフレッチェ広島、名古屋グランパス、セレッソ大阪、湘南ベルマーレ、FC東京
※反則ポイントが少ない順に記載
優勝監督賞（J1）：ケヴィン・マスカット（横浜 F・マリノス）初受賞
優秀監督賞（J1）：ミヒャエル・スキッベ（サンフレッチェ広島）初受賞
最優秀主審賞：佐藤隆治（2度目）
最優秀副審賞：聳城巧（初受賞）
最優秀育成クラブ賞：柏レイソル（2度目）
最優秀ゴール賞：川村拓夢（サンフレッチェ広島）初受賞
功労選手賞：青木剛、阿部勇樹、石原直樹、大久保嘉人、角田誠、小林祐三、高橋義希、田中達也、田中マルクス闘莉王、田中佑昌、玉田圭司、谷澤達也（9月27日発表）
功労審判員賞：家本政明、扇谷健司、岡野宇広、小椋剛、相樂亨、手塚洋、東城穣、中原美智雄、名木利幸、間島宗一、村上孝治、村上伸次、山口博司、吉田寿光（9月27日発表）
功労賞：新型コロナウイルス対策連絡会議に参加された専門家の皆さま
賀来満夫（東北医科薬科大学医学部 感染症学教室 特任教授、東北大学名誉教授・客員教授、東京都 参与）、三鴨廣繁（愛知医科大学医学部 臨床感染症学講座 主任教授）、舘田一博（東邦大学医学部 医学科 教授）、髙橋聡（札幌医科大学医学部 感染制御・臨床検査医学講座 教授）、遠藤史郎（東北医科薬科大学病院感染制御部 部長）、國島広之（聖マリアンナ医科大学 感染症学講座 主任教授）、掛屋弘（大阪公立大学大学院 医学研究科 臨床医科学専攻 教授 医学部医学科 教授）、大毛宏喜（広島大学病院 感

染症科 教授)、泉川公一(長崎大学 副学長)、井元清哉(東京大学医科学研究所 ヒトゲノム解析センター センター長/教授)、村上道夫(大阪大学感染症総合教育研究拠点(CIDER)特任教授)、加來浩器(防衛医科大学校 防衛医学研究センター 教授)

表彰理由:2020シーズン以降、コロナ禍における試合開催やクラブ運営にあたり、新型コロナウイルス対策連絡会議に参加してもらった専門家から、多くの知見と助言を提供してもらったことに感謝の意を表し、その功績をたたえ、功労賞として表彰する。

2022J リーグベストイレブン(谷口選手は欠席)

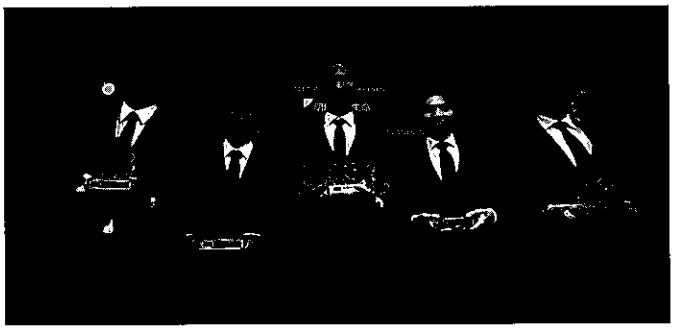
【2022J2リーグ各賞】

最優秀選手賞 :FW 小川航基(横浜FC)
ベストイレブン:GK 小島亨介(アルビレックス新潟)
DF 堀米悠斗(アルビレックス新潟)
DF 舞行龍ジェームズ(アルビレックス新潟)
DF ヨルディ・バイス(ファジアーノ岡山)
MF 長谷川竜也(横浜FC)
MF 伊藤涼太郎(アルビレックス新潟)
MF 高宇洋(アルビレックス新潟)
MF 高木善朗(アルビレックス新潟)
MF 河原創(ロアッソ熊本)
FW 小川航基(横浜FC)
FW 髙橋利樹(ロアッソ熊本)
得点王:FW 小川航基(横浜FC)初受賞 ※2021シーズンまでの「最多得点者」を改称
優勝監督賞:松橋力蔵(アルビレックス新潟)初受賞
優秀監督賞:大木武(ロアッソ熊本)初受賞
最優秀ゴール賞:山口 一真(FC町田ゼルビア)
フェアプレー賞:アルビレックス新潟、大宮アルディージャ、V・ファーレン長崎、ザスパクサツ群馬、ヴァンフォーレ甲府、ファジアーノ岡山、ジェフユナイテッド千葉、ロアッソ熊本、東京ヴェルディ、ツエーゲン金沢、ブラウブリッツ秋田、大分トリニータ、横浜FC、モンテディオ山形
※反則ポイントが少ない順に記載

J2最優秀選手賞、ベストイレブン、得点王に輝いた横浜FCの小川航基選手

【2022J3リーグ各賞】

最優秀選手賞 :FW 有田稜(いわきFC)
ベストイレブン:GK 内山圭(藤枝MYFC)
DF 家泉怜依(いわきFC)
DF 林堂眞(カターレ富山)
DF 安藤智哉(FC今治)
DF 広瀬健太(鹿児島ユナイテッドFC)
MF 嵯峨理久(いわきFC)
MF 日高大(いわきFC)
MF 山下優人(いわきFC)
MF 横山暁之(藤枝MYFC)
FW 有田稜(いわきFC)
FW 有田光希(鹿児島ユナイテッドFC)
得点王:FW 有田稜(いわきFC)初受賞 ※2021シーズンまでの「最多得点者」を改称
優勝監督賞:村主博正(いわきFC)初受賞
優秀監督賞:須藤大輔(藤枝MYFC)初受賞
最優秀ゴール賞:ロリス・ティネッリ(Y.S.C.C.横浜)
フェアプレー賞:カターレ富山、ヴァンラーレ八戸、テゲバジャーロ宮崎、いわきFC、カマタマーレ讃岐、福島ユナイテッドFC、アスルクラロ沼津、愛媛FC、ガイナーレ鳥取、ギラヴァンツ北九州 ※反則ポイントが少ない順に記載


J3を制したいわきFCからは5人がベストイレブンに選出。有田稜選手(中央)は最優秀選手賞と得点王も受賞

2022Jリーグ最優秀育成クラブ賞、柏レイソルが2年連続2度目の受賞

2022シーズンに向けて優れた選手育成実績を示したJクラブに贈られるJリーグ最優秀育成クラブ賞に柏レイソルが2年連続2度目の受賞を飾った。選考段階でノミネートされたのは、柏のほか、横浜F・マリノス、名古屋グランパス、セレッソ大阪、サガン鳥栖の5クラブ。同賞は、2022シーズンに向けてアカデミーから輩出したプロ契約選手の人数とその育成期間、また当該選手の公式戦出場実績を考慮し、最も高い実績を示したクラブが選出されている。

2023シーズンのJ2クラブライセンス判定結果

Jリーグは、11月22日に開催した第10回理事会において、J2クラブライセンス申請が継続審議となっていたY.S.C.C.横浜に対し、J2クラブライセンスの審査ポイントの一つである財務基準を充足したことが確認されたため、2023シーズンJ2クラブライセンスを交付することを決定した。

日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）

2022年11月度理事会を開催

WEリーグは11月16日、2022年11月度理事会を開催した。報告事項は下記の通り。

【報告事項】

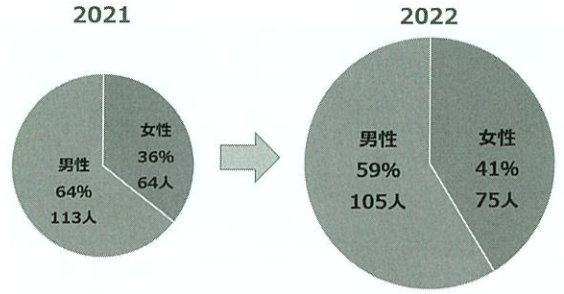
●各クラブ女性登用の状況

2022-23シーズンの各クラブ女性登用状況とWE STATEMENTの公表について報告した。その他詳細はWEリーグ公式ウェブサイト参照。

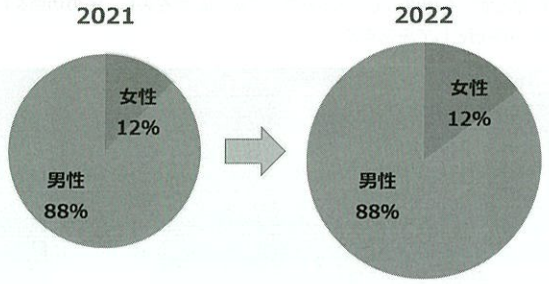
・女性登用率（2022）役職者・トップ指導者・アカデミー指導者

	WEリーグの女性登用シーズン2	マネジメント					トップ		アカデミー		クラブ全体		
		役職員全体	女性	%	取締役	女性	コーチングスタッフ	女性コーチ	コーチングスタッフ	女性コーチ	全体	女性	女性割合
	WEリーグ	18	12	66.7%	15	7							
1	マイナビ仙台レディース	15	5	33.3%	3	0	9	2	7	4	31	15	48.4%
2	三菱重工浦和レッズレディース	10	7	70.0%	2	1	5	0	8	3	23	12	52.2%
3	大宮アルディージャ VENTUS	32	12	37.5%	3	0	8	2	2	1	42	17	40.5%
4	ちふれASエルフェン埼玉	11	6	54.5%	8	3	6	2	9	4	26	13	50.0%
5	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	36	13	36.1%	10	1	8	3	9	3	53	24	45.3%
6	東京ヴェルディ・ベレーザ	21	9	42.9%	4	0	8	0	6	1	35	11	31.4%
7	ノジマステラ神奈川相模原	10	4	40.0%	5	1	5	0	6	4	21	8	38.1%
8	AC長野パルセイロレディース	21	7	33.3%	9	1	6	1	2	2	29	10	34.5%
9	アルビレックス新潟レディース	9	4	44.4%	4	1	7	1	5	1	21	9	42.9%
10	INAC神戸レオネッサ	9	5	55.6%	2	0	6	1	7	4	22	10	45.5%
11	サンフレッチェ広島レジーナ	9	3	33.3%	4	0	6	1	2	0	17	6	35.3%
	合計	183	75	41.0%	54	8	74	13	63	27	320	135	42.2%

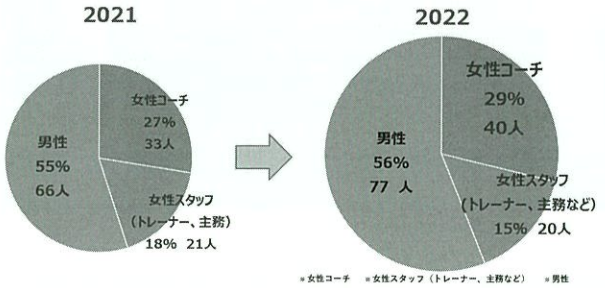
・役職員



・女性取締役



・コーチングスタッフ



・女性登用（クラブごと）

		役職員50%	意思決定者	アカデミーコーチ	トップコーチ	女性リーダーシッププログラム
1	マイ仙台			○	○	
2	浦和	○	○	○	○	○
3	大宮V			○	○	
4	EL埼玉	○	○	○	○	
5	千葉L		○	○	○	○
6	東京NB			○		
7	N相模原		○	○		○
8	AC長野		○		○	○
9	新潟L		○	○	○	○
10	I神戸	○		○	○	
11	S広島R				○	○

●WEリーグ WE ACTION ～女子がスポーツを続けるために～11クラブ座談会

11月10日、オンライン形式で11クラブ座談会を実施した。各クラブ1名が参加し、課題である「女子は10代でスポーツをやめてしまう」をテーマにディスカッションを行った（13ページ参照）。

WEリーグ、イングランドサッカー協会、JFAがパートナーシップ協定を締結

WEリーグは11月28日、イングランドサッカー協会およびJFAとの三者間でパートナーシップ協定を締結した。この協定締結により、両国の女子サッカーのさらなる展開に向けて知識や経験を共有し、さまざまな交流を図っていく。

調印日時 ：2022年11月28日
署名者 ：イングランドサッカー協会（The FA）
公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ(WEリーグ)
日本サッカー協会（JFA）
調印場所 ：カタール／ドーハ
協定内容 ：両国における女子サッカーの相互利益、促進、成長、成功に向けた両国の関係強化
・組織、マーケティング、グラスルーツ等の分野に関する知識の交換
・試合による交流／コーチングプログラム
・サッカーマネジメントへの女性参入プログラム、男女共同参画
期間 ：2022年11月28日（調印日）から3年間

●髙田春奈WEリーグチェア コメント

世界の女子サッカーの発展をリードするイングランドサッカー協会と、このような協定を結べることは光栄であり、心より感謝いたします。イングランドの女子サッカーの成長は目覚ましく、特に国内外におけるリーグでの成長が代表チームの競技力向上に貢献しています。

昨年スタートしたWEリーグもその姿に学び、競技面では良きライバルとして切磋琢磨しつつ、女子サッカーの普及・発展、市場の拡大に継続して力を注ぎ、その先にある、サッカーを通して老若男女全ての人がいきいきと輝き、一人一人が幸せを感じられる社会の実現に向けて共に手を取り合っていきます。

公益財団法人日本サッカー協会　2022年度第12回理事会

公式URL　https://www.jfa.jp/

日本サッカー協会（JFA）は2022年11月10日、2022年度第12回理事会をJFAハウスおよびオンラインで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

決議事項

1　競技会規則改正 ……P35

競技会規則改正

大会名および競技会開催申請の提出期限の変更に伴い、競技会規則について改正する。

詳細はJFA公式ウェブサイト参照。

報告事項

1　第20回FIFAカウンシル会議（10月22日開催）……P35
2　第11回AFC理事会（10月17日開催）……P35
3　2020／21年度 指導者ライセンス認定……P35
4　審判員・審判指導者の海外派遣……P36
5　JOC認定競技別強化センター認定……P36
6　JFAロングパイル人工芝ピッチ公認（新規）……P36
7　JFAロングパイル人工芝ピッチ公認（更新）……P36
8　裁定委員会に関する懲罰……P37

第20回FIFAカウンシル会議（10月22日開催）

第20回FIFAカウンシル会議が2022年10月22日にニュージーランド・オークランドおよびオンラインで行われた。主な決定・報告事項は下記の通り。

●FIFAクリアリングハウス規則の承認
●選手の地位および移籍に関する規則（RSTP）改正の承認
●FIFA女子ワールドカップオーストラリア＆ニュージーランド2023™準備状況の報告
●FIFAワールドカップカタール2022™準備状況の報告
●以下の議題については次回FIFAカウンシル会議への持ち越しを決定
（1）FIFAビーチサッカーワールドカップ2023のホストの決定
（2）FIFA懲罰規程改正
（3）FIFA倫理規程改正
（4）FIFAフットボールエージェント規則

第11回AFC理事会（10月17日開催）

第11回AFC理事会が2022年10月17日、マレーシア・クアラルンプールで行われた。主な決定・報告事項は下記の通り。

●AFCアジアカップ2023のホストをカタールサッカー協会に決定した。
●AFCアジアカップ2027のホストについては最終候補にインドサッカー連盟およびサウジアラビアサッカー連盟を選定し、2023年2月に開催する第33回AFC総会で投票を行って決定することとした。
●AFC U23アジアカップ2024のホストをカタールサッカー協会に決定した。
●AFCディベロップメント委員会によるAFCエンハンスプログラム規則統合案を批准した。
●AFCの加盟協会向け補助金プログラム「AFCエンハンスメンバーアソシエーションプログラム（AFC Enhance Member Association Programme）」について日本サッカー協会からの申請を承認し、受給資格を認定した。
●AFC社会貢献委員会委員長のZaw Zaw氏をAFCドリームアジア基金の理事に任命することを決定した。
●2022年9月14日に急逝したシンガポールサッカー協会会長のLIM Kia Tong氏に哀悼の意を表した。

2020／21年度 指導者ライセンス認定

指導者養成講習会を修了し、技術委員会が適格と認めた右記の3名に対してライセンスを認定した。

<2020／21年度Associate-Proコーチ養成講習会 合格者（3名）>
坂尾美穂、福田あや、三上尚子

審判員・審判指導者の海外派遣

(1)審判員、インストラクター・アセッサー・委員 海外派遣

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣期間	場所
国際親善試合 韓国代表 vs アイスランド代表	審判員	飯田淳平、鑾城巧、武部陽介、山本雄大、西橋勲	10月11日	京畿道／韓国
AFC Referee Academy: Batch 4 - Introductory Module 3	審判指導者(インストラクター)	石山昇	10月11日～15日	クアラルンプール／マレーシア
FIFA U-17女子ワールドカップインド2022	審判指導者(インストラクター)	深野悦子、山岸佐知子	10月11日～30日	インド

(2)イングランドとの交流事業における海外派遣

PGMOL(Professional Game Match Officials Limited=プレミアリーグを担当する審判員とその指導者が所属する組織)とのパートナーシップ協定をもとに、審判員とインストラクターの派遣および受け入れを相互で実施する。

派遣期間　：10月27日～11月13日
場所　：イングランド
審判員　：荒木勇輔、小泉朝香、長峯滉希
インストラクター：廣瀬格

JOC認定競技別強化センター認定

日本オリンピック委員会が定めるサッカー競技における認定競技別強化センターとして、新たに下記の3施設が認定された。同制度の指定期間は、認定後から次期オリンピック競技大会開催年度末までとなる。

●帝人アカデミー富士 ※1
●清水ナショナルトレーニングセンター J-STEP ※1
●堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター(J-GREEN堺) ※2

※1 前回からの継続認定
※2 初めての認定。これまで同施設はサッカー競技におけるNTC強化拠点としてきたが、今年度より同機能をJヴィレッジに移転させたことに伴い、今回はJOC認定競技別強化センターとして認定を受けた

(制度趣旨)
JOC認定競技別強化センター事業紹介
(1)趣旨
味の素ナショナルトレーニングセンター(NTC)およびNTC競技別強化拠点は、トップレベル競技者の育成・強化、タレント発掘の中心的な拠点として位置づけられている。
一方、1カ所での集中的なトレーニングに偏らず、異なった環境でもトレーニングが必要であることから、JOCは、各競技団体の選手強化活動が円滑に行えるよう、NTCおよびNTC競技別強化拠点以外の国内外既存トレーニング施設を「JOC認定競技別強化センター」として認定して施設活用を支援していく。
(2)事業内容
競技団体から推薦された施設を、基準に基づいて認定するとともに、当該認定施設に対し、競技団体が行う選手強化活動への協力依頼と認定看板を設置する。

※本制度は、競技団体が直接保有する施設(例:高円宮記念JFA夢フィールド)は対象外となる

JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(新規)

申請者(施設所有者)：北広島町
施設名　：大朝グラウンド 西面
(広島県山県郡北広島町新庄804番地1)
使用製品　：住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフER-60
公認期間　：2022年11月10日～2025年11月9日
公認番号　：第261号

申請者(施設所有者)：北広島町
施設名　：大朝グラウンド 東面
(広島県山県郡北広島町新庄804番地1)
使用製品　：住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフER-60
公認期間　：2022年11月10日～2025年11月9日
公認番号　：第262号

<特記事項>
・使用製品は、JFAロングパイル人工芝公認規程に基づく製品検査(ラボテスト)を完了している。
・当該施設は、JFAロングパイル人工芝公認規程に基づく現地検査(フィールドテスト)を実施し、基準を満たしている。

JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(更新)

申請者(施設所有者)：学校法人国士舘
施設名　：国士舘大学町田キャンパス多目的グラウンド
(東京都町田市広袴1-2-6)
使用製品　：美津濃株式会社MS Craft AG BB, MS Craft AG-O-BB
公認期間　：2022年11月10日～2025年11月9日
公認番号　：第018号

申請者(施設所有者)：旭川市
施設名　：東光スポーツ公園A球技場
(北海道旭川市東光23～24条8丁目)

左ページ左上へ続く

使用製品　：積水樹脂株式会社 ドリームターフMV2040 ACS65
公認期間　：2022年12月19日～2023年12月18日
公認番号　：第153号

申請者（施設所有者）：旭川市
施設名　：東光スポーツ公園B球技場
（北海道旭川市東光23～24条8丁目）
使用製品　：積水樹脂株式会社 ドリームターフMV2040 ACS65
公認期間　：2022年12月19日～2023年12月18日
公認番号　：第154号

申請者（施設所有者）：学校法人国際学園
施設名　：星槎湘南スタジアム
（神奈川県中郡大磯町国府本郷1805－2）
使用製品　：MCCスポーツ株式会社 アストロピッチDS N-60EP
公認期間　：2022年11月14日～2025年11月13日
公認番号　：第236号

＜特記事項＞
・使用製品は、JFAロングパイル人工芝公認規程に基づく製品検査（ラボテスト）を完了している。
・当該施設は、JFAロングパイル人工芝公認規程に基づく現地検査（フィールドテスト）を実施し、基準を満たしている。

裁定委員会に関する懲罰

裁定委員会（委員長：山田秀雄）より報告された懲罰案件について報告する。公表内容は下記の通り。なお、公表期間は原則通り3年とする。

【事案1】
公表内容
1. 当事者
第2種登録チームの指導者
2. 懲罰の種類
6カ月間のサッカー関連活動停止
3. 懲罰の決定日
2022年9月27日
4. 懲罰の理由
指導者に関する規則第20条（7）
懲罰規程第34条第1項（1）
懲罰規程第34条第2項表1
5. 事案の概要
自チーム所属の高校生選手に対する暴力行為

日本サッカー後援会2023年度の会員を募集中！

日本サッカー後援会では、2022年11月10日から2023年度の会員を募集しています。後援会では、毎年、日本サッカー協会をはじめ、関連団体の諸活動に対して資金面での援助を行っています。会員の皆さまからお寄せいただいた会費が、日本サッカーの普及と日本代表の強化に生かされています。会員の皆さまに対しては、下記の各種会員特典を設けております。サッカーファンの皆さまの入会をお待ちしております。

【主な会員特典】
●国内で日本代表チームが行う国際試合、天皇杯決勝戦チケットの優先販売（2021年9月からWEB申し込みに移行）
●天皇杯の本大会準決勝までの全試合、JFL、全日本大学選手権大会、全国高校選手権本大会、なでしこリーグ、Fリーグなどの自由席への無料入場
●JFAnews年間定期購読
※詳しくはホームページをご覧ください。

■新たに入会を希望される方へ
新入会員の募集は、定員になり次第締め切らせていただきますので、あらかじめご了承ください。

（1）会員制度
①年会費　：15,000円
②会員期間：2023年1月1日～12月31日

（2）入会手続き
インターネット入会申し込み
新たに入会を希望される場合は、日本サッカー後援会公式ホームページ（www.jssc-soccer.jp）をご覧ください。
※インターネット環境がご利用できない方は、事務局までお問い合わせ、ご相談ください。

■2022年度会員の皆さまへ
2022年度会員の皆さまには、募集開始時にWeb会員にはEメールで、郵送会員には郵送にて継続手続きについてご案内します。

一般財団法人日本サッカー後援会事務局
〒113-8311　東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス
TEL：03-4455-3339
メールアドレス：info@jssc-soccer.jp
公式ホームページ：http://www.jssc-soccer.jp

DataBox データボックス

各カテゴリー代表・選抜の活動や日本サッカー協会が主催する各種大会・リーグなどの大会記録などを掲載します。また、FIFA(国際サッカー連盟)、AFC(アジアサッカー連盟)など日本サッカー協会が加盟する国際団体が主催、日本サッカー界と関係のある大会の記録も随時、報告します。

① SAMURAI BLUE　国際親善試合／FIFAワールドカップカタール2022
② U-21日本代表　欧州遠征
③ U-19日本代表　スペイン遠征
④ U-18日本代表　スペイン遠征
⑤ U-17日本代表　クロアチア遠征
⑥ なでしこジャパン　国際親善試合
⑦ U-17日本女子代表　FIFA U-17女子ワールドカップインド2022
⑧ フットサル日本女子代表　スペイン遠征
⑨ ビーチサッカー日本代表　Intercontinental Beach Soccer Cup 2022／Neom Beach Soccer Cup
⑩ JFAエリートプログラムU-14　トレーニングキャンプ
⑪ JFAエリートプログラムU-13　日韓交流戦
⑫ JFAエリートプログラム女子U-14　トレーニングキャンプ
⑬ 女子GKキャンプ
⑭ JFAフットサルGKキャンプ2022②
⑮ JFA U-18フットサルタレント育成普及事業①
⑯ 第29回全国クラブチームサッカー選手権大会
⑰ 全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2022
⑱ JFA 第10回全日本O-40サッカー大会
⑲ 2022明治安田生命J1リーグ
⑳ 2022明治安田生命J2リーグ
㉑ 2022明治安田生命J3リーグ
㉒ 2022J1参入プレーオフ
㉓ 第24回日本フットボールリーグ
㉔ 2022プレナスなでしこリーグ2部入替戦予選大会／2022プレナスなでしこリーグ2部入替戦
㉕ FIFA U-17女子ワールドカップインド2022

※NCS:ナショナルコーチングスタッフ、JC:JFAコーチ／VAR:ビデオアシスタントレフェリー、AVAR:アシスタントビデオアシスタントレフェリー

SAMURAI BLUE　国際親善試合／FIFAワールドカップカタール2022

【スタッフ】

※65ページに関連記事あり

○監督：森保一(NCS)　○コーチ：横内昭展(NCS)、齊藤俊秀(NCS)、上野優作(NCS)　○GKコーチ：下田崇(NCS)　○フィジカルコーチ：松本良一(NCS)　○テクニカルスタッフ：中下征樹(JFAテクニカルハウス)、酒井清孝(JFAテクニカルハウス)、佐藤孝大(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属
GK	川島永嗣	RCストラスブール(FRA)
	権田修一	清水エスパルス
	シュミット・ダニエル	シントトロイデンVV(BEL)
FP	長友佑都	FC東京
	吉田麻也	シャルケ04(GER)
	酒井宏樹	浦和レッズ
	谷口彰悟	川崎フロンターレ
	柴崎岳	CDレガネス(ESP)
	遠藤航	VfBシュツットガルト(GER)
	伊東純也	スタッド・ランス(FRA)
	山根視来	川崎フロンターレ
	浅野拓磨	VfLボーフム(GER)
	南野拓実	ASモナコ(FRA)
	守田英正	スポルティングCP(POR)
	鎌田大地	アイントラハト・フランクフルト(GER)
FP	板倉滉	ボルシアMG(GER)
	中山雄太※1	ハダースフィールド・タウンFC(ENG)
	相馬勇紀	名古屋グランパス
	三笘薫	ブライトン・アンド・ホーヴ・アルビオンFC(ENG)
	前田大然	セルティック(SCO)
	堂安律	SCフライブルク(GER)
	上田綺世	セルクル・ブルージュKSV(BEL)
	田中碧	フォルトゥナ・デュッセルドルフ(GER)
	冨安健洋	アーセナル(ENG)
	伊藤洋輝	VfBシュツットガルト(GER)
	久保建英	レアル・ソシエダ(ESP)
	町野修斗※2	湘南ベルマーレ

FRA：フランス、BEL：ベルギー、GER：ドイツ、ESP：スペイン、POR：ポルトガル、ENG：イングランド、SCO：スコットランド
※1：ケガのため不参加
※2：追加招集

<スケジュール>

11月9日	成田発、ドーハ着
10日	トレーニングなし(室内コンディショニングのみ)
11日～15日	トレーニング(Al Sadd SC New Training Facilities 1)
16日	移動 公式トレーニング(Al Maktoum Stadium／UAE)
17日	国際親善試合 vs カナダ代表 (Al Maktoum Stadium／UAE) 移動

※FIFAワールドカップカタール2022の記録および18日以降のスケジュールは次号に掲載

国際親善試合

SAMURAI BLUE　1 (前半1-1 後半0-1) 2　カナダ代表

●2022年11月17日　17:40　●アルマクトゥームスタジアム　●試合時間:90分　●審判員:[主審]オマル・モハメド・アラリ　[副審]マスード・ハッサン／ジュマ・アルムハイニ　[第4の審判員]フルード・フドゥーム　●マッチコミッショナー:大谷憲也　●観衆:2,971人

日本(監督:森保一):[GK](12)権田修一　[FP](3)谷口彰悟(4)板倉滉<→67'(5)長友佑都>(7)柴崎岳(10)南野拓実<→85'(22)吉田麻也>(11)久保建英<→HT(8)堂安律>(17)田中碧<→66'(15)鎌田大地>(18)浅野拓磨<→HT(21)上田綺世>(19)酒井宏樹<→HT(2)山根視来>(24)相馬勇紀(26)伊藤洋輝

控え:(1)川島永嗣(23)シュミット・ダニエル(14)伊東純也(16)冨安健洋(20)町野修斗(25)前田大然

カナダ(監督:ジョン・ハードマン):[GK](18)ミラン・ボージャン　[DF](2)アリステア・ジョンストン<→71'(26)ジョエル・ウォーターマン>(3)サミュエル・アデクベ<→60'(22)リッチー・ラレイア>(4)カマル・ミラー(5)スティーブン・ビトリア　[MF](6)サミュエル・ピエット<→HT(15)イスマエル・コネ>(10)ジュニア・ホイレット(13)アティバ・ハッチンソン<→60'(14)マークアンソニー・ケイ>　[FW](11)テイジョン・ブキャナン<→60'(21)ジョナサン・オソリオ>(17)カイル・ラリン<→71'(9)ルーカス・カバリーニ>(20)ジョナサン・デービッド

控え:(1)ダイン・セントクレア(16)ジェームズ・パンテミス(8)リアム・フレイザー(12)イケ・ウグボ(23)リアム・ミラー(24)デービッド・ウォザスプーン(25)デレク・コーネリアス(27)ルーカス・マクノートン

得点	[日本]8'相馬勇紀(1-0)　[カナダ]21'スティーブン・ビトリア(1-1)、90+5'ルーカス・カバリーニ(1-2)
警告	[カナダ]18'サミュエル・アデクベ、56'スティーブン・ビトリア

U-21日本代表　欧州遠征

※77ページに関連記事あり

【スタッフ】

○団長：内山篤（JFA技術委員）　○監督：大岩剛（NCS）　○コーチ：羽田憲司（NCS）　○GKコーチ：浜野征哉（NCS）　○フィジカルコーチ：矢野由治（NCS）　○テクニカルスタッフ：越智滋之（JFAテクニカルハウス）

<選手>

Pos.	背番号	名前	所属
GK	1	小久保玲央ブライアン	SLベンフィカ（POR）
	12	佐々木雅士	柏レイソル
	22	鈴木彩艶	浦和レッズ
DF	2	西尾隆矢※1	セレッソ大阪
	3	木村誠二	FC東京
	4	加藤聖	V・ファーレン長崎
	5	バングーナガンデ佳史扶	FC東京
	6	半田陸	モンテディオ山形
	7	畑大雅	湘南ベルマーレ
	8	鈴木海音	栃木SC
	9	馬場晴也※2	東京ヴェルディ
MF	10	松村優太	鹿島アントラーズ
	11	松岡大起	清水エスパルス
	13	佐藤恵允	明治大学
	14	川崎颯太	京都サンガF.C.
	15	斉藤光毅	スパルタ・ロッテルダム（NED）
MF	16	鈴木唯人	清水エスパルス
	17	山本理仁	ガンバ大阪
	18	藤田譲瑠チマ	横浜F・マリノス
	19	西川潤	サガン鳥栖
	20	三戸舜介	アルビレックス新潟
FW	21	藤尾翔太	徳島ヴォルティス
	23	小田裕太郎	ヴィッセル神戸
	24	細谷真大※3	柏レイソル
	26	染野唯月※2	東京ヴェルディ

（小久保、斉藤は11月15日に現地で合流し、23日に現地で解散）

POR：ポルトガル、NED：オランダ

※1：コンディション不良のため不参加
※2：追加招集
※3：コンディション不良のため途中離脱

<スケジュール>

11月13日	トレーニング（高円宮記念JFA夢フィールド）
14日	トレーニング（高円宮記念JFA夢フィールド） 羽田発
15日	マラガ着 トレーニング
16日～17日	トレーニング（Estadio La Cartuja）
18日	国際親善試合 vs U-21スペイン代表（Estadio La Cartuja）
19日	移動（マラガ→ポルティマン） トレーニング
20日	トレーニング
21日	トレーニング（Estádio Municipal de Portimão）
22日	国際親善試合 vs U-21ポルトガル代表（Estádio Municipal de Portimão）
23日	リスボン発
24日	羽田着

<トレーニングパートナー>

Pos.	背番号	名前	所属
		山内日向汰	桐蔭横浜大学
		山田裕翔	国士舘大学
		植村洋斗	早稲田大学
		関根大輝	拓殖大学
		角昂志郎	筑波大学
		根本健太	流通経済大学

国際親善試合

U-21日本代表　0（前半0-0　後半0-2）2　U-21スペイン代表

●2022年11月18日　20:00　●Estadio La Cartuja　●試合時間:90分　●審判員:［主審］Antonio Emmanuel Carvalho Nobre（POR）　［副審］Nelson Felipe Vila Pereira（POR）／Pedro Ricardo Ferreira Ribeiro（POR）　［第4の審判員］Carlos André Fernández Macedo（POR）

日本（監督:大岩剛）:［GK］（1）佐々木雅士　［DF］（2）半田陸<→80'（22）畑大雅>（4）鈴木海音<→80'（3）馬場晴也>（5）木村誠二（15）加藤聖<→62'（21）バングーナガンデ佳史扶>　［MF］（7）山本理仁<→62'（6）川崎颯太>（8）藤田譲瑠チマ<→80'（16）松岡大起>（10）鈴木唯人<→80'（17）西川潤>（14）三戸舜介<→46'（20）松村優太>（18）斉藤光毅<→62'（13）佐藤恵允>　［FW］（9）藤尾翔太<→46'（19）小田裕太郎>

控え:（12）鈴木彩艶（23）小久保玲央ブライアン（11）染野唯月

得点　47'、69' 失点（0-1）（0-2）

国際親善試合

U-21日本代表　2（前半1-0　後半1-1）1　U-21ポルトガル代表

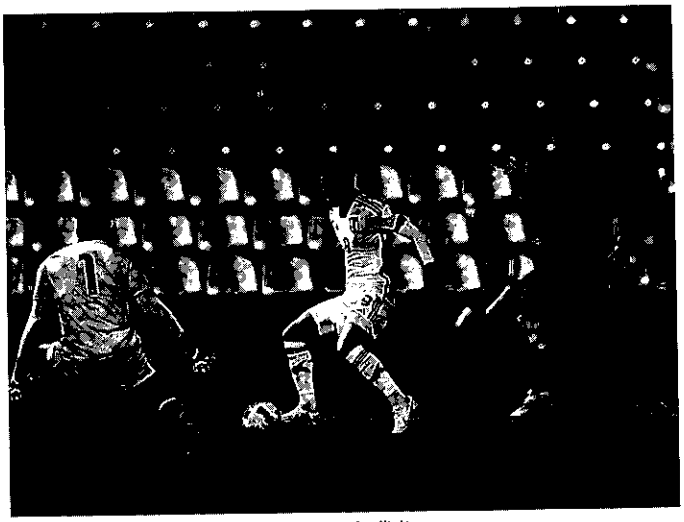
●2022年11月22日　19:15　●Estádio Municipal de Portimão　●試合時間:90分　●審判員:［主審］ARISTOTELIS DAIAMANTOPOULOS（GRE）　［副審］ANDREAS MEINTANAZ（GRE）／KONSTANTINOS PSARRIS（GRE）　［第4の審判員］BRUNO VIEIRA（POR）

日本（監督:大岩剛）:［GK］（12）鈴木彩艶　［DF］（2）半田陸（4）鈴木海音（5）木村誠二（21）バングーナガンデ佳史扶<→69'（15）加藤聖>　［MF］（6）川崎颯太<→46'（8）藤田譲瑠チマ>（7）山本理仁<→88'（16）松岡大起>（10）鈴木唯人<→88'（11）染野唯月>（18）斉藤光毅<→59'（14）三戸舜介>（20）松村優太<→69'（9）藤尾翔太>　［FW］（19）小田裕太郎<→59'（17）西川潤>

控え:（1）佐々木雅士（23）小久保玲央ブライアン（13）佐藤恵允（22）畑大雅

得点　21' 小田裕太郎（1-0）、78' 失点（1-1）、92' 藤尾翔太（2-1）

国際親善試合・U-21日本代表 vs U-21スペイン代表



国際親善試合・U-21日本代表 vs U-21ポルトガル代表

U-19日本代表　スペイン遠征

【スタッフ】

○監督：冨樫剛一（NCS）　○コーチ：船越優蔵（NCS／JFAアカデミー福島）　○ロールモデルコーチ：内田篤人（JFAロールモデルコーチ）　○GKコーチ：川口能活（NCS）　○フィジカルコーチ：菅野淳（JFAフィジカルフィットネスプロジェクト）　○テクニカルスタッフ：片桐央視（JFAテクニカルハウス）

<選手>

Pos.	名前	所属
GK	木村凌也	日本大学
	若林学歩	大宮アルディージャ
DF	諏訪間幸成	筑波大学
	西久保駿介	ジェフユナイテッド千葉
	菊地情太	V・ファーレン長崎
	中野伸哉	サガン鳥栖
	松田隼風	水戸ホーリーホック
	屋敷優成	大分トリニータ
	田中隼人	柏レイソル
	高井幸大	川崎フロンターレU-18
MF	熊取谷一星	明治大学
	永長鷹虎	川崎フロンターレ
	松木玖生	FC東京
	山根陸	横浜F・マリノス
MF	佐野航大	ファジアーノ岡山
	甲田英將	名古屋グランパス
	中井卓大	レアル・マドリード（ESP）
	福井太智	サガン鳥栖U-18
	北野颯太	セレッソ大阪
	保田堅心	大分トリニータU-18
FW	坂本一彩	ガンバ大阪
	熊田直紀	FC東京U-18

（中井は11月14日に現地で合流し、22日に現地で解散予定。中野、松田、田中、高井、松木、佐野、甲田、福井、北野、熊田は11月22日にカタールに移動し、SAMURAI BLUEのトレーニングパートナーとして活動。12月4日に帰国予定）

ESP：スペイン

<スケジュール>

11月13日	トレーニング（高円宮記念JFA夢フィールド） 羽田発
14日	バレンシア着 トレーニング（Golf Campoamor Resort）
15日～16日	トレーニング（Golf Campoamor Resort）
17日	国際親善試合 vs U-19スロバキア代表（Pinatar Arena）
18日	トレーニング（Golf Campoamor Resort）
19日	国際親善試合 vs U-18スペイン代表（Pinatar Arena）
20日	トレーニング（Golf Campoamor Resort）
21日	国際親善試合vs U-19フランス代表（Pinatar Arena）
22日	バレンシア発
23日	羽田着

■国際親善試合　結果

U-19日本代表　3-2　U-19スロバキア代表
得点＝屋敷優成、松木玖生、熊田直紀

U-19日本代表　1-0　U-18スペイン代表
得点＝熊取谷一星

U-19日本代表　1-2　U-19フランス代表
得点＝熊田直紀

U-19日本代表 vs U-19スロバキア代表　　U-19日本代表 vs U-19フランス代表

U-18日本代表　スペイン遠征

【スタッフ】

○団長：大橋浩司（JFA副技術委員長）　○監督：冨樫剛一（NCS）　○コーチ：西川誠太（JFA技術委員兼指導者ダイレクター）　○GKコーチ：川口能活（NCS）　○フィジカルコーチ：菅野淳（JFAフィジカルフィットネスプロジェクト）　○テクニカルスタッフ：越智滋之（JFAテクニカルハウス）

<選手>

Pos.	名前	所属
GK	春名竜聖	セレッソ大阪U-18
	田村聡佑	ヴィッセル神戸U-18
DF	ヴァン・イヤーデン・ショーン	横浜FCユース
	寺阪尚悟	ヴィッセル神戸U-18
	東廉太	FC東京U-18
	矢口駿太郎	ジェフユナイテッド千葉U-18
	土肥幹太※1	FC東京U-18
	稲垣篤志	浦和レッズユース
	市原吏音	大宮アルディージャU18
	高橋センダゴルタ仁胡	バルセロナ（ESP）
MF	坂井駿也	サガン鳥栖U-18
	松村晃助	横浜F・マリノスユース
	下田栄祐	鹿島アントラーズユース
MF	高塩隼生	横浜FCユース
	高橋輝	大宮アルディージャU18
	佐藤丈晟	大分トリニータU-18
	デニス・ジュン・パーキンソン	FCファマリカン（POR）
	石渡ネルソン	セレッソ大阪U-18
FW	木下慎之輔	セレッソ大阪U-18
	南野遥海	ガンバ大阪ユース
	内野航太郎	横浜F・マリノスユース
	冨永虹七	ヴィッセル神戸U-18

（高橋、デニスは11月4日に現地で合流し、12日に現地で解散）

ESP：スペイン、POR：ポルトガル
※1：ケガのため不参加

<スケジュール>

11月3日	トレーニング（高円宮記念JFA夢フィールド） 羽田発
4日	マラガ着 トレーニング
5日～7日	トレーニング
8日	練習試合 vs Algeciras FC（Estepona Football Center）
9日	トレーニング
10日	国際親善試合 vs U-18ベルギー代表（Estepona Football Center）
11日	トレーニング（tbc）
12日	国際親善試合 vs U-18ベルギー代表（La Quinta Football Center ） マラガ発
13日	羽田着

■国際親善試合　結果

U-18日本代表　2-0　U-18ベルギー代表
得点＝佐藤丈晟、高橋輝

U-18日本代表　4-1　U-18ベルギー代表
得点＝木下慎之輔、稲垣篤志、冨永虹七、石渡ネルソン

U-18日本代表 vs U-18ベルギー代表（1戦目）

U-17日本代表　クロアチア遠征

【スタッフ】

○団長:大橋浩司(JFA副技術委員長)　○監督:城和憲(JC)　○コーチ:大畑開(JC)　○GKコーチ:高橋範夫(NCS)　○フィジカルコーチ:中村大輔(JFAフィジカルフィットネスプロジェクト)
○テクニカルスタッフ:菅原大介(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	濱崎知康	川崎フロンターレU-18	MF	由井航太	川崎フロンターレU-18
	小林将天	FC東京U-18		皿良立輝	セレッソ大阪U-18
DF	池田春汰	横浜F・マリノスユース		林奏太朗	サガン鳥栖U-18
	尾崎凱琉	大阪桐蔭高校		早川隼平	浦和レッズユース
	伊藤稜介	ジュビロ磐田U-18		清水大翔	セレッソ大阪U-18
	堺屋佳介	サガン鳥栖U-18	FW	行友翔哉	愛媛FC U-18
	畑野優真	横浜F・マリノスユース		後藤啓介	ジュビロ磐田U-18
	永田滉太朗	横浜FC		石井久継	湘南ベルマーレU-18
	飯田陸斗	京都サンガF.C.U-18		貴田遼河	名古屋グランパスU-18
MF	鈴木陽人	名古屋グランパスU-18		花城琳斗	JFAアカデミー福島U-18

<スケジュール>

11月12日　トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
羽田発
13日　ザグレブ着
トレーニング(Zelena Laguna Sports Center)
14日　トレーニング(Zelena Laguna Sports Center)
15日　国際親善試合 vs U-18クロアチア代表(Zelena Laguna Sports Center)
16日～17日　トレーニング(Zelena Laguna Sports Center)
18日　国際親善試合 vs U-17スウェーデン代表(Zelena Laguna Sports Center)
19日～20日　トレーニング(Zelena Laguna Sports Center)
21日　国際親善試合 vs U-18デンマーク代表(Zelena Laguna Sports Center)
22日　ザグレブ発
23日　羽田着

国際親善試合

U-17日本代表　1(前半0-1 後半1-1)2　U-18クロアチア代表

●2022年11月15日　12:30　●Zelena Laguna Sports Center　●試合時間:90分

日本(監督:城和憲):[GK](1)小林将天　[DF](3)畑野優真(4)堺屋佳介(19)池田春汰<→78'(11)石井久継>　[MF](6)清水大翔(8)早川隼平<→62'(10)貴田遼河>(14)鈴木陽人<→78'(2)伊藤稜介>(16)林奏太朗(18)由井航太　[FW](9)後藤啓介<→62'(7)花城琳斗>(13)行友翔哉<→78'(17)皿良立輝>

控え:(12)濱崎知康(20)永田滉太朗

得点　15'失点(0-1)、52'早川隼平(1-1)、91'失点(1-2)

国際親善試合

U-17日本代表　4(前半1-1 後半3-0)1　U-17スウェーデン代表

●2022年11月18日　13:30　●Zelena Laguna Sports Center　●試合時間:90分

日本(監督:城和憲):[GK](12)濱崎知康　[DF](2)伊藤稜介<→60'(19)池田春汰>(3)畑野優真<→46'(16)林奏太朗>(5)飯田陸斗(20)永田滉太朗　[MF](17)皿良立輝<→75'(8)早川隼平>(18)由井航太<→46'(6)清水大翔>　[FW](7)花城琳斗<→60'(13)行友翔哉>(9)後藤啓介(10)貴田遼河<→75'(14)鈴木陽人>(11)石井久継<→75'(4)堺屋佳介>

控え:(1)小林将天(15)尾崎凱琉

得点　32'飯田陸斗(1-0)、41'失点(1-1)、80'石井久継(2-1)、87'早川隼平(3-1)、90'行友翔哉(4-1)

国際親善試合

U-17日本代表　2(前半0-0 後半2-0)0　U-18デンマーク代表

●2022年11月21日　12:30　●Zelena Laguna Sports Center　●試合時間:90分

日本(監督:城和憲):[GK](12)濱崎知康　[DF](2)伊藤稜介<→46'(19)池田春汰>(4)堺屋佳介(5)飯田陸斗<→70'(3)畑野優真>　[MF](6)清水大翔(14)鈴木陽人<→46'(8)早川隼平>(16)林奏太朗<→46'(9)後藤啓介>(17)皿良立輝<→46'(20)永田滉太朗>(18)由井航太<→70'(15)尾崎凱琉>　[FW](7)花城琳斗<→46'(11)石井久継>(10)貴田遼河<→46'(13)行友翔哉>

控え:(1)小林将天

得点　60'行友翔哉(1-0)、70'後藤啓介(2-0)

なでしこジャパン　国際親善試合

※74～75ページに関連記事あり

【スタッフ】

○団長:佐々木則夫(JFA女子委員長)　○監督:池田太(NCS)　○コーチ:宮本ともみ(NCS)　○GKコーチ:西入俊浩(NCS)　○フィジカルコーチ:大塚慶輔(NCS)　○テクニカルスタッフ:寺口謙介(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	山下杏也加	INAC神戸レオネッサ	MF	杉田妃和	ポートランド・ソーンズFC(USA)
	田中桃子	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		林穂之香	ウェストハム・ユナイテッド(ENG)
	大場朱羽*	イーストテネシー州立大学(USA)		長野風花	ノースカロライナ・カレッジ(USA)
DF	熊谷紗希	FCバイエルン・ミュンヘン(GER)		北村菜々美	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	三宅史織	INAC神戸レオネッサ		宮澤ひなた	マイナビ仙台レディース
	乗松瑠華	大宮アルディージャ VENTUS		遠藤純	エンジェル・シティ FC(USA)
	清水梨紗	ウェストハム・ユナイテッド(ENG)		藤野あおば	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	清家貴子	三菱重工浦和レッズレディース	FW	岩渕真奈	アーセナル(ENG)
	南萌華	ASローマ(ITA)		田中美南	INAC神戸レオネッサ
	宝田沙織	リンシェーピングFC(SWE)		植木理子	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	髙橋はな※1	三菱重工浦和レッズレディース			
MF	猶本光	三菱重工浦和レッズレディース			
	長谷川唯	マンチェスター・シティ(ENG)			

USA:アメリカ、GER:ドイツ、ENG:イングランド、ITA:イタリア、SWE:スウェーデン
*初招集
※1:ケガのため途中離脱

<スケジュール>

11月7日　集合、羽田発
8日　イスタンブール発、バレンシア着
トレーニング(Pinatar Arena)
9日　トレーニング(Pinatar Arena)
10日　公式トレーニング(Pinatar Arena)
11日　国際親善試合 vs イングランド女子代表(Pinatar Arena)
12日　トレーニング(Pinatar Arena)、移動
13日　トレーニング(Estadio La Cartuja)
14日　公式トレーニング(Estadio La Cartuja)
15日　国際親善試合 vs スペイン女子代表(Estadio La Cartuja)
16日　マラガ発
17日　イスタンブール発、羽田着

国際親善試合

なでしこジャパン　0（前半0-1　後半0-3）4　イングランド女子代表

●2022年11月11日　20:00　●Pinatar Arena　●試合時間:90分　●審判員:[主審]ZAZANA VALENTOVA(SVK)　[副審]MARIA SUKENIKOVA(SVK)／MIROSLAVA OBERTOVA(SVK)　[第4の審判員]MARIA KRCOVA(SVK)

日本(監督:池田太):[GK](1)山下杏也加　[DF](2)清水梨紗(3)南萌華(4)熊谷紗希(5)三宅史織<→70'(19)宝田沙織>　[MF](6)長野風花(7)宮澤ひなた<→71'(23)藤野あおば>(13)遠藤純(14)長谷川唯(15)杉田妃和　[FW](10)岩渕真奈<→58'(11)田中美南>

控え:(18)田中桃子(21)大場朱羽(8)猶本光(9)植木理子(12)乗松瑠華(16)林穂之香(20)北村菜々美(22)清家貴子

イングランド(監督:SARINA WIEGMAN):[GK](1)MARY EARPS　[DF](2)RACHEL DALY (3) NIAMH CHARLES (5) MILLIE BRIGHT (6) ESME MORGAN　[MF] (4) KEIRA WALSH<→89'(14)KATIE ZELEM>(8)GEORGIA STANWAY<→89'(18) JESSICA PARK > (10) ELLA TOONE < → 83' (17) NIKITA PARRIS >　[FW] (7) BETH MEAD (9) ALESSIA RUSSO < → 64' (19) EBONY SALMON > (11) CHLOE KELLY <→64'(12)LAUREN JAMES>

控え:(13)ELLIE ROEBUCK(21)SANDY MACIVER(15)LOTTE WUBBEN-MOY(16)MAYA LE TISSIER(20)KATIE ROBINSON(22)GABRIELLE GEORGE

得点	[イングランド]38'RACHEL DALY(0-1)、58'CHLOE KELLY(0-2)、77'ELLA TOONE(0-3)、90'JESSICA PARK(0-4)

国際親善試合

なでしこジャパン　0（前半0-1　後半0-0）1　スペイン女子代表

●2022年11月15日　20:00　●Estadio La Cartuja　●試合時間:90分　●審判員:[主審]Ionna Allayiotou(CYP)　[副審]Xenia Irodotou(CYP)／Despoina Demosthenous(CYP)　[第4の審判員]Zoe Stavrou(CYP)

日本(監督:池田太):[GK](1)山下杏也加　[DF](2)清水梨紗(3)南萌華(4)熊谷紗希(5)三宅史織<→HT(12)乗松瑠華>　[MF](8)猶本光<→61'(6)長野風花>(13)遠藤純<→61'(15)杉田妃和>(14)長谷川唯<→73'(7)宮澤ひなた>(16)林穂之香(23)藤野あおば　[FW](11)田中美南<→HT(9)植木理子>

控え:(18)田中桃子(21)大場朱羽(10)岩渕真奈(19)宝田沙織(20)北村菜々美(22)清家貴子

スペイン(監督:Jorge Vilda):[GK](1)Misa Rodríguezl　[DF](4)Rocío Gálvez(5)Ivana Andrés Sanz (7) Olga Carmona (22) Sheila García < → HT (2) Oihane Hernández Zurbano>　[MF](3)Teresa Abelleira<→71'(12)Fiamma Benítez>(8)Maite Oroz Areta<→88'(6)Maria Perez>(21)Claudia Zornoza Sánchez　[FW](10)Athenea Del Castillo Beivide (11) Alba Redondo Ferrer < → 71' (9) Nahikari Garcia > (18) Marta Cardona de Migue<→58'(17)Salma Paralluelo>

控 え:(13) Sun Quiñones (23) Enith Salón (14) María Méndez Fernández (15) Ana Tejada(16)Anna Torrodá(19)Inma Gabarro(20)Alejandra Bernabé

得点	[スペイン]9'Alba Redondo Ferrer(0-1)
警告	[スペイン]56'Athenea Del Castillo Beivide、75'Maite Oroz Areta

U-17日本女子代表　FIFA U-17女子ワールドカップインド2022

※69～73ページに関連記事あり

【スタッフ】

○団長: 能仲太司(JFA女子委員会副委員長)　○監督: 狩野倫久(NCS／ SAGAWA SHIGA FC)　○コーチ: 有町紗央里(NCS／マイナビ仙台レディース)　○GKコーチ: 井嶋正樹(NCS)
○フィジカルコーチ: 山田庸(びわこ成蹊スポーツ大学)　○テクニカルスタッフ: 寺口謙介(JFAテクニカルハウス)、見原慧(筑波大学)

<選手>

Pos.	名前	所属
GK	ｳﾙﾌ・ｼﾞｪｼｶ結吏	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
	鹿島彩莉	JFAアカデミー福島
	岩崎有波	ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ
DF	大矢さくら	ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ
	楠さやみ	セレッソ大阪堺ガールズ
	中谷莉奈	セレッソ大阪堺ガールズ
	吉岡心	JFAアカデミー福島
	岡村來佳	三菱重工浦和レッズレディースユース
	古賀塔子	JFAアカデミー福島
MF	谷川萌々子	JFAアカデミー福島
	丸井優奈	セレッソ大阪堺ガールズ
	柴田瞳	ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ
	今野真帆	三菱重工浦和レッズレディースユース
	眞城美春	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
FW	久保田真生	藤枝順心高校
	高岡澪	藤枝順心高校
FW	樋渡百花	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
	白垣うの	セレッソ大阪堺レディース
	辻澤亜唯	藤枝順心高校
	松永未夢	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
	板村真央	JFAアカデミー福島

<スケジュール>

9月28日	集合
	トレーニング（高円宮記念JFA夢フィールド）
29日	トレーニング
	成田発
30日	ドバイ着
	トレーニング（NAS sports complex）
10月1日～2日	トレーニング（NAS sports complex）
3日	トレーニング（NAS sports complex）
	国際親善試合 vs U-17アメリカ女子代表
4日	トレーニング（NAS sports complex）
	ドバイ発
5日	ゴア着
	トレーニング
6日～7日	トレーニング
8日	トレーニング（Tilak Maidan）
9日～11日	トレーニング（Utorda）
12日	FIFA U-17女子ワールドカップインド2022
	グループステージ第1戦 vs U-17タンザニア女子代表（Pandit Jawaharlal Nehru Stadium）
13日	トレーニング（Tilak Maidan）
14日	トレーニング（Utorda）
15日	グループステージ第2戦 vs U-17カナダ女子代表（Pandit Jawaharlal Nehru Stadium）
16日	トレーニング（Utorda）
17日	トレーニング（Tilak Maidan）
18日	グループステージ第3戦 vs U-17フランス女子代表（Pandit Jawaharlal Nehru Stadium）
19日～21日	トレーニング
22日	準々決勝 vs U-17スペイン女子代表（Pandit Jawaharlal Nehru Stadium）

■グループステージ

順位	グループA	アメリカ	ブラジル	モロッコ	インド	勝ち点	勝	引	負	得点	失点	差
1	アメリカ		1△1	4○0	8○0	7	2	1	0	13	1	12
2	ブラジル	1△1		1○0	5○0	7	2	1	0	7	1	6
3	モロッコ	0●4	0●1		3○0	3	1	0	2	3	5	-2
4	インド	0●8	0●5	0●3		0	0	0	3	0	16	-16

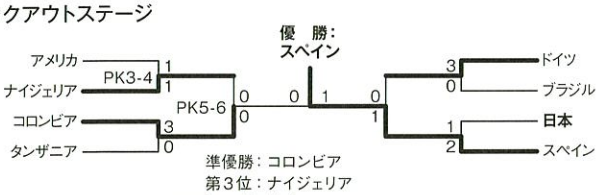
順位	グループB	ドイツ	ナイジェリア	チリ	ニュージーランド	勝ち点	勝	引	負	得点	失点	差
1	ドイツ		2○1	6○0	3○1	9	3	0	0	11	2	9
2	ナイジェリア	1●2		2○1	4○0	6	2	0	1	7	3	4
3	チリ	0●6	1●2		3○1	3	1	0	2	4	9	-5
4	ニュージーランド	1●3	0●4	1●3		0	0	0	3	2	10	-8

順位	グループC	コロンビア	スペイン	メキシコ	中国	勝ち点	勝	引	負	得点	失点	差
1	コロンビア		0●1	2○1	2○0	6	2	0	1	4	2	2
2	スペイン	1○0		1●2	1○0	6	2	0	1	3	2	1
3	メキシコ	1●2	2○1		1●2	3	1	0	2	4	5	-1
4	中国	0●2	0●1	2○1		3	1	0	2	2	4	-2

順位	グループD	日本	タンザニア	カナダ	フランス	勝ち点	勝	引	負	得点	失点	差
1	**日本**		4○0	4○0	2○0	9	3	0	0	10	0	10
2	タンザニア	0●4		1△1	2○1	4	1	1	1	3	6	-3
3	カナダ	0●4	1△1		1△1	2	0	2	1	2	6	-4
4	フランス	0●2	1●2	1△1		1	0	1	2	2	5	-3

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■ノックアウトステージ



準優勝：コロンビア
第3位：ナイジェリア
フェアプレー賞：**日本**

<3位決定戦>ナイジェリア　3-3 (PK3-2)　ドイツ

■大会各賞

FIFA Fair Play Trophy：日本

adidas Golden Ball：LOPEZ Vicky（スペイン）
adidas Silver Ball：CAICEDO Linda（コロンビア）
adidas Bronze Ball：ALBER Mara（ドイツ）

adidas Golden Boot：BENDER Loreen（ドイツ／４得点０アシスト）
adidas Silver Boot：谷川萌々子（日本／４得点０アシスト）
adidas Bronze Boot：CAICEDO Linda（コロンビア／４得点０アシスト）

adidas Golden Glove：FUENTE Sofia（スペイン）

グループステージ第１戦

U-17日本女子代表 4（前半1-0 後半3-0）0 U-17タンザニア女子代表

●2022年10月12日 20:00 ●Pandit Jawaharlal Nehru Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]FERNANDEZ Anahi(URU) [副審]MASCARANA Luciana(URU)／KERR-WILSON Jassett(JAM) [第4の審判員]WELCH Rebecca(ENG) [VAR]KOROLEVA Ekaterina(USA) [AVAR]KLARLUND Frida(DEN) ●マッチコミッショナー:KASSABOV Michail(BUL) ●観衆:3,566人

日本(監督:狩野倫久):[GK](1)岩崎有波 [DF](5)大矢さくら(6)吉岡心<→76'(4)楠さやみ>(16)中谷莉奈<→90+6'(3)岡村来佳>(17)古賀塔子 [MF](2)白垣うの(7)今野真帆<→HT(20)丸井優奈>(10)柴田瞳<→HT(9)樋渡百花>(11)松永未夢<→64'(12)板村真央>(14)谷川萌々子 [FW](13)辻澤亜唯<→80'(15)高岡澪>

控え:(18)鹿島彩莉(21)ウルフ・ジェシカ結吏(8)眞城美春(19)久保田真生

タンザニア(監督:SHIME Bakari):[GK](18)MAKAU Zulfa [DF](2)LUHALA Noela(5)KIPANGA Koku<→90'(10)ALLY Zainabu>(12)MNALLY Diana(17)BAHERA Christer(21)MWAMAKAMBA Violeth [MF](3)UBAMBA Hasnath(6)LEMA Joyce(9)MNUNKA Aisha(13)SALUM Fikiri<→54'(15)NOVATUS Florentina> [FW](16)KINEGA Neema

控え:(1)MTUNDA Husna(20)RWEHUMBIZA Audax(4)MPANJA Husna(7)MAPUNDA Veronica(8)MOHAMEDI Shehati(11)EVARIST Dotto(14)MOHAMED Rehema(19)SALIM Rahma

得点	[日本]33'白垣うの(1-0)、67'板村真央(2-0)、75'辻澤亜唯(3-0)、81'谷川萌々子(4-0)
警告	[タンザニア]80'NOVATUS Florentina
退場	[タンザニア]20'Neema KINEGA

グループステージ第２戦

U-17日本女子代表 4（前半2-0 後半2-0）0 U-17カナダ女子代表

●2022年10月15日 20:00 ●Pandit Jawaharlal Nehru Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]DAZA Maria Victoria(COL) [副審]ARTEAGA Nataly(COL)／VAD Anita(HUN) [第4の審判員]CORELLA Susana(ECU) [VAR]DI IORIO Salome(ARG) [AVAR]MARISCAL Felisha(USA) ●マッチコミッショナー:KASSABOV Michail(BUL) ●観衆:5,492人

日本(監督:狩野倫久):[GK](18)鹿島彩莉<→79'(21)ウルフ・ジェシカ結吏> [DF](5)大矢さくら(16)中谷莉奈(17)古賀塔子 [MF](2)白垣うの(7)今野真帆<→75'(10)柴田瞳>(8)眞城美春(14)谷川萌々子<→60'(3)岡村来佳> [FW](9)樋渡百花(13)辻澤亜唯<→60'(15)高岡澪>(19)久保田真生<→HT(11)松永未夢>

控え:(1)岩崎有波(4)楠さやみ(6)吉岡心(12)板村真央(20)丸井優奈

カナダ(監督:HUMPHRIES Emma):[GK](1)LALLIER Coralie [DF](3)OTTEY Ella(5)MARKESINI Zoe(6)LOGAN Clare(17)OCHING Iba<→56'(12)OKEKE Janet>(19)WATSON Renee<→HT(20)PERRAULT Jaime> [MF](4)MONCK Izzy(10)HERNANDEZ GRAY Jeneva<→83'(14)BORDELEAU Jade>(13)HAUER Anna<→69'(8)ROY Feticia> [FW](7)ALLEN Amanda(9)BRIGGS Kayla<→HT(11)CHUKWU Annabelle

控え:(18)HENNING Noelle(21)FENWICK Faith(2)ARCHIBALD Mya(15)WONG Emily(16)ROBERTS Ashley

得点	[日本]9'久保田真生(1-0)、37'白垣うの(2-0)、52'谷川萌々子(3-0)、90+2'高岡澪(4-0)
警告	[カナダ]90+1'OTTEY Ella

グループステージ第３戦

U-17日本女子代表 2（前半1-0 後半1-0）0 U-17フランス女子代表

●2022年10月18日 20:00 ●Pandit Jawaharlal Nehru Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]RIVET Maria(MRI) [副審]VICTOIRE Queency(MRI)／ABDELFATTAH Yara(EGY) [第4の審判員]CORELLA Susana(ECU) [VAR]PUUDOM Sivakorn(THA) [AVAR]KOROLEVA Ekaterina(USA) ●マッチコミッショナー:KASSABOV Michail(BUL) ●観衆:6,734人

日本(監督:狩野倫久):[GK](1)岩崎有波 [DF](3)岡村来佳(6)吉岡心(16)中谷莉奈(17)古賀塔子 [MF](8)眞城美春<→86'(4)楠さやみ>(11)松永未夢(14)谷川萌々子<→HT(20)丸井優奈> [FW](13)辻澤亜唯<→HT(10)柴田瞳>(15)高岡澪<→70'(12)板村真央>(19)久保田真生<→HT(9)樋渡百花>

控え:(18)鹿島彩莉(21)ウルフ・ジェシカ結吏(2)白垣うの(5)大矢さくら(7)今野真帆

フランス(監督:LOCATELLI Cecile):[GK](1)BELHADJ Feerine [DF](2)JOB Taeryne(4)BOISSET Lola(7)LIAIGRE Fiona<→86'(12)MOSSARD Juliette>(13)ELIMBI Tara [MF](8)COUTEL Charline<→76'(3)BELHOUT-ACHI Louna>(17)SIDIBE Assa(20)ROSSI Fanny<→HT(6)PACAUD Wassilah→81'(15)DUMETS Jeanne> [FW](9)CALBA Lucie(10)CHOSSENOTTE Shana(19)MENDY Melinda

控え:(16)LEBRUN Lisa(21)TISSINO Julie(14)TOURISS Imane(18)FELDEN Agathe

得点	[日本]29'谷川萌々子(1-0)、90+1'楠さやみ(2-0)

準々決勝

U-17日本女子代表 1（前半0-0 後半1-2）2 U-17スペイン女子代表

●2022年10月22日 20:00 ●Pandit Jawaharlal Nehru Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]GARCIA Katia(MEX) [副審]CAUDILLO Enedina(MEX)／RENSCH Mijensa(SUR) [第4の審判員]MARCOTTE Myriam(CAN) [VAR]DI IORIO Salome(ARG) [AVAR]MARISCAL Felisha(USA) ●マッチコミッショナー:KASSABOV Michail(BUL) ●観衆:6,432人

日本(監督:狩野倫久):[GK](1)岩崎有波 [DF](5)大矢さくら(6)吉岡心(16)中谷莉奈(17)古賀塔子 [MF](2)白垣うの<→85'(10)柴田瞳>(7)今野真帆(8)眞城美春(11)松永未夢<→60'(9)樋渡百花>(14)谷川萌々子 [FW](13)辻澤亜唯

控え:(18)鹿島彩莉(21)ウルフ・ジェシカ結吏(3)岡村来佳(4)楠さやみ(12)板村真央(15)高岡澪(19)久保田真生(20)丸井優奈

スペイン(監督:GONZALO Kenio):[GK](1)FUENTE Sofia [DF](2)PUJOLS Judit<→84'(12)ALGUACIL Ainhoa>(5)VILLAFANE Sandra(6)ARTERO Marina(15)ORTEGA Sara<→84'(19)MARTRET Laia> [MF](9)LOPEZ Vicky(16)LIBRAN Cristina<→84'(18)MIRANDA Naara>(17)RIVAS Marina [FW](7)CORRALES Lucia<→75'(8)ENRIQUE Olaya>(10)CAMACHO Carla<→60'(20)PARTIDO Paula>(11)AMEZAGA Jone

控え:(13)ASTRALAGA Eunate(21)VICARIO Jimena(3)SIERRA Yoli(4)CORRERO Noe

得点	[日本]66'谷川萌々子(1-0) [スペイン]87'、90+3'LOPEZ Vicky(1-1)(1-2)

フットサル日本女子代表　スペイン遠征

【スタッフ】

○フットサルナショナルチームダイレクター：小森隆弘（JFAフットサルナショナルチームダイレクター）　○監督：須賀雄大（NCS）　○コーチ：藤田安澄（湘南ベルマーレフットサルクラブ）
○GKコーチ：内山慶太郎（NCS）　○フィジカルコーチ：内部亮（パーソナルトレーニングジム　アールズベイ）

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	井上ねね	立川アスレティックFCレディース	FP	四井沙樹	バルドラール浦安ラス・ボニータス
	須藤優理亜	フウガドールすみだレディース		江川涼	SWHレディース西宮
FP	筏井りさ	バルドラール浦安ラス・ボニータス		松本亜美	バルドラール浦安ラス・ボニータス
	宮原ゆかり	バルドラール浦安ラス・ボニータス		北川夏奈	福井丸岡ラック
	星山彩香	エスポラーダ北海道イルネーヴェ		高尾茜利	SWHレディース西宮
	伊藤果穂	バルドラール浦安ラス・ボニータス		伊藤沙世	アルコ神戸
	江口未珂	SWHレディース西宮		迫野沙羅	SWHレディース西宮
	倉持杏子	バルドラール浦安ラス・ボニータス		池内天紀	福井丸岡ラック

<スケジュール>

11月13日	羽田発
14日	イスタンブール経由、マドリード着
15日	トレーニング
16日	トレーニング 練習試合 vs Club Deportivo Leganés Fútbol Sala
17日	練習試合 vs AD Alcorcón FSF
18日～21日	トレーニング
22日	国際親善試合 vs フットサルスペイン女子代表（Polideportivo Municipal）
23日	国際親善試合 vs フットサルスペイン女子代表（Polideportivo Municipal）
24日	マドリード発
25日	イスタンブール経由、羽田着

国際親善試合

フットサル日本女子代表 2（前半1-0 後半1-3）3 フットサルスペイン女子代表

●2022年11月22日　20:30　●スペイン　●試合時間:40分(プレーイングタイム)

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1	○	井上ねね	FP	3	△	江口未珂
FP	11	○	筏井りさ	FP	6		倉持杏子
FP	15	○	伊藤果穂	FP	9	△	江川涼
FP	4	○	四井沙樹	FP	12	△	北川夏奈
FP	14	○	松本直美	FP	13	△	高尾茜利
GK	2		須藤優理亜	FP	5		伊藤沙世
FP	8	△	宮原ゆかり	FP	7	△	追野沙羅
FP	10		星山彩香	FP	16		池内天紀
				監督			須賀雄大

得点　7'江口未珂(1-0)、28'筏井りさ(2-0)、29'、39'、39'失点(2-1)(2-2)(2-3)

○:先発、△:交代出場

国際親善試合

フットサル日本女子代表 3（前半1-1 後半2-2）3 フットサルスペイン女子代表

●2022年11月23日　20:30　●スペイン　●試合時間:40分(プレーイングタイム)

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	2	○	須藤優理亜	FP	3	△	江口未珂
FP	11	○	筏井りさ	FP	6	△	倉持杏子
FP	15	○	伊藤果穂	FP	9	△	江川涼
FP	4	○	四井沙樹	FP	12	△	北川夏奈
FP	14	○	松本直美	FP	13		高尾茜利
GK	1		井上ねね	FP	5	△	伊藤沙世
FP	8	△	宮原ゆかり	FP	7	△	追野沙羅
FP	10	△	星山彩香	FP	16		池内天紀
				監督			須賀雄大

得点　3'失点(0-1)、16'筏井りさ(1-1)、23'江川涼(2-1)、26'失点(2-2)、39'追野沙羅(3-2)、39'失点(3-3)

○:先発、△:交代出場

ビーチサッカー日本代表
Intercontinental Beach Soccer Cup 2022／Neom Beach Soccer Cup

【スタッフ】

○選手兼監督：茂怜羅オズ(NCS／東京ヴェルディ BS)　○コーチ：田畑輝樹(NCS／ヴィアティン三重BS)　○フィジカルコーチ：田中章博(JFAフィジカルフィットネスプロジェクト)

<選手>

POS.	名前	所属
GK	宜野座寛也※1	ソーマブライア沖縄
	河合雄介	東京ヴェルディ BS
	柴本慎也	アヴェルダージ熊本BS
FP	山内悠誠	東京ヴェルディ BS
	茂怜羅オズ	東京ヴェルディ BS
	奥山正憲	レーヴェ横浜
	松尾那緒弥	アヴェルダージ熊本BS
	赤熊卓弥	ラソアペーゴ北九州
	上里琢文	東京ヴェルディ BS
	大場崇晃	レーヴェ横浜
	木船祐樹	アヴェルダージ熊本BS
	齋藤凱也	ソーマブライア沖縄
	田中颯	東京ヴェルディ BS

※1：チーム事情により離脱

<スケジュール>

10月28日	集合、トレーニング
29日	トレーニング 成田発
30日	ドバイ着 トレーニング
31日	公式トレーニング
11月1日	Intercontinental Beach Soccer Cup 2022 グループステージ第1戦 vs ビーチサッカーアメリカ代表（Kite Beach）
2日	グループステージ第2戦 vs ビーチサッカーパラグアイ代表（Kite Beach）
3日	グループステージ第3戦 vs ビーチサッカーイラン代表（Kite Beach）
4日	5～8位決定戦 vs ビーチサッカーサウジアラビア代表（Kite Beach）
5日	トレーニング
6日	5・6位決定戦 vs ビーチサッカーアメリカ代表（Main Stadium）
7日	ドバイ発、タブーク着
8日	公式トレーニング
9日	Neom Beach Soccer Cup グループステージ第1戦 vs ビーチサッカーオマーン代表（Gayal Beach）
10日	グループステージ第2戦 vs ビーチサッカーバーレーン代表（Gayal Beach）
11日	グループステージ第3戦 vs ビーチサッカーブラジル代表（Gayal Beach）
12日	5・6位決定戦 vs ビーチサッカーイングランド代表（Gayal Beach）
13日	タブーク発、リアド経由、アブダビ発
14日	成田着、解散

<Intercontinental Beach Soccer Cup 2022>

■グループステージ

順位	グループA	ブラジル	UAE	スペイン	サウジアラビア	勝ち点	勝	延勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	ブラジル		3○1	8○2	6○0	9	3	0	0	0	0	17	3	14
2	UAE	1●3		4○3	5○0	6	2	0	0	0	1	10	6	4
3	スペイン	2●8	3●4		4○0	3	1	0	0	0	2	9	12	-3
4	サウジアラビア	0●6	0●5	0●4		0	0	0	0	0	3	0	15	-15

順位	グループB	イラン	パラグアイ	日本	アメリカ	勝ち点	勝	延勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	イラン		6○2	4○*3	6○4	8	2	1	0	0	0	16	9	7
2	パラグアイ	2●6		8○5	4○3	6	2	0	0	0	1	14	14	0
3	日本	3●4	5●8		3○1	3	1	0	0	0	2	11	13	-2
4	アメリカ	4●6	3●4	1●3		0	0	0	0	0	3	8	13	-5

○:勝ち(勝ち点3)、○*:延長勝ち(勝ち点2)、△:PK勝ち(勝ち点1)、▲:PK負け(勝ち点0)、●:負け(勝ち点0)

■順位決定戦

<5～8位決定戦>	スペイン	3-4	アメリカ
	日本	10-3	サウジアラビア
<準決勝>	ブラジル	6-5	パラグアイ
	イラン	5-2	UAE
<7・8位決定戦>	スペイン	5-0	サウジアラビア
<5・6位決定戦>	日本	4-0	アメリカ
<3位決定戦>	パラグアイ	4-1	UAE
<決勝>	ブラジル	1-2	イラン

グループステージ第1戦

ビーチサッカー日本代表 3（第1ピリオド3-1 第2ピリオド0-0 第3ピリオド0-0）1 ビーチサッカーアメリカ代表

●2022年11月1日　16:00　●Kite Beach　●試合時間:12分×3ピリオド

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1	○	河合雄介	FP	11	△	奥山正憲
FP	10	○	茂怜羅オズ	FP	5	△	上里琢文
FP	7	○	大場崇晃	FP	17	△	木船祐樹
FP	8	○	松尾那緒弥	FP	15	△	齋藤凱也
FP	6	○	赤熊卓弥	FP	2	△	田中颯
GK	12	△	宜野座寛也				
FP	9	△	山内悠誠	監督			茂怜羅オズ

得点　3'、8'奥山正憲(1-0)(2-0)、6'失点(2-1)、9'大場崇晃(3-1)

○:先発、△:交代出場

グループステージ第2戦

ビーチサッカー日本代表 5（第1ピリオド2-2 第2ピリオド1-4 第3ピリオド2-2）8 ビーチサッカーパラグアイ代表

●2022年11月2日　16:00　●Kite Beach　●試合時間:12分×3ピリオド

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1	○	河合雄介	FP	11	△	奥山正憲
FP	10	○	茂怜羅オズ	FP	5	△	上里琢文
FP	7	○	大場崇晃	FP	17	△	木船祐樹
FP	8	○	松尾那緒弥	FP	15	△	齋藤凱也
FP	6	○	赤熊卓弥	FP	2	△	田中颯
GK	12	△	宜野座寛也				
FP	9	△	山内悠誠	監督			茂怜羅オズ

得点　1'失点(0-1)、2'赤熊卓弥(1-1)、6'、25'大場崇晃(2-1)(4-6)、9'失点(2-2)、15'失点(2-3)、18'失点(2-4)、21'木船祐樹(3-4)、23'失点(3-5)、24'失点(3-6)、30'失点(4-7)、36'松尾那緒弥(5-7)、35'失点(5-8)

○:先発、△:交代出場

グループステージ第３戦

ビーチサッカー日本代表 3（第1ピリオド0-1 第2ピリオド2-1 第3ピリオド1-1）4 **ビーチサッカーイラン代表**
延長0-1

●2022年11月3日　20:00　●Kite Beach　●試合時間:12分×3ピリオド、延長3分

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	12	○	宜野座寛也	FP	11	△	奥山正憲
FP	10	○	茂怜羅オズ	FP	5	△	上里琢文
FP	7	○	大場崇晃	FP	17	△	木船祐樹
FP	8	○	松尾那緒弥	FP	15		齋藤凱也
FP	6	○	赤熊卓弥	FP	2		田中颯
GK	1	△	河合雄介				
FP	9	△	山内悠誠	監督			茂怜羅オズ

得点：5'失点(0-1)、15'失点(0-2)、16'オウンゴール(1-2)、19'赤熊卓弥(2-2)、29'失点(2-3)、36'河合雄介(3-3)、36'失点(3-4)

○:先発、△:交代出場

5・6位決定戦

ビーチサッカー日本代表 4（第1ピリオド1-0 第2ピリオド2-0 第3ピリオド1-0）0 **ビーチサッカーアメリカ代表**

●2022年11月6日　17:15　●Kite Beach　●試合時間:12分×3ピリオド

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1	○	河合雄介	FP	11	△	奥山正憲
FP	10	○	茂怜羅オズ	FP	5	△	上里琢文
FP	7	○	大場崇晃	FP	17	△	木船祐樹
FP	8	○	松尾那緒弥	FP	15	△	齋藤凱也
FP	6	○	赤熊卓弥	FP	2	△	田中颯
GK	12	△	宜野座寛也				
FP	9	△	山内悠誠	監督			茂怜羅オズ

得点：9'茂怜羅オズ(1-0)、15'大場崇晃(2-0)、24'松尾那緒弥(3-0)、30'山内悠誠(4-0)

○:先発、△:交代出場

5～8位決定戦

ビーチサッカー日本代表 10（第1ピリオド3-2 第2ピリオド5-1 第3ピリオド2-0）3 **ビーチサッカーサウジアラビア代表**

●2022年11月4日　17:15　●Kite Beach　●試合時間:12分×3ピリオド

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	12	○	宜野座寛也	FP	11	△	奥山正憲
FP	10	○	茂怜羅オズ	FP	5	△	上里琢文
FP	7	○	大場崇晃	FP	17	△	木船祐樹
FP	8	○	松尾那緒弥	FP	15	△	齋藤凱也
FP	6	○	赤熊卓弥	FP	2	△	田中颯
GK	1	△	河合雄介				
FP	9	△	山内悠誠	監督			茂怜羅オズ

得点：1'、15'、17'大場崇晃(1-0)(4-2)(6-4)、4'、11'茂怜羅オズ(2-0)(3-1)、10'失点(2-1)、11'失点(3-2)、16'、29'山内悠誠(5-3)(9-3)、16'失点(5-3)、18'、19'赤熊卓弥(7-3)(8-3)、33'上里琢文(10-3)

○:先発、△:交代出場

DATA BOX

<Neom Beach Soccer Cup>

■グループステージ

順位	グループA	パラグアイ	UAE	イングランド	サウジアラビア	勝ち点	勝	延勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	パラグアイ		9○3	5○3	10○2	9	3	0	0	0	0	24	8	16
2	UAE	3●9		8○3	4▲4 3PK4	3	1	0	0	1	1	15	16	-1
3	イングランド	3●5	3●8		8○7	3	1	0	0	0	2	14	20	-6
4	サウジアラビア	2●10	4△4 4PK3	7●8		1	0	0	1	0	2	13	22	-9

順位	グループB	ブラジル	オマーン	日本	バーレーン	勝ち点	勝	延勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	ブラジル		6○3	8○3	8○1	9	3	0	0	0	0	22	7	15
2	オマーン	3●6		6○5	3○1	6	2	0	0	0	1	12	12	0
3	日本	3●8	5●6		6○2	3	1	0	0	0	2	14	16	-2
4	バーレーン	1●8	1●3	2●6		0	0	0	0	0	3	4	17	-13

○:勝ち(勝ち点3)、○*:延長勝ち(勝ち点2)、△:PK勝ち(勝ち点1)、▲:PK負け(勝ち点0)、●:負け(勝ち点0)

■順位決定戦

＜7・8位決定戦＞　サウジアラビア　1-2　バーレーン
＜5・6位決定戦＞　イングランド　3-7　**日本**
＜3位決定戦＞　UAE　3-6　オマーン
＜決勝＞　パラグアイ　4-6　ブラジル

グループステージ第１戦

ビーチサッカー日本代表 5（第1ピリオド3-2 第2ピリオド0-1 第3ピリオド2-3）6 **ビーチサッカーオマーン代表**

●2022年11月9日　14:30　●Gayal Beach　●試合時間:12分×3ピリオド

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1	○	河合雄介	FP	6	△	赤熊卓弥
FP	10	○	茂怜羅オズ	FP	5	△	上里琢文
FP	7	○	大場崇晃	FP	17	△	木船祐樹
FP	8	○	松尾那緒弥	FP	15		齋藤凱也
FP	11	○	奥山正憲	FP	2		田中颯
GK	22	△	柴本慎也				
FP	9	△	山内悠誠	監督			茂怜羅オズ

得点：1'、9'奥山正憲(1-0)(2-2)、2'失点(1-1)、7'失点(1-2)、11'河合雄介(3-2)、21'失点(3-3)、25'失点(3-4)、29'赤熊卓弥(4-4)(4-5)、29'柴本慎也(5-5)、34'失点(5-6)

○:先発、△:交代出場

グループステージ第２戦

ビーチサッカー日本代表 6（第1ピリオド2-1 第2ピリオド2-1 第3ピリオド2-0）2 **ビーチサッカーバーレーン代表**

●2022年11月10日　14:30　●Gayal Beach　●試合時間:12分×3ピリオド

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	22	○	柴本慎也	FP	6	△	赤熊卓弥
FP	10	○	茂怜羅オズ	FP	5	△	上里琢文
FP	8	○	松尾那緒弥	FP	17	△	木船祐樹
FP	7	○	大場崇晃	FP	15	△	齋藤凱也
FP	11	○	奥山正憲	FP	2	△	田中颯
GK	1	△	河合雄介				
FP	9	△	山内悠誠	監督			茂怜羅オズ

得点：1'、2'、29'茂怜羅オズ(1-0)(2-0)(5-2)、11'失点(2-1)、14'失点(2-2)、15'大場崇晃(3-2)、17'赤熊卓弥(4-2)、31'大場崇晃(6-2)

○:先発、△:交代出場

グループステージ第3戦

ビーチサッカー日本代表	3	第1ピリオド2-4 第2ピリオド0-1 第3ピリオド1-3	8	ビーチサッカーブラジル代表

●2022年11月11日　19:45　●Gayal Beach　●試合時間:12分×3ピリオド

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1	○	河合雄介	FP	5		上里琢文
FP	10	○	茂怜羅オズ	FP	17		木船祐樹
FP	8	○	松尾那緒弥	FP	15		齋藤凱也
FP	7	○	大場崇晃	FP	2		田中颯
FP	11	○	奥山正憲				
GK	9		山内悠誠				
FP	6	△	赤熊卓弥	監督			茂怜羅オズ

得点　1'失点(0-1)、2'失点(0-2)、3'、31'赤熊卓弥(1-2)(3-7)、7'失点(1-3)、10'茂怜羅オズ(2-3)、11'失点(2-4)、13'失点(2-5)、30'失点(2-6)、31'失点(2-7)、35'失点(3-8)

○:先発、△:交代出場

5・6位決定戦

ビーチサッカー日本代表	7	第1ピリオド2-0 第2ピリオド2-1 第3ピリオド3-2	3	ビーチサッカーイングランド代表

●2022年11月12日　17:15　●Gayal Beach　●試合時間:12分×3ピリオド

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	22	○	柴本慎也	FP	6		赤熊卓弥
FP	10	○	茂怜羅オズ	FP	5	△	上里琢文
FP	8	○	松尾那緒弥	FP	17	△	木船祐樹
FP	7	○	大場崇晃	FP	15		齋藤凱也
FP	11	○	奥山正憲	FP	2		田中颯
GK	1		河合雄介				
FP	9		山内悠誠	監督			茂怜羅オズ

得点　1'大場崇晃(1-0)、4'柴本慎也(2-0)、16'失点(2-1)、18'、27'茂怜羅オズ(3-1)(6-1)、20'木船祐樹(4-1)、26'上里琢文(5-1)、27'失点(6-2)、33'松尾那緒弥(7-2)、36'失点(7-3)

○:先発、△:交代出場

※Neom Beach Soccer Cupグループステージ第3戦 vs ビーチサッカーブラジル代表で赤熊卓弥が代表通算100得点を達成

JFAエリートプログラムU-14　トレーニングキャンプ(静岡・時之栖)

【スタッフ】

○監督:大畑開(JC)　○コーチ:栗原英毅(秋田県サッカー協会)　○GKコーチ:川俣則幸(JC)

<選手>

Pos.	名前	所属
GK	宮本煌大	名古屋グランパスU-15
	新堀恵太	FC東京U-15むさし
FP	川端彪英	京都サンガF.C. U-15
	加藤孝一朗	松本山雅FC
	塩尻哲平	セレッソ大阪西U-15
	原櫻太	ファジアーノ岡山U-15
	赤沼想斗	刈谷JY
	坂口昊太郎	サガン鳥栖U-15
	河村虎之介※1	北海道コンサドーレ札幌U-15
	川崎敦史	サンフレッチェ広島ジュニアユース
	田中遥大	FC東京U-15深川
	小林瞭介	横浜F・マリノスジュニアユース
	大野廉門	サガン鳥栖U-15
FP	中村龍	VIVAIO船橋S.C
	吉田湊海	FC多摩
	西村水岐※2	ヴィッセル神戸U-15
	中村快生	ながいユナイテッドフットボールクラブ
	石田翔琉	名古屋グランパスU-15
	朝日奈英心	徳島ヴォルティスジュニアユース
	藤井翔大	横浜F・マリノスジュニアユース
	坂口佑樹	神戸フットボールクラブ
	安西来起	さぬき南中学校
	児玉一成※3	京都サンガF.C. U-15
	吉田遥翔※3	スプレッド・イーグルFC函館

※1:コンディション不良のため不参加
※2:ケガのため不参加
※3:追加招集

<スケジュール>

11月8日　トレーニング(静岡・時之栖)
9日　トレーニング(静岡・時之栖)
　　練習試合(静岡・時之栖)
10日　オフザピッチプログラム
　　トレーニング(静岡・時之栖)
11日　練習試合(静岡・時之栖)

JFAエリートプログラムU-13　日韓交流戦(J-GREEN堺)

【スタッフ】

○監督:星原隆昭(JC)　○コーチ:鈴木貴浩(JC)、菊地満(盛岡市立北松園中学校)　○GKコーチ:田口哲雄(JC)

<選手>

Pos.	名前	所属
GK	佐々木翔大	ブラウブリッツ秋田U-15
	川中碧音	セレッソ大阪西U-15
FP	永添功樹	セレッソ大阪U-15
	長南開史	柏レイソルU-15
	川村求	横河武蔵野FC U-15
	里見汰福	ヴィッセル神戸U-15
	大野田和希	松本山雅FC U-15
	小笠原央	鹿島アントラーズジュニアユース
	高橋成海	徳島ヴォルティスジュニアユース
	田中優翔	サンフレッチェ広島F.C.ジュニアユース
FP	松本空	セレッソ大阪U-15
	山根璃久	サガン鳥栖U-15
	川上篤人	鹿児島ユナイテッドFC U-15
	草野陸	横浜F・マリノスジュニアユース
	北島京悟	青森山田中学校
	小枝朔太郎	ジュビロ磐田ジュニアユース
	古川蒼空	北海道コンサドーレ札幌U-15
	松坂泰志	北海道コンサドーレ札幌U-15
	落合哉太	JFAアカデミー福島U-15EAST
	八色隼人	名古屋グランパスU-15

<スケジュール>

11月14日　トレーニング(J-GREEN堺)
15日　トレーニング(J-GREEN堺)
　　練習試合(J-GREEN堺)
16日　合同トレーニング(J-GREEN堺)
　　オフザピッチプログラム
17日　トレーニング(J-GREEN堺)
　　練習試合(J-GREEN堺)
18日　トレーニング(J-GREEN堺)

JFAエリートプログラム女子U-14　トレーニングキャンプ(大阪)

【スタッフ】

○監督:木村リエ(JC/JFAアカデミー今治)　○コーチ:佐野佑樹(JC)　○GKコーチ:本村俊三(JFAコーチ/札幌大谷学園)

<選手>

Pos.	名前	所属
GK	関口明日香	セレッソ大阪堺ガールズU-15
	神田瑠伽	京都精華中学校
FP	内田桜央	北海道コンサドーレ旭川U-15
	青山千晴	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニーレ
	佐藤色	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
	岩田琳香	FC時之栖U-15
	飯田雫瑠	セレッソ大阪堺ガールズU-15
	木下珠結	高川学園中学校
	禰宜田千夏	バニーズ京都Flaps
	早坂優来	FC今治レディースNEXT/JFAアカデミー今治
FP	須長穂乃果	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
	佐藤果林	マイナビ仙台レディースジュニアユース
	平川陽菜	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
	高松希	富山レディース
	梅月万優子	JFAアカデミー福島
	福島望愛	JFAアカデミー福島
	酒井美祐	RESC GIRLS U-15/JFAアカデミー堺
	山部愛凜	ACファルベン
	樋口らら	横須賀シーガルズMEG
	朝賀咲月	RESC GIRLS U-15

<スケジュール>

11月7日　トレーニング
8日　トレーニング
　　練習試合 vs U-14韓国女子代表
9日　トレーニング
　　練習試合 vs JFAアカデミー堺
10日　トレーニング
　　練習試合 vs U-14韓国女子代表
11日　トレーニング

女子GKキャンプ(高円宮記念JFA夢フィールド)

【スタッフ】

○GKコーチ: 井嶋正樹(JC)、安齋和之(JC／福島県立ふたば未来学園高校)、宇津江智保(JC／群馬県サッカー協会)、櫛引実(JC／ JFAアカデミー堺)、磯上まみ(JFAコーチ／ノジマステラ神奈川相模原)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	小野寺茉央	ちふれASエルフェン埼玉マリU−15	GK	澤浦花穂	ちふれASエルフェン埼玉マリU−15
	湯ノ口愛佑菜	FCヴィトーリア　※JFAアカデミー堺		三治花音	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニーレ
	寺本唯香	大宮アルディージャ VENTUS U15		小舟戸鞠那	アルビレックス新潟レディースU-15
	佐藤璃星	湘南ベルマーレU-15ガールズ		菊原悠愛	SOLESTRELLA NARA 2002
	宮越杏純	松本山雅FCレディースU-15		佐藤りのあ	マイナビ仙台レディースジュニアユース
	富井涼	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース		東愛結	クラベリーナ東住吉
	西結来	モゼーラ鹿児島		朴木毅乃	十勝FSリトルガールズU-15
	濱田桃奈	Bravo-Na U-15 レディース		草野咲綺	フライアFCウェネス　※JFAアカデミー今治
	山田七望	松本山雅FCレディースU-15		大久保由奈	八女学院女子フットボールクラブ
	須田弥美樹	守恒中学校		伊達優芽	RESC GIRLS U-15

<スケジュール>
11月11日〜13日　トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)

JFAフットサルGKキャンプ2022②(高円宮記念JFA夢フィールド)

【スタッフ】

○GKコーチ: 内山慶太郎(JFAフットサルGKプロジェクトリーダー)　○アシスタントGKコーチ: 三浦拓(JFAフットサルGKプロジェクト／北海道文教大学附属高校)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	物部呂敏	名古屋オーシャンズU-18	GK	廣田尚眞	藤井学園寒川高校
	西野立晟	相生学院高校		熊澤凜太郎	東急SレイエスFC フットサルU-18
	小林剣太	アグレミーナ浜松フットサルアカデミーU-18		五頭亮風	ROBOGATO U-18
	入江悠斗	フウガドールすみだファルコンズ		中山洸大	P.S.T.C. LONDRINA
	新井大樹	メッセ天下茶屋FC U-18		宮園大瑠	ペスカドーラ町田U-15

<スケジュール>
10月29日〜30日　トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)

JFA U-18フットサルタレント育成普及事業①(高円宮記念JFA夢フィールド)

【スタッフ】

○育成ダイレクター: 小森隆弘(JFA)　○コーチ: 鈴村拓也(JFAフットサルインストラクター／神戸ハーバーフットボールクラブ)、西野宏太郎(JFAフットサルインストラクター／リガーレヴィア葛飾)　○GKコーチ: 富澤孝(JFAフットサルGKプロジェクト／フウガドールすみだ)　○フィジカルコーチ: 内部亮(JFAフットサルフィジカルプロジェクト／アールズベイ)

<選手>

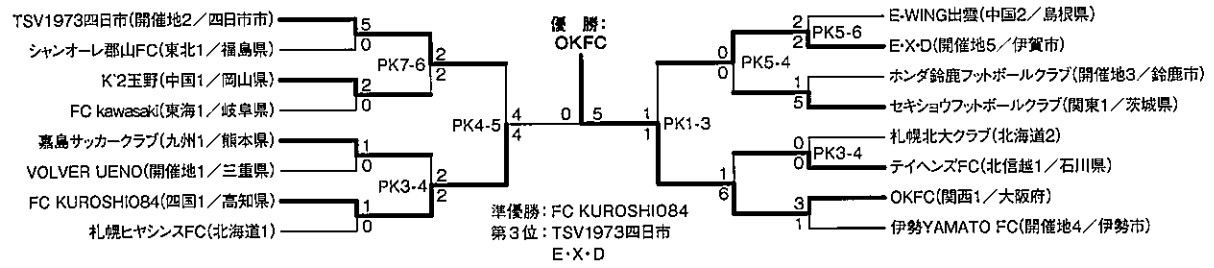
Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	入江悠斗	フウガドールすみだファルコンズ	FP	竹下藍登	フウガドールすみだファルコンズ
	廣田尚眞	藤井学園寒川高校		佐藤大仁	ペスカドーラ町田U-18
FP	木村颯也	ペスカドーラ町田U-18		宮田惇平	フウガドールすみだファルコンズ
	岡田真諒	FFCエストレーラ川口U-18		河村光流	聖和学園高校
	三浦歩蓮	聖和学園高校		町田頼武	相生学院高校
	浅野岬	聖和学園高校		木原悠吾	gatt2008U-18
	帆足岳	フウガドールすみだファルコンズ		酒井春輔	名古屋オーシャンズU-18
	片山聖	湘南ベルマーレフットサルクラブロンドリーナU-18		青島竣平	ペスカドーラ町田U-18
	祖父江隆ノ介	ペスカドーラ町田U-18		塚田悠璃	リガーレ東京ネクストU-15

<スケジュール>
11月12日〜13日　トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)

第29回全国クラブチームサッカー選手権大会

(一財) 全国社会人サッカー連盟とJFAが主催する本大会は、JFAに登録された第1種(準加盟を含む)のクラブチーム、および全国社会人サッカー連盟に登録されたチーム(Jリーグ・JFL・地域リーグ加盟チーム・自衛隊・自治体職員・大学・高専・専門学校の連盟加盟チームは除く)で、大会エントリー登録期限までにJFAが登録を承認した選手に出場資格が与えられた。今大会は、10月29日〜11月1日に三重県で開催された。

※18ページに関連記事あり



準決勝

TSV1973四日市 4 (前半2-2 後半2-2 PK4-5) 4 FC KUROSHIO84

●2022年10月31日　11:00　●三重交通Gスポーツの杜鈴鹿サッカー・ラグビー場メインG
●試合時間:70分、PK　●審判員:[主審]曽根未宇　[副審]柳彩乃／馬場成美　[第4の審判員]間島美奈子　●マッチコミッショナー:八島隆志　●観衆:20人

TSV1973(監督:小川真吾):[GK](1)小倉景規　[DF](4)小川真吾(22)森島大(25)山口歩夢<→65'(10)東拓実>(30)市川佑馬　[MF](7)水谷恭大(8)五十嵐康輔(18)中島悠翔(23)渡辺聖弥　[FW](9)樋尾海人(13)金平将輝

FC KUROSHIO(監督:久保田聖也):[GK](1)酒井雄仁　[DF](7)松下泰生<→28'(3)都築天>(17)宮本敬太(20)上村雅幸(27)黒田柊斗(32)小橋一世　[MF](5)濱田泰輔<→62'(19)藤原聖人>(10)濵岡克南(16)尾又司　[FW](26)黒田伶遠<→HT(23)中野朝日>(28)中須凌

控え:(25)久保田聖也(22)北山侑利(30)菊池範之(33)宮地拓未

得点	[TSV1973]24'山口歩夢(1-2)、31'金平将輝(2-2)、48'水谷恭大(3-3)、59'樋尾海人(4-3) [FC KUROSHIO]2'オウンゴール(0-1)、17'松下泰生(0-2)、37'中野朝日(2-3)、68'都築天(4-4)
警告	[TSV1973]42'五十嵐康輔
PK	[TSV1973]　先(7)○(9)○(10)○(8)○(4)× [FC KUROSHIO](23)○(20)○(10)○(16)○(17)○

【参加選手】

<札幌ヒヤシンスFC>　監督:葛西恭平
高柳暁、葛西恭平、中村直弥、谷川大、佐藤優博、野脇一馬、能戸飛美希、佐々木嶺、栗田大雅、佐藤吏、田中陸翔、香西龍一、川口凌、水本耀太、城所拓也、石川晶太、高橋恒大、山本大介、西田裕章、金川翔

<札幌北大クラブ>　コーチ:佐藤景太
西村真登、津田収、岡田滉平、菅原亘利、庫田龍太、赤木啓真、田鎖廣大、片寄諒亮、野村宗正、斉藤駿、奈良銀二、北村修勇人、荒川颯介、佐藤景太、長尾彬彦、金平健吾、山崎聡一朗、山本佳祐、池内健心、中澤拓郎

<シャンオーレ郡山FC>　監督:齋藤陽介
矢部聖也、小松裕、吉田泰司、大里達也、齋藤陽介、山崎掌之、池田知広、細見和成、芳賀俊介、渋谷祐真、岡部椋太、五十嵐拓也、熊田航仁、三好敦博、西塔秀人、熊坂凌太、今井勇希、佐々木太一、鈴木翼、金濵顕也、遠藤拓馬、渡辺巧、吉成浩登、高橋大喜、櫛田雅文、三本松翔希、中鉢駿矢、清水亮汰

<セキショウフットボールクラブ>　監督:内藤清志
関公平、河原龍也、佐藤和希、嶌嵜澪、野村日向、宇野裕哉、澤井圭介、石神直哉、伊東裕貴、千葉樹、新居見健人、蒲生彪斗、福田朋、黒沢幹也、河野新次、細谷樹、内藤清志、永作光基、山本夏輝、杉山亮太、佐藤慶典、富樫大、渡邊優斗、宇留野裕和、小森太一郎

<テイヘンズFC>　監督:大矢直史
永井威風、若林翼、中堀徳哉、町恭輔、高田創一、高田真生、永田陸人、大矢直史、谷澄也、堀場一輝、八幡桂智、田畑公皓、寺沢徹哉、越川蒼輝、太田京輔、西田達也、能村拓海、河村侑輝、白井達也、関沢勇二、森北斗、中川凌輔、橋爪健斗、佐々木廉、木挽航

<FC Kawasaki>　監督:高橋誠
土屋喜寛、笠井天晴、山田健太、杉浦友基、太田侑作、小林健蔵、武藤研二、坂井海太、高橋誠、中根稜太、岩佐祐輝、野村亮翔、本田裕樹、木村諒多、岩田利彦、山本賢、藤田好貴、熊澤瑞希、可児万里、田中元都、子安啓斗、山田涼介、平田裕也、井上怜嗣、鈴木達也、川瀬亮樹、江崎圭吾、松葉祐太、小倉侑斗、津田泰伸

<OKFC>　監督:金大
栗山遥希、孫田洋介、林明輝、田中道貴、山本怜央、井上諒、梶本慎也、宮本旺拓、瀬戸大貴、笠原恵斗、山本大介、濱中優俊、小川達也、沼田大輝、森永佑、堺和希、朴直樹、南山侑紀、金隆大、宮川忍、岡田翔太郎、山内章矢、西田直人、河嶌佑起、山崎栄治郎、金本倫明、上田大夢、尾野匡祐、田之脇強史

<K'2玉野>　監督:赤木寛子
片山準平、徳永雄飛、古中竜也、前田勇樹、穐山健太、村田翔、小西悠太、磯野智史、安井悠航、藤原拓海、鶴丸貴之、小倉弘之、浦貫介、池田修康、前田佑輔、掛谷蒼空、岡崎凌士、詫間圭祐、平松大河、池田憲治、川上裕司、山本祐樹、田村亮太、高木功、吉澤敦智、西脇有紀、小島拓朗、三島康平、藤木健斗、岡義征

<E-WING出雲>　監督代行:福田浩也
福田浩也、古屋吾郎、榎本勝仁、伊藤淳、伊佐潤紀、須山雄太、島根輝弥、石原鉄也、藤原浩志、岸賢、吉井宏季、星野佑月、森脇直人、黒崎龍樹、宮崎渓太、白築健人、柴田正浩、成瀬結馬、廣江太輝、竹田大地、園山栄樹、飯塚孝允、遠藤智哉、永見統、宮崎慎之将、桑垣誓広、布施祐典、山田樹、藤本拓人

<FC KUROSHIO84>　監督:久保田聖也
酒井雄仁、久保田聖也、有田光、松下泰生、門脇春樹、秋田朱利、宮本敬太、上村雅幸、北山侑利、伊藤慎二、黒田柊斗、菊池範之、小橋一世、細川功、都築天、増田直弥、濱田泰輔、濵岡克南、川村季椰、尾又司、亀谷賢汰、藤原聖人、中野朝日、松田悠一郎、神野達朗、柿内優英、矢野翔大、黒田伶遠、中須凌、宮地拓未

準決勝

E・X・D 1 (前半1-0 後半0-1 PK1-3) 1 OKFC

●2022年10月31日　14:00　●三重交通Gスポーツの杜鈴鹿サッカー・ラグビー場メインG
●試合時間:70分、PK　●審判員:[主審]一木千広　[副審]山内恵美／谷本菜々子　[第4の審判員]朝倉みな子　●マッチコミッショナー:佐々木理　●観衆:17人

E・X・D(監督:豊生高史):[GK](1)堀永雅斗　[DF](3)塩谷拓巳(5)瀧内捷翔　[MF](7)松尾和樹(8)福岡大芽(15)大森巧規(17)花谷晋　[FW](9)小林憲治(14)山路竜生(20)佐藤光<→63'(27)瀧内悠翔>(26)太田雅之

OKFC(監督:金大):[GK](1)栗山遥希　[DF](2)林明輝<→44'(23)宮川忍>(5)山本怜央(13)梶本慎也<→67'(26)上田大夢>　[MF](4)山本大介<→56'(31)田之脇強史>(7)濱中優俊<→HT(20)山崎栄治郎>(10)沼田大輝(15)堺和希(25)山内章矢　[FW](11)河嶌佑起(28)尾野匡祐

得点	[E・X・D]35'松尾和樹(1-0) [OKFC]57'山崎栄治郎(1-1)
警告	[E・X・D]70+4'花谷晋　[OKFC]PK戦 栗山遥希
PK	[E・X・D]先(7)○(9)×(8)×(3)× [OKFC](10)○(20)○(28)○

決勝

FC KUROSHIO84 0 (前半0-3 後半0-2) 5 OKFC

●2022年11月1日　11:00　●三重交通Gスポーツの杜鈴鹿サッカー・ラグビー場メインG
●試合時間:70分　●審判員:[主審]朝倉みな子　[副審]山内恵美／谷本菜々子　[第4の審判員]曽根未宇　●マッチコミッショナー:藤井祥男　●観衆:3人

FC KUROSHIO(監督:久保田聖也):[GK](1)酒井雄仁　[DF](7)松下泰生<→25'(3)都築天>(17)宮本敬太(20)上村雅幸(22)北山侑利<→25'(23)中野朝日→60'(19)藤原聖人>(27)黒田柊斗<→51'(8)門脇春樹>(30)菊池範之<→25'(26)黒田伶遠>(32)小橋一世　[MF](10)濵岡克南(16)尾又司　[FW](33)宮地拓未<→25'(28)中須凌>

控え:(25)久保田聖也

OKFC(監督:金大):[GK](1)栗山遥希　[DF](3)田中道貴(13)梶本慎也<→HT(5)山本怜央>　[MF](4)山本大介<→48'(18)金隆大>(7)濱中優俊<→HT(20)山崎栄治郎>(10)沼田大輝<→62'(2)林明輝>(14)森永佑(15)堺和希(25)山内章矢　[FW](11)河嶌佑起<→62'(26)上田大夢>(28)尾野匡祐<→54'(31)田之脇強史>

得点	[OKFC]3'沼田大輝(0-1)、12'、31'濱中優俊(0-2)(0-3)、48'、52'尾野匡祐(0-4)(0-5)
警告	[FC KUROSHIO]59'尾又司

<嘉島サッカークラブ>　監督:宮田望
岡隼輔、上村敬人、田端文博、藤本純弥、藤田大翔、中村周平、山口訓央、西川桜介、末次諒、石坂海斗、多田太郎、上田充揮、杉本靖博、本田尋己、高野楓、藤本敏貴、塩山幹大、中道幸之介、岡田浩希、迫田憲史、榎島聖稀、満田有哉、山鹿賢人、白石卓朗、宮田望、橋本陸、藤田隼、宮村一海、本田荘一朗、北村大輝

<VOLVER UENO>　監督:安田尚史
石橋功基、福留海音、松山和貴、福永聖也、竹岡諒、市川琳久、野呂田泰誌、城本量太、内田佳唯斗、新子翔、樋口貴哉、澤居衛、安田尚史、宮本幸樹、藪内脩人、平木郁佑、中住臣翔、町野達哉、森本大輝、草薙樹、長谷川逸樹、服部宏憲、脇田龍汰、山田海斗、小梅彰太、植松龍太、丸木斗空

<TSV1973四日市>　監督:小川真吾
小倉景規、伊藤優太、飯田侑里、鷲野卓也、小川真吾、森島大、秋月和英、山口歩夢、市川佑馬、國吉祐介、中山雄登、水谷恭大、五十嵐康輔、東拓実、藤田凌、加藤慧、中島悠翔、長谷川翔大、中島啓貴、渡辺聖弥、尾上朋大、松野央資、伊藤圭都、樋尾海人、金平将輝、小林大輝

<ホンダ鈴鹿フットボールクラブ>　監督:東智彦
堀川真司、坂ノ下英伸、齋藤祐一郎、松原希就、浦公輝、長井凌也、水谷幸生、野川寛太、加田翔大、大道太晟、馬場大翔、首藤濵兵、後藤大樹、中島史夫、稲垣諒、橋本凱史、石野貴大、土屋悠弥、山口貴臣、松下幸史朗、久保湧哉、東智彦、槙木裕大、林龍一郎、矢田幹人、飯田裕之、秋月健、高橋昌弘、中川和樹

<伊勢YAMATO FC>　監督:菊川賢志
杉江磨渚斗、酒徳秀、作野基成、来田純、世古拓摩、岡田健介、稲嶺将吾、村澤優希、林颯摩、藤村泰士、紀平朝陽、西隆也、石黒史也、菊川賢志、渡邊研太、石田爽規、結城海太、斉藤瀬七、結城壮哉、大鳥居慶、城山桐、潮田悠馬、中村広太、青木冬馬、川本雄亮、大城栄司、亀田哲汰、セイド・ナジル、中西良一、神野峻

<E・X・D>　監督:豊生高史
堀永雅斗、服部琢充、杉本龍弥、加藤健輔、塩谷拓巳、山口一心、瀧内捷翔、山田哲也、瀧内悠翔、木本遼、大辻竜也、松尾和樹、福岡大芽、笠井淳平、倉田樹、津坂哲史、大森巧規、大森佑哉、花谷晋、竹岡拓未、阿部眞星、天野直哉、辻汰栄、上地音和、池端康介、小林憲治、山路竜生、上村歩、佐藤光、太田雅之

全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2022

本大会は（一財）全国社会人サッカー連盟とJFAの主催で、1次ラウンドは11月11日～13日に群馬県、新潟県、徳島県で、決勝ラウンドは11月23日～27日に埼玉県で開催された。JFAに登録された第1種（準加盟を含む）のチーム、および全国社会人サッカー連盟に登録されたチームに出場資格が与えられ、各地域リーグの代表9チーム、全国社会人サッカー選手権大会の上位3チームの12チームが参加した。

※22ページに関連記事あり

■1次ラウンド

順位	グループA	刈谷	栃木	延岡	サンク	勝ち点	勝	引	負	得点	失点	差
1	FC刈谷（東海／愛知県）		1△1	4○2	2○1	7	2	1	0	7	4	3
2	栃木シティFC（関東／栃木県）	1△1		2○0	2○1	7	2	1	0	5	2	3
3	FC延岡AGATA（全社枠2／宮崎県）	2●4	0●2		2○1	3	1	0	2	4	7	-3
4	BTOPサンクくりやま（北海道）	1●2	1●2	1●2		0	0	0	3	3	6	-3

順位	グループB	沖縄	都農	女川	浅間	勝ち点	勝	引	負	得点	失点	差
1	沖縄SV（九州／沖縄県）		3○0	0△0	6○0	7	2	1	0	9	0	9
2	ヴェロスクロノス都農（全社枠3／宮崎県）	0●3		2○1	2△2	4	1	1	1	4	6	-2
3	コバルトーレ女川（東北／宮城県）	0△0	1●2		1△1	2	0	2	1	2	3	-1
4	アルティスタ浅間（北信越／長野県）	0●6	2△2	1△1		2	0	2	1	3	9	-6

順位	グループC	浦安	福山	和歌山	徳島	勝ち点	勝	引	負	得点	失点	差
1	ブリオベッカ浦安（全社枠1／千葉県）		1○0	2○1	2○1	9	3	0	0	5	2	3
2	福山シティFC（中国／広島県）	0●1		2○0	2○1	6	2	0	1	4	2	2
3	アルテリーヴォ和歌山（関西／和歌山県）	1●2	0●2		2○1	3	1	0	2	3	5	-2
4	FC徳島（四国／徳島県）	1●2	1●2	1●2		0	0	0	3	3	6	-3

■決勝ラウンド

順位		浦安	沖縄	栃木	刈谷	勝ち点	勝	引	負	得点	失点	差
1	ブリオベッカ浦安（全社枠1／千葉県）		0△0	3○1	1○0	7	2	1	0	4	1	3
2	沖縄SV（九州／沖縄県）	0△0		0△0	4○0	5	1	2	0	4	0	4
3	栃木シティFC（関東／栃木県）	1●3	0△0		2○0	4	1	1	1	3	3	0
4	FC刈谷（東海／愛知県）	0●1	0●4	0●2		0	0	0	3	0	7	-7

○:勝ち（勝ち点3）、△:引き分け（勝ち点1）、●:負け（勝ち点0）

【参加選手】

＜BTOPサンクくりやま＞　監督:西野虎太郎
西川駿一郎、佐藤隼、熊川翔、石渡旭、満尾健人、按田頼、伊藤研太、榎本滉大、小野里司、澁谷翔太、鈴木謙、越智凌、宮城雅史、山里光太郎、志村駿太、本塚聖也、山内隆司、越智亮介、岩出拓也、間宮明紀、俵藤雅弥、枝本雄一郎、樽田葵左、上米良柊人、吉行豊輝、蒲原大輔、清水将伸、平岡将豪

＜コバルトーレ女川＞　監督:中村雅昭
宗像利公、末次敦貴、長谷川丈瑠、三善真司、桑田大幹、平木慎二、酒井隆也、舛沢樹、山内晴貴、小川和也、庄子匠、増崎大虎、法師人将大、池田幸樹、眞口幸太、吉田悠人、船木省吾、高橋晃司、今部勇太、橋本光晟、奥山泰裕、黒田涼太、田原伊織、吉森海斗、西山敦太、野口龍也、竹田そら、吉田圭、佐藤稜馬

＜栃木シティFC＞　監督:今矢直城
原田欽庸、大西将亜、後東尚輝、田中寛己、増田修斗、内田錬平、大島嵩弘、佐藤喜生、松浦航洋、阿部巧、鈴木一朗、工藤浩平、岡庭裕貴、清水貴文、野田卓宏、赤澤蓮、鳥海翔、安東輝、加藤カレッティ丈、鈴木隆雅、山村佑樹、チョ・ヨンチョル、室崎雄斗、吉田篤志、戸島章、牛原克、表原玄太

＜アルティスタ浅間＞　監督:梅山修
田中慈瑛、藤森健太、小野関龍成、丸山聡太郎、菊池翔太、中澤峻哉、木村太貴、玉林睦実、中村魁世、鈴木雄大、山小瀬登偉、工藤貴大、森谷実、宮下廉、岡本裕樹、山下浩也、喜屋武聖矢、大淵貴太、近藤智耶、東城雅也、薄葉迅人、飯島翼、中島澤音、増尾汰一、橋村龍ジョセフ、高貝樹幹、小林一希

＜FC刈谷＞　監督:村田一弘
白井貴之、宮崎浩太朗、兒島拓哉、大島遼介、松井聡太、佐々木宏樹、神田瑛士郎、岩永陸弥、秋本愛斗、石田和成、井塚脩斗、川上秀人、佐田正舟、尾崎僚、中田怜冶、野村柾斗、関戸裕希、池田修志、園田新一郎、齋藤雅之、藤原拓海、中岡想羅、川西真斗、鈴木直人、白川大吾廊

＜アルテリーヴォ和歌山＞　監督:海津英志
吉崎弘宣、桑水流拓也、磯部勘太、早川侑冶、白明哲、大橋優正、奥津大和、門司涼佑、吉谷有司、篠原和希、小久保裕也、山田大地、山中拓哉、松尾瑛太、大北啓介、加藤健人、髙瀬龍舞、高橋俊樹、竜田柊士、関知哉、田口遼、宇都木峻、堀野翔、久保賢悟、中西倫也、上原賢太郎、北島大河

＜福山シティFC＞　監督:小谷野拓夢
児玉潤、長谷川海斗、市原亮太、徳永椋太、田中憧、姫田耕大、高田健吾、藤井敦仁、前田海、韓勝康、橋本真太郎、石川悠、馬渡隼暉、石津大地、曽我大地、隅田航、高橋大樹、曽田一騎、磯江太勢、深田竜大、有田朱里、塚田裕介、田口駿、小松光樹、名執龍、澤田健太、濱口草太、菊地大輝、松岡ジョナタン

＜FC徳島＞　監督:磯部和彦
小坂楓、西垣悠暉、荻野賢次郎、天羽良輔、高畠淳也、石川雅博、田路耀介、木村将己、里出怜央、秋月駿作、巽拓也、操希翔、久保田蓮、本山遊大、山口顕矢、南野心、那須甚有、須ノ又諭、濱口竜磨、石原怜、田中成宜、出岡大輝、中尾慶心、茶谷椋、西尾和真、髙窪健人、佐々木佳亮、池上ハルウィッチ

＜沖縄SV＞　監督:高原直泰
花田力、井西海斗、井坂健太、村田怜穏、比嘉和輝、起海斗、岡根直哉、鯉沼晃、安藝正俊、吉田武史、松田麗矢、安在和樹、水越陽也、森園貴仁、中林一樹、大城佑斗、関恭範、高橋康平、秋本和希、藤池翼、髙柳一誠、荒井秀賀、戸高弘貴、儀保幸英、髙原直泰、山田雄太、一木立一

＜ブリオベッカ浦安＞　監督:都並敏史
本吉勇貴、佐久間幸一、谷口裕介、笠松亮太、藤岡優也、山崎紘吉、小泉隆斗、加藤大育、石井幹人、西袋裕太、笠嶋哲太、石原大樹、武智悠人、富塚隼、上松瑛、橋本龍馬、冨樫凌央、上中柊司、平野貴路、伊藤純也、伊川拓、秋葉勇志、飯澤良介、崔勇斗、村上弘有、二瓶翼、林容平、井上翔太郎

＜FC延岡AGATA＞　監督:桑原勇斗
田渕佑、永木裕、油木玲於奈、田中真輝、深澤卓真、久野龍心、野田和聖、村山勘治、井上将弥、南里慧斗、池元馨、亀井海凪人、大坪蘭、吉武莉央、瀬川瑠樹、森永将斗、毎床玲音、酒井将輝、寺本拓馬、倉員宏人、天川力駆、伊集院雷、江本信哉、久保木優

＜ヴェロスクロノス都農＞　監督:小寺真人
伊藤剛、朴昇利、児玉響、カゼミーロ、濱口功聖、柳田健太、古部健太、田中真照、藤田大道、阿波真也、杉山弾斗、高橋祐翔、梶山幹太、大竹隆人、曽我部慶太、中村亮、瀬戸康平、河北祥太朗、鮫島晃太、桝谷岳良、稲垣雄太、川満陸、佐藤大地、谷口堅三、鈴木将馬、白坂拓也、田村健、サミュエル・サヌミ

JFA 第10回全日本O-40サッカー大会

JFAが主催する本大会は、1983年4月1日以前生まれの2022年度JFA登録選手によって構成されたチームに参加資格が与えられた。今大会は、11月5日～7日に16チームが参加して、静岡県藤枝市で開催された。

※19ページに関連記事あり

■1次ラウンド

順位	グループA	藤枝	西湘	いなのかんたろう	十和田	勝ち点	勝	引	負	得点	失点	差
1	藤枝フットボールクラブ（開催地／静岡）		1○0	4○0	6○0	9	3	0	0	11	0	11
2	西湘Wings. FC（関東1／神奈川）	0●1		7○0	2○0	6	2	0	1	9	1	8
3	いなのかんたろう（北信越／長野）	0●4	0●7		1○0	3	1	0	2	1	11	-10
4	十和田キッカーズシニア40（東北2／青森）	0●6	0●2	0●1		0	0	0	3	0	9	-9

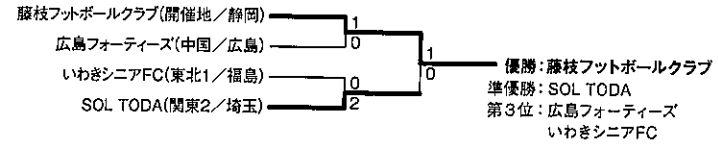
順位	グループB	広島	SKY	TONAN	ZIEX	勝ち点	勝	引	負	得点	失点	差
1	広島フォーティーズ（中国／広島）		1△1	0△0	3○0	5	1	2	0	4	1	3
2	FC. SKY（九州3／熊本）	1△1		2△2	2△2	3	0	3	0	5	5	0
3	TONAN CLUB（関西／奈良）	0△0	2△2		1△1	3	0	3	0	3	3	0
4	FCK ZIEX（北海道2）	0●3	2△2	1△1		2	0	2	1	3	6	-3

順位	グループC	いわき	徳島	船橋	OITA	勝ち点	勝	引	負	得点	失点	差
1	いわきシニアFC（東北1／福島）		2○1	0△0	2○1	7	2	1	0	4	2	2
2	徳島SFC（四国／徳島）	1●2		1△1	1○0	4	1	1	1	3	3	0
3	FC船橋（関東3／千葉）	0△0	1△1		0△0	3	0	3	0	1	1	0
4	OITA OB OVER40（九州1／大分）	1●2	0●1	0△0		1	0	1	2	1	3	-2

順位	グループD	TODA	羅針盤	札幌	三菱重工	勝ち点	勝	引	負	得点	失点	差
1	SOL TODA（関東2／埼玉）		2○1		0△0	7	2	1	0	3	1	2
2	羅針盤倶楽部NAGOYA（東海／愛知）	1●2		3○1	1○0	6	2	0	1	5	3	2
3	北海道オッサンドーレ札幌40（北海道1）	0●1	1●3		1○0	3	1	0	2	2	4	-2
4	三菱重工長崎シニア（九州2／長崎）	0△0	0●1	0●1		1	0	1	2	0	2	-2

○:勝ち（勝ち点3）、△:引き分け（勝ち点1）、●:負け（勝ち点0）

■決勝ラウンド



【参加選手】

＜北海道オッサンドーレ札幌40＞　監督:桂田直和
木村祐介、川原大典、東拓巳、田中雅美、蛯名聡司、杉田浩治、松浦公則、中村悟嗣、木村太一、灰塚拓史、武田芳幸、山中健樹、豊澤孝樹、中山貢輔、加藤大輔、杉本亮、川上亮一、貞安雅昭、桂田直和、鈴木健也、野宮正祐樹、納谷竜平、浪野良平、池田智之

＜FCK ZIEX＞　監督:西浦康浩
鈴木健之、桐山城太郎、草野善洋、松浦洋己、森仁志、草島猛、池田匡徳、及川昭太、川田宏行、小野田拓、山口寛司、山田伸樹、西浦康浩、伊藤隆裕、澤崎博史、大場満、田端充、戸嶋広和、山口巧、森央志、中島慶太、尾池庄吾、佐藤光、佐藤栄規、藤峯洋介

＜十和田キッカーズシニア40＞　監督:工藤英樹
長岩充、佐藤拓見、佐々木勝博、田中純、櫻田尚也、大坂陽一、三戸一史、太田哲、櫻田修史、畑中圭、小林孝広、佐々木輝夫、中野渡泰介、小笠原裕也、布施和則、米田智樹、菅原公明、沢目晃幸、太田美千之、田中大一、加賀沢誠、鳥谷部大成、漆舘正人

＜いわきシニアFC＞　監督:桜井一裕
比佐健太郎、鹿崎耕司、根本好賢、齋藤克洋、嶋森裕二、高坂安尚、鈴木範生、唐橋勝彦、渡邊誠、越前谷公英、鈴木克典、馬目雄介、清水康之、小野祐介、富樫誠、渡邊実、松崎祐史、遠藤武志、太田耕一、松本晋輔、笠原孝幸、桂島玄太、三瓶拓朗

＜SOL TODA＞　監督:田畑雅行
杉山博、樋上尊信、在原業親、板垣隆広、吉本賢、高見哲、小町幸一、神田浩之、野島俊介、斉藤孝二、北居明大、大森真道、石原佑樹、長瀬博一、横倉清人、堤皇人、武士田睦、若松大志、真仁田敏和、中水利久、平本大介、香西裕介、宮岸一久、黒須淳夫、青鹿登士

＜FC船橋＞　監督:古泉憲一
新田陽平、三原丈明、小倉暁博、荒木茂、永木勤、末水満男、田村道明、長沼彰太、石原泰彦、森谷耕一、岩村真一、久保田司郎、長谷孝人、西村元樹、永瀬数馬、池端恵一朗、菊池康幸、中村光浩、加瀬剛、秋葉洋平、脇将人、小泉隼一、吉原丈晴、安倍英郎、石山晴之

＜西湘Wings. FC＞　監督:奥津光弘
高橋俊介、猪狩光史、後藤佑士、伊藤聡志、加藤岳史、池田敦、竹田義弘、門松武寛、佐藤亮一、加藤博幸、小野敦一、石川英賢、遠藤博一、奥津光弘、小谷学、若杉信一、和泉学歩、原田誠、前田龍二、香川嘉宏、北村健、田丸誠一、粟飯島正義、杉山智哉、柳下仁志

＜いなのかんたろう＞　監督:小澤廣志
三沢洋之、唐澤博信、千場武弘、野原充弘、荻久保伸一、塩澤隼人、吉村和也、小沢友博、福島和也、宮原守、瀬戸宏奈保、古田大祐、平本直人、伊藤直樹、三邨亮輔、伊藤健一郎、赤羽信吾、湯田坂光成、唐本敬幸、清水久明、高橋守央、白松央、池上厚史

＜藤枝フットボールクラブ＞　監督:松尾昌則
宮城達也、渡辺隆之、松村常一、松尾昌則、黒柳秀俊、秋本倫孝、山田智紀、荻野耕輔、疋田幹佳、向島雅之、曽根淳史、久保貴裕、田中淑史、落合和博、薛田大、原田大治郎、川添祐介、杉山秀徒、可児勇樹、萩田祐介、上田昌広、小澤剛、重富充、井口大輔、杉山和弘

＜羅針盤倶楽部NAGOYA＞　監督:折井則之
小縣昭人、黒柳裕臣、松名修意、鷲谷雄介、内藤洋平、坂田大志郎、吉田篤人、金栄貴、永田秀樹、金岡慶、鶴田純志、斎藤佑輔、鬼頭健司、瀬川崇史、角岡真樹、河村洋志、曽根祐一、佛崎陽仁、高木繁信、原武浩二、川地武臣、木村順信、大場悟史、杉浦良、宮澤太機

＜TONAN CLUB＞　監督:中村聡
谷口文清、田中彰、岩本幸一郎、藤原敬二、橋垣戸光一、吉田賀樹、岩田篤、久保井秀昭、大西大輔、中原臣仁、山下豊、新田省吾、川田浩二、内田哲兵、三重野崇、西條公基、水越潤、濱村浩二、中村聡、田辺和弥、成田順、中井康司、岳藤正尚、川端泰彦、松野正義

＜広島フォーティーズ＞　監督:石川博士
横山喬之、寺谷昭信、狩山龍雄、村上譲、西原良一、原信二、山口正夫、赤木健司、船島弘平、原田良太郎、佐々木亮、林真太郎、政信博之、堀川誉哲、大竹顕、奥田雄一郎、西尾清典、宮本和典、山口孔三、黒田忠浩、榎木聡、小林俊一、中村貞一、船本親悟、竹内大造

＜徳島SFC＞　監督:阿部浩二
十川卓也、栗本雅宣、橋本彰、福川正芳、大谷祐馬、重本祐介、福島義史、高木弘仁、阿佐和孝、西谷正也、豊久大輔、豊田潤、河野史博、藤江俊輔、出張篤史、浜崎正則、田村弘樹、北田英幸、服部英明、平岩裕治、西野智也、中村貴之、阿佐勝光

＜三菱重工長崎シニア＞　監督:藤本健史
山口篤史、狩野渉、林田鷹志、飯田信吾、黒田慎也、高村正信、松尾真一、鉄本進一朗、山下寛幸、若山誠、吉田慎吾、戸田光紀、佐藤信之、伊藤栄基、大野剛、藤本政博、藤本健史、水田月満、松下英樹、宮上純、島袋信介、岡野守、西尾浩太郎、藤崎誠、品川育寛

＜FC. SKY＞　監督:門築卓也
藤枝博也、川嶋淳、森寿和、田中健、門築卓也、泉剛史、西岡寿志、松下邦昭、野田雅稔、中山翔、古関裕二、村上啓一郎、高崎秀介、浦本晃樹、本山貴一、濱田裕之、青山裕紀、清村浩太郎、稲本裕之、村上幸児、徳永龍太

＜OITA OB OVER40＞　監督:北尾直路
前川大輔、甲斐真号、首藤英俊、北尾直路、佐藤友昭、柴田健一、佐藤直樹、保月寿智、古屋博行、柴田和昌、古園純一郎、田崎貴廣、濱大樹、後藤一利、佐藤康之、河野卓也、今川亮平、山崎典保、秋元雅博、若杉典生、長木通憲、後藤康広、川上郁央、三重野宏、大平将

2022明治安田生命J1リーグ

18クラブによる2回戦総当たりリーグ戦（ホーム＆アウェイ方式）で、全34節／306試合を実施した。

※23ページに関連記事あり

■戦績表

順位	チーム名		横浜FM	川崎F	広島	鹿島	C大阪	FC東京	柏	名古屋	浦和	札幌	鳥栖	湘南	神戸	福岡	G大阪	京都	清水	磐田	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	横浜F・マリノス	H		4○2	3○0	2○0	2△2	2○1	4○0	2○1	4○1	0△0	0△0	3○0	2○0	1○0	0●2	2○0	2○0	0●1	68	20	8	6	70	35	35
		A		1●2	0●2	3○0	2△2	2△2	1●3	4○0	3△3	1△1	2△2	4○1	3○1	0●1	2○1	2○1	5○3	2○0							
2	川崎フロンターレ	H	2○1		4○0	2○1	1●4	1○0	1○0	1○0	2○1	5○2	4○0	0●4	2○1	2○0	4○0	3○1	3○2	1△1	66	20	6	8	65	42	23
		A	2●4		2○0	2○0	1●2	3○2	1△1	1△1	1●3	3●4	0△0	1●2	1○0	4○1	2△2	0●1	2○0	1△1							
3	サンフレッチェ広島	H	2○0	0●2		3○0	2○1	1●2	1●2	1○0	4○1	1●2	0△0	1△1	1△1	1○0	5○2	3○1	2○0	3○0	55	15	10	9	52	41	11
		A	0●3	0●4		2○0	3○0	1●2	3○2	0△0	0△0	1△1	2△2	1○0	0●4	3○1	0●2	1△1	2△2	2△2							
4	鹿島アントラーズ	H	0●3	0●2	0●2		3△3	0●1	1○0	0△0	2△2	4○1	4△4	2○1	1△1	2○0	0△0	1○0	2○1	3○1	52	13	13	8	47	42	5
		A	0●2	1●2	0●3		3○0	1●3	2○1	1△1	1△1	0△0	1△1	1△1	2○0	1○0	3○1	1△1	1○0	3△3							
5	セレッソ大阪	H	2△2	2○1	0●3	0●3		0●1	0●1	0●1	2○0	2△2	2○1	1△1	3○0	2○0	3○1	1△1	1△1	2○1	51	13	12	9	46	40	6
		A	2△2	4○1	1●2	3△3		0●4	0△0	0●1	1○0	1●2	1△1	2○0	1○0	0△0	2○1	0△0	3○1	2△2							
6	FC東京	H	2△2	2●3	2○1	3○1	4○0		0△0	0△0	0△0	3○0	0●1	0●2	3○1	2△2	2○0	2○0	0●2	2○0	49	14	7	13	46	43	3
		A	1●2	0●1	2○1	1○0	1○0		6○3	1●2	0●3	0△0	0●5	0●2	1●2	1●5	0△0	1○0	3○0	1●2							
7	柏レイソル	H	3○1	1△1	2●3	1●2	0△0	3●6		0●1	0△0	1○0	1●4	1●2	3○1	1○0	0●1	0●2	3○1	2○0	47	13	8	13	43	44	-1
		A	0●4	0●1	2○1	0●1	1○0	0△0		1△1	1●4	6○1	1○0	2○0	1○0	1●2	0△0	2○1	1△1	2△2							
8	名古屋グランパス	H	0●4	1△1	0△0	1△1	1○0	2○1	1△1		3○0	0●2	1△1	2○1	2○0	1○0	0●2	1△1	0●2	1○0	46	11	13	10	30	35	-5
		A	1●2	0●1	0●1	0△0	1○0	0△0	1○0		0●3	2△2	0△0	0△0	0△0	3○2	1●3	1△1	2○1	1●2							
9	浦和レッズ	H	3△3	3○1	0△0	1△1	0●1	3○0	4○1	3○0		1△1	2○1	2○0	2△2	1△1	0●1	2△2	1△1	4○1	45	10	15	9	48	39	9
		A	1●4	1●2	1●4	2△2	0●2	0△0	0△0	0●3		1△1	0●1	0△0	1○0	0△0	1△1	0●1	2○1	6○0							
10	北海道コンサドーレ札幌	H	1△1	4○3	1△1	0△0	2○1	0△0	1●6	2△2	1△1		1●2	1○0	0●2	1●2	1○0	1○0	4○3	4○0	45	11	12	11	45	55	-10
		A	0△0	2●5	2○1	1●4	2△2	0●3	0●1	2○0	1△1		0●5	5○1	1●4	0△0	0△0	1●2	1△1	2○1							
11	サガン鳥栖	H	2△2	0△0	2△2	1△1	1△1	5○0	0●1	0△0	1○0	5○0		1△1	0●2	1△1	2○1	0●1	0△0	2○0	42	9	15	10	45	44	1
		A	0△0	0●4	0△0	4△4	1●2	1○0	4○1	1△1	1●2	2○1		0●3	0●4	0△0	3○0	1●3	3△3	1●3							
12	湘南ベルマーレ	H	1●4	2○1	0●1	1△1	0●2	2○0	0●2	0△0	0△0	1●5	3○0		2○1	0△0	1○0	1△1	1●4	0△0	41	10	11	13	31	39	-8
		A	0●3	4○0	1△1	1●2	1△1	2○0	2○1	1●2	0●2	0●1	1△1		0●1	0△0	1○0	1○0	1△1	0●1							

順位	チーム名		横浜FM	川崎F	広島	鹿島	C大阪	FC東京	柏	名古屋	浦和	札幌	鳥栖	湘南	神戸	福岡	G大阪	京都	清水	磐田	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
13	ヴィッセル神戸	H	1●3	0●1	4○0	0●2	0●1	2○1	0●1	0△0	0●1	4○1	4○0	1○0		0△0	2○1	1●3	2○1	0△0	40	11	7	16	35	41	-6
		A	0●2	1●2	1△1	1△1	0●3	1●3	1●3	0●2	2△2	2○0	2○0	1●2		1○0	0●2	0●2	0△0	1○0							
14	アビスパ福岡	H	1○0	1●4	1●3	0●1	0△0	5○1	2○1	2●3	0△0	0△0	0△0	0△0	0●1		0●1	1○0	3○2	1△1	38	9	11	14	29	38	-9
		A	0●1	0●2	0●1	0●2	0●2	2△2	0●1	0●1	1△1	2○1	1△1	0△0	0△0		3○2	1○0	1●3	1○0							
15	ガンバ大阪	H	1●2	2△2	2○0	1●3	1●2	0△0	0△0	3○1	1△1	0△0	0●3	0●1	2○0	2●3		1△1	0●2	2○0	37	9	10	15	33	44	-11
		A	2○0	0●4	2●5	0△0	1●3	0●2	1○0	2○0	1○0	0●1	1●2	0●1	1●2	1○0		1△1	1△1	1△1							
16	京都サンガF.C.	H	1●2	1○0	1△1	1△1	0△0	0●1	1●2	1△1	1○0	2○1	3○1	0●1	2○0	0●1	1△1		0△0	1●4	36	8	12	14	30	38	-8
		A	0●2	1●3	1●3	0●1	1△1	0●2	2○0	1△1	2△2	0●1	1○0	1△1	3○1	0●1	1△1		0●1	0△0							
17	清水エスパルス	H	3●5	0●2	2△2	0●1	1●3	0●3	1△1	1●2	1●2	1△1	3△3	1△1	0△0	3○1	1△1	1○0		1△1	33	7	12	15	44	54	-10
		A	0●2	2●3	0●2	1●2	1△1	2○0	1●3	2○0	1△1	3●4	0△0	4○1	1●2	2●3	2○0	0△0		2○1							
18	ジュビロ磐田	H	0●2	1△1	2△2	3△3	2△2	2○1	2△2	2○1	0●6	1●2	3○1	1○0	0●1	0●1	1△1	0△0	1●2		30	6	12	16	32	57	-25
		A	1○0	1△1	0●3	1●3	1●2	0●2	0●2	0●1	1●4	0●4	0●2	0△0	0△0	1△1	0●2	4○1	1△1								

○:勝 ●:負 △:引き分け、H:ホーム A:アウェイ

※16位の京都サンガF.C.はJ1参入プレーオフ、17位の清水エスパルス、18位のジュビロ磐田は、「2023明治安田生命J2リーグ」に自動降格。

2022明治安田生命J2リーグ

22クラブによる2回戦総当たりリーグ戦（ホーム&アウェイ方式）で、全42節／462試合を実施した。

※24ページに関連記事あり

■戦績表

順位	チーム名		新潟	横浜FC	岡山	熊本	大分	山形	仙台	徳島	東京V	千葉	長崎	秋田	水戸	金沢	町田	山口	栃木	甲府	大宮	群馬	琉球	岩手	勝ち点	勝	分	敗	得点	失点	差
1	アルビレックス新潟	H		3○0	2●3	1○0	0●1	3○0	3○0	2△2	4○3	1●2	2○1	3○0	2○0	1○0	2○1	1△1	2○0	2○0	1○0	3○2	3○0	2○0	84	25	9	8	73	35	38
		A		0●2	1△1	2○1	2○1	1△1	0△0	1△1	0●1	0●1	2△2	0●1	3○0	3○0	1●2	3○1	2○0	2○1	2△2	2○0	1△1	2○0							
2	横浜FC	H	2○0		1○0	0●1	2●3	2○1	2○1	2○1	1△1	4○0	1○0	1△1	3○2	2●3	1△1	1○0	0△0	1○0	3○2	1○0	3○1	0●3	80	23	11	8	66	49	17
		A	0●3		1△1	4○3	2○1	0●2	3○2	1△1	1○0	1△1	2○0	0●1	2○1	1△1	1○0	3△3	0△0	2○1	2●3	3△3	1○0	3○1							
3	ファジアーノ岡山	H	1△1	1△1		0●2	1○0	2○1	3○0	1△1	2○1	1△1	3○0	1●2	2○1	5○1	2○0	3○2	0△0	4○1	4○2	0●1	1○0	0●1	72	20	12	10	61	42	19
		A	3○2	0●1		1△1	2△2	2○0	0△0	0●1	0●2	0●1	0△0	1○0	1△1	1●3	1●3	1○0	1○0	2○1	1△1	1○0	3△3	3○1							
4	ロアッソ熊本	H	1●2	3●4	1△1		1●2	0●3	0●2	1△1	1○0	1△1	2○0	1●2	0△0	3○0	0△0	1○0	2○0	1△1	1○0	5○1	0●2	1○0	67	18	13	11	58	48	10
		A	0●1	1○0	2○0		2○1	1○0	1●2	2△2	3○2	1○0	3○1	2△2	0●2	2△2	1△1	1△1	1△1	2△2	2○1	3○2	0●2	2○1							
5	大分トリニータ	H	1●2	1●2	2△2	1●2		0●3	1○0	1○0	2△2	3○2	3○1	1△1	1△1	1●3	3○1	1△1	0△0	2○1	1△1	2○1	4○1	3○0	66	17	15	10	62	52	10
		A	1○0	3○2	0●1	2○1		1△1	3○1	2△2	0●1	3○0	1●4	1○0	0●2	3△3	1△1	0△0	1△1	1△1	2△2	1○0	0●1	2○1							
6	モンテディオ山形	H	1△1	2○0	0●2	0●1	1△1		2●3	3○0	3△3	2○0	2○0	5○1	0△0	4○1	1○0	1○0	0●2	0●1	2○0	0●1	4○0	4○1	64	17	13	12	62	40	22
		A	0●3	1●2	1●2	3○0	3○0		1△1	1○0	0●1	0△0	1△1	2○0	0●1	1△1	1△1	1○0	2○1	1△1	1△1	0●1	2△2	3△3							
7	ベガルタ仙台	H	0△0	2●3	0△0	2○1	1●3	1△1		1△1	0●2	0●2	1●2	3○1	1●2	4○1	0●3	2○1	2○1	3○0	2●3	0△0	2○0	3○0	63	18	9	15	67	59	8
		A	0●3	1●2	0●3	2○0	0●1	3○2		2△2	1●3	0●2	2○0	0△0	3○2	4○1	3○2	2△2	1○0	3○2	4○2	0●1	1△1	5○1							
8	徳島ヴォルティス	H	1△1	1△1	1○0	2△2	2△2	0●1	2△2		1△1	1○0	0△0	0△0	1△1	0△0	3○2	2○1	0●1	2○0	3○1	1○0	0△0	5○0	62	13	23	6	48	35	13
		A	2△2	1●2	1△1	1△1	0●1	0●3	1△1		1○0	0△0	2○1	0△0	1△1	1○0	2○0	0△0	1△1	1△1	2○0	0△0	3△3	0●1							
9	東京ヴェルディ	H	1○0	0●1	2○0	2●3	1○0	1○0	3○1	0●1		1△1	1○0	0●2	0●2	1●3	2○1	3○0	3○0	0△0	1△1	1△1	2○1	2△2	61	16	13	13	62	55	7
		A	3●4	1△1	1●2	0●1	2△2	3△3	2○0	1△1		1●3	1△1	3△3	2○1	1●2	2△2	1●3	1○0	0●2	2△2	1○0	5○2	2○0							
10	ジェフユナイテッド千葉	H	1○0	1△1	1○0	0●1	0●3	0△0	2○0	0△0	3○1		0●1	0●1	2○1	1○0	1●2	2○0	0●1	0△0	1△1	0●1	2○1	0●1	61	17	10	15	44	42	2
		A	2○1	0●4	1△1	1△1	2●3	0●2	2○0	0●1	1△1		2○0	0●3	1○0	1○0	1△1	3○1	1●2	1△1	1●2	3○0	2○1	2○1							
11	V・ファーレン長崎	H	2△2	0●2	0△0	1●3	4○1	1△1	0●2	1●2	1△1	0●2		0△0	1○0	0●1	1○0	0●1	1△1	1●2	0△0	2○0	2●3	2△2	56	15	11	16	50	54	-4
		A	1●2	0●1	0●3	0●2	1●3	0●2	2○1	0△0	0●1	1○0		1○0	1○0	3△3	2○1	2○1	3○2	1○0	3△3	3○2	2○1	4○0							
12	ブラウブリッツ秋田	H	1○0	1○0	0●1	2△2	0●1	0●2	0△0	0△0	3△3	3○0	0●1		1△1	2●3	2○1	0●1	0●3	0△0	0●1	0●1	2○1	3○1	56	15	11	16	39	46	-7
		A	0●3	1△1	2○1	2○1	1△1	1●5	1●3	0△0	2○0	1○0	0△0		1○0	3○0	0●2	0●2	0●1	1●3	0△0	1○0	1○0	1○0							
13	水戸ホーリーホック	H	0●3	1●2	1△1	2○0	2○0	1○0	2●3	1△1	1●2	0●1	0●1	0●1		1△1	0△0	3○2	0●1	2○1	1○0	2○1	0△0	3○0	54	14	12	16	47	46	1
		A	0●2	2●3	1●2	0△0	1△1	0△0	2○1	1△1	2○0	1●2	0●1	1△1		1△1	3○2	0●1	3○2	1△1	2○0	1●2	2○1	0●1							
14	ツエーゲン金沢	H	0●3	1△1	3○1	2△2	3△3	1△1	1●4	0●1	2○1	0●1	3△3	0●3	1△1		1●2	1○0	0△0	2●3	1●2	2○1	1●2	2○1	52	13	13	16	56	69	-13
		A	0●1	3○2	1●5	0●3	3○1	1●4	1●4	0△0	3○1	0●1	1○0	3○2	1△1		2●3	1△1	2○0	2△2	1○0	0△0	1△1	3○1							
15	FC町田ゼルビア	H	2○1	0●1	3○1	1△1	1△1	1△1	2●3	0●2	2△2	1△1	1●2	2○0	2●3	3○2		0●1	0●1	1●2	3○0	2○0	0△0	1○0	51	14	9	19	51	50	1
		A	1●2	1△1	0●2	0△0	1●3	0●1	3○0	2●3	1●2	2○1	0●1	1●2	0△0	2○1		1●3	0●1	0●1	2○0	2○0	1○0	3○1							
16	レノファ山口FC	H	1●3	3△3	0●1	1△1	0△0	0●1	2△2	0△0	3○1	1●3	1●2	2○0	1○0	1△1	3○1		2○1	2○1	1○0	2○1	2●3	2△2	50	13	11	18	51	54	-3
		A	1△1	0●1	2●3	0●1	1△1	0●1	1●2	1●2	0●3	0●2	1○0	1○0	2●3	0●1	1○0		1●2	1△1	1●2	6○1	1○0	0△0							
17	栃木SC	H	0●2	0△0	0●1	1△1	1△1	1●2	0●1	1△1	0●1	2○1	2●3	1○0	2●3	0●2	1○0	2○1		0△0	1△1	1△1	0△0	1△1	49	11	16	15	32	40	-8
		A	0●2	0△0	0△0	0●2	0△0	2○0	1●2	1○0	0●3	1○0	1△1	3○0	1○0	0△0	1○0	1●2		1○0	1●3	0△0	0●1	1△1							
18	ヴァンフォーレ甲府	H	1●2	1●2	1●2	2△2	1△1	1△1	2●3	1△1	2○0	1△1	0●1	3○1	1△1	2△2	1○0	1△1	0●1		0●3	1○0	5○2	2○0	48	11	15	16	47	54	-7
		A	0●2	0●1	1●4	1△1	1●2	1○0	0●3	0●2	0△0	0△0	2○1	0△0	1●2	3○2	2○1	1●2	0△0		3○1	1△1	1△1	0●1							
19	大宮アルディージャ	H	2△2	3○2	1△1	1●2	2△2	1△1	2●4	0●2	2△2	2○1	3△3	0△0	0●2	0●1	0●2	2○1	3○1	1●3		3○2	1○0	0●1	43	10	13	19	48	64	-16
		A	0●1	2●3	2●4	0●1	1△1	0●2	3○2	1●3	1△1	1△1	0△0	1○0	0●1	2○1	0●3	0●1	1△1	3○0		0●1	1△1	0●1							
20	ザスパクサツ群馬	H	0●2	3△3	0●1	2●3	0●1	1○0	1○0	0△0	0●1	0●3	2●3	0●1	2○1	0△0	0●2	1●6	0△0	1△1	1○0		0△0	5○1	42	11	9	22	36	57	-21
		A	2●3	0●1	1○0	1●5	1●2	1○0	0△0	0●1	1△1	1○0	0●2	1○0	1●2	1●2	0●2	1●2	1△1	0●1	2●3		1○0	1○0							
21	FC琉球	H	1△1	0●1	3△3	2○0	1○0	2△2	1△1	3△3	2●5	1●2	1●2	0●1	1●2	1△1	0●1	0●1	1○0	1△1	1△1	0●1		1●2	37	8	13	21	41	65	-24
		A	0●3	1●3	0●1	2○0	1●4	0●4	0●2	0△0	1●2	1●2	3○2	1●2	0△0	2○1	0△0	3○2	0△0	2●5	0●1	0△0		1○0							
22	いわてグルージャ盛岡	H	0●2	1●3	1●3	1●2	1●2	3△3	1●5	1○0	0●2	1●2	0●4	0●1	1○0	1●3	1●3	0△0	1△1	1○0	1○0	0●1	0●1		34	9	7	26	35	80	-45
		A	0●2	3○0	1○0	0●1	0●3	1●4	0●3	0●5	2△2	1○0	2△2	1●3	0●3	1●2	0●1	2△2	1△1	0●2	1○0	1●5	2○1								

○:勝 ●:敗 △:引き分け、H:ホーム A:アウェイ

⇒ ※1位のアルビレックス新潟、2位の横浜FCは、「2023明治安田生命J1リーグ」に自動昇格。
※3～6位のうち、J1ライセンスが付与されている3位・ファジアーノ岡山、4位・ロアッソ熊本、5位・大分トリニータ、6位・モンテディオ山形は、「2022J1昇格プレーオフ」に出場（次ページ参照）
※21位のFC琉球、22位のいわてグルージャ盛岡は、「2023明治安田生命J3リーグ」に自動降格。

2022明治安田生命J3リーグ

18クラブによる2回戦総当たりリーグ戦（ホーム&アウェイ）で、全34節／306試合を実施した。

※25ページに関連記事あり

■戦績表

順位	チーム名		いわき	藤枝	鹿児島	松本	今治	富山	愛媛	長野	宮崎	八戸	福島	鳥取	北九州	岐阜	沼津	YS横浜	讃岐	相模原	勝ち点	勝	分	敗	得点	失点	差
1	いわきFC	H		2△2	3○0	0△0	0●1	1△1	2○1	1○0	2○0	3○1	4○1	2○0	2△2	2○1	4○0	1△1	4○1	1○0	76	23	7	4	72	23	49
		A		3○0	1△1	1●2	0●1	1△1	2○1	4○0	0●1	5○0	1○0	3○1	1○0	2○1	4○0	6○0	2○1	2○1							
2	藤枝MYFC	H	0●3		2○1	1○0	1●2	0●2	2○0	1△1	1△1	2○0	3○1	3○0	3○1	4○3	3○1	4○1	1○0	1○0	67	20	7	7	58	29	29
		A	2△2		0●2	0●2	0●1	4○1	1○0	0△0	3○1	0●1	6○0	1△1	1○0	3○0	0△0	3○0	1△1	1○0							
3	鹿児島ユナイテッドFC	H	1△1	2○0		4○2	3●4	4○1	0●1	4○1	1●2	2○1	2○1	1○0	1○0	1○0	1○0	3○0	3○2	0●1	66	21	3	10	55	39	16
		A	0●3	1●2		2○1	1○0	4○2	0●1	1●2	1△1	1○0	1△1	0●6	2○1	1●2	1○0	1○0	4○0	1○0							
4	松本山雅FC	H	2○1	2○0	1●2		2○1	1○0	2○1	2○1	2△2	0●1	1○0	2○1	0△0	2○1	1○0	0●1	1○0	1○0	66	20	6	8	46	33	13
		A	0△0	0●1	2●4		2○1	3●4	2●3	0△0	1●4	1○0	1○0	0△0	1○0	3○1	0△0	2○1	2○1	4○1							
5	FC今治	H	1○0	1○0	0●1	1●2		2○1	2○0	3△3	0△0	1○0	0●1	3○0	2●3	1○0	0△0	5○2	2○1	1●3	60	18	6	10	55	40	15
		A	1○0	2○1	4○3	1●2		3○2	2●3	1△1	3○2	1●2	1△1	1△1	0●3	5○0	1○0	1●2	1○0	2○0							

順位	チーム名		いわき	藤枝	鹿児島	松本	今治	富山	愛媛	長野	宮崎	八戸	福島	鳥取	北九州	岐阜	沼津	YS横浜	讃岐	相模原	勝ち点	勝	分	敗	得点	失点	差
6	カターレ富山	H	1△1	1●4	2●4	4○3	2●3		2○1	1○0	2○1	2○1	3○2	3○2	1●2	1●3	1○0	5○1	1○0	1○0	60	19	3	12	55	48	7
		A	1△1	2○0	1●4	0●1	1●2		2○1	0●1	1○0	1●2	1△1	0●3	2○1	3○1	0●1	2○1	4○0	1○0							
7	愛媛FC	H	1●2	0●1	1○0	3○2	3○2	1●2		2△2	2○0	3○1	0△0	7○2	1△1	1△1	1△1	2○0	1△1	2○1	52	14	10	10	51	41	10
		A	1●2	0●2	1○0	1●2	0●2	1●2		1△1	3△3	0●1	3○0	2○1	0△0	0●3	1△1	1○0	2○0	3○2							
8	AC長野パルセイロ	H	0●4	0△0	2○1	0△0	1△1	1○0	1△1		3○2	2○1	0●1	1●2	1○0	2△2	2○1	2○1	3○1	3○1	52	14	10	10	42	41	1
		A	0●1	1△1	1●4	1●2	3△3	0●1	2△2		0●1	1●3	1△1	1○0	2○0	1△1	0●1	1○0	1○0	2○1							
9	テゲバジャーロ宮崎	H	1○0	1●3	1△1	4○1	2●3	0●1	3△3	1○0		2○0	4○1	0●2	2△2	1●4	2○1	1○0	0△0	0△0	46	12	10	12	45	47	-2
		A	0●2	1△1	2○1	2△2	0△0	1●2	0●2	2●3		2○1	0△0	0●2	0●4	2○1	2○1	4○0	1△1	1●2							
10	ヴァンラーレ八戸	H	0●5	1○0	0●1	0●1	2○1	2○1	1○0	3○1	1●2		1○0	0●3	1○0	3○1	0●2	0●1	1●2	2○1	43	14	1	19	32	46	-14
		A	1●3	0●2	1●2	1○0	0●1	1●2	1●3	1●2	0●2		0●1	1○0	1●2	0△0	2○1	1●3	1○0	2○0							
11	福島ユナイテッドFC	H	0●1	0●6	1△1	0●1	1△1	1△1	0●3	1△1	0△0	1○0		3○2	2○1	0●1	2○0	2○1	0●2	1○0	42	11	9	14	37	45	-8
		A	1●4	1●3	1●2	0●1	1○0	2●3	0△0	1○0	1●4	0●1		4○0	1△1	1△1	5○0	0●2	0△0	3○1							
12	ガイナーレ鳥取	H	1●3	1△1	6○0	0△0	1△1	3○0	1●2	0●1	2○0	0●1	0●4		1●2	4○0	3○0	3○0	3○0	2△2	41	12	5	17	55	56	-1
		A	0●2	0●3	0●1	1●2	0●3	2●3	2●7	2○1	2○0	3○0	2●3		3○2	0●3	0●3	4○0	1●4	2△2							
13	ギラヴァンツ北九州	H	0●1	0●1	1●2	0●1	3○0	1●2	0△0	0●2	4○0	2○1	1△1	2●3		2○1	1○0	0●1	1○0	3○1	40	11	7	16	41	45	-4
		A	2△2	1●3	0●1	0△0	3○2	2○1	1△1	0●1	2△2	0●1	1●2	2○1		2○1	0●4	0●1	2△2	2●3							
14	FC岐阜	H	1●2	0●3	2○1	1●3	0●5	1●3	3○0	1△1	1●2	0△0	1△1	3○0	1●2		2○1	3○0	2○1	2○0	37	10	7	17	43	53	-10
		A	1●2	3●4	0●1	1●2	0●1	3○1	1△1	2△2	4○1	1●3	1○0	0●4	1●2		0●2	0△0	1●2	0△0							
15	アスルクラロ沼津	H	0●4	0△0	0●1	0△0	0●1	1○0	1△1	1○0	1●2	1●2	0●5	3○0	4○0	2○0		2○1	1○0	1△1	31	8	7	19	27	46	-19
		A	0●4	1●3	0●1	0●1	0△0	0●1	1△1	1●2	1●2	2○0	0●2	0●3	0●1	1●2		2●4	0△0	0●1							
16	Y. S. C. C. 横浜	H	0●6	0●3	0●1	1●2	2○1	1●2	0●1	0●1	0●4	3○1	2○0	0●4	1○0	0△0	4○2		0△0	0●4	28	8	4	22	25	66	-41
		A	1△1	1●4	0●3	1○0	2●5	1●5	0●2	1●2	0●1	1○0	1●2	0●3	1○0	0●3	1●2		0●1	0△0							
17	カマタマーレ讃岐	H	1●2	1△1	0●4	1●2	0●1	0●4	0●2	0●1	1△1	0●1	0△0	4○1	2△2	2○1	0△0	1○0		2△2	27	6	9	19	27	49	-22
		A	1●4	0●1	2●3	0●1	1●2	0●1	1△1	1●3	0△0	2○1	2○0	0●3	0●1	1●2	0●1	0△0		1○0							
18	SC相模原	H	1●2	0●1	0●1	1●4	0●2	0●1	2●3	1●2	2○1	0●2	1●3	2△2	3○2	0△0	1○0	0△0	0●1		25	6	7	21	31	50	-19
		A	0●1	0●1	1○0	0●1	3○1	0●1	1●2	1●3	0△0	1●2	0●1	2△2	1●3	0●2	1△1	4○0	2△2								

⇒ ※1位・いわきFC、2位・藤枝MYFC(J2ライセンス保有)は、「2023明治安田生命J2リーグ」に自動昇格。

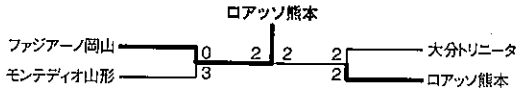
○:勝 ●:敗 △:引き分け、H:ホーム A:アウェイ

2022J1参入プレーオフ

J1参入プレーオフは、各1試合のトーナメント方式にて、明治安田生命J2リーグ年間順位3～6位のクラブで1回戦、2回戦を行い（3位vs6位、4位vs5位）、その勝者と明治安田生命J1リーグ年間順位16位のクラブが決定戦を行った。なお、90分間で勝敗が決しない場合は、1・2回戦はJ2リーグ年間順位が上位のクラブを、決定戦はJ1リーグ年間順位16位のクラブを勝者とする。

※23～24ページに関連記事あり

<J1参入プレーオフ 1回戦・2回戦>



<J1参入プレーオフ 決定戦>

京都サンガF.C.　1-1　ロアッソ熊本

⇒ ※京都サンガF.C.が、「明治安田生命J1リーグ」に残留。

第24回日本フットボールリーグ

16チームによる2回戦総当たりリーグ方式(ホーム＆アウェイ方式)。なお、JFL15位、16位チームは地域リーグへ自動降格する。ただし、J3入会チーム数が決定し、1チームの入会が決定した場合は、JFL16位チームのみが地域リーグへ自動降格する。2チームの入会が決定した場合は、降格チームはなしとする。

※21ページに関連記事あり

■戦績表

順位	チーム名		奈良	FC大阪	ホンダ	青森	マルヤス	武蔵野	V三重	V大分	鈴鹿	ロック	高知	しまね	枚方	ソニー	新宿	滋賀	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	奈良クラブ	H		5○0	0△0	0△0	0●1	0●2	1○0	1●3	1△1	1○0	2○0	2○1	3○1	0△0	2△2	2○0	59	16	11	3	48	25	23
		A		0△0	1△1	2○1	2△2	1△1	3△3	3○2	4○0	2○1	1○0	1○0	2○1	1△1	4○1	1○0							
2	FC大阪	H	0△0		2○0	0△0	3○2	2○1	1○0	1△1	1○0	0△0	3○2	2○1	3△3	2○0	3○1	1△1	59	17	8	5	47	34	13
		A	0●5		2○1	1○0	1●2	1●3	1△1	2△2	2○1	0●1	2○1	1●3	2○1	2○0	2○1	4○0							
3	Honda FC	H	1△1	1●2		0△0	3○1	0●1	2○1	4○2	2○0	3○1	2○0	3○0	2○0	2○0	1●2	1○0	56	16	8	6	47	23	24
		A	0△0	0●2		0●1	2○1	3○0	1△1	1△1	4○1	1△1	2○0	0△0	2○1	2○0	2△2	0●1							
4	ラインメール青森	H	1●2	0●1	1○0		0△0	2○1	1△1	2●3	0●2	1●2	0△0	4○1	2○1	2△2	2○0	2○0	51	14	9	7	35	23	12
		A	0△0	0△0	0△0		0●1	1○0	1△1	1○0	0●2	1○0	2○0	2△2	1○0	3○0	1○0	2○1							
5	FCマルヤス岡崎	H	2△2	2○1	1●2	1○0		1○0	1●2	2△2	4○2	2○1	3○0	1●2	4○1	1●2	2○1	5○1	49	14	7	9	48	34	14
		A	1○0	2●3	1●3	0△0		3○2	0●1	0●1	0△0	0●2	5○3	0△0	0△0	0△0	1○0	3○0							
6	東京武蔵野ユナイテッドFC	H	1△1	3○1	0●3	0●1	2●3		1△1	4○2	0●1	2○0	1●3	4○2	4○0	1△1	3○0	4○1	48	14	6	10	49	33	16
		A	2○0	1●2	1○0	1●2	0●1		0●1	1●2	1△1	1○0	1△1	2○0	2○0	1△1	4○2	1○0							
7	ヴィアティン三重	H	3△3	1△1	1△1	1△1	1○0	1○0		0●1	4○1	3○1	3○1	0●1	2○1	1△1	0△0	1○0	45	12	9	9	43	29	14
		A	0●1	0●1	1●2	1△1	2○1	1△1		7○0	0●2	1○0	1△1	1○0	1●2	3○0	1●2	1●2							
8	ヴェルスパ大分	H	2●3	2△2	1△1	0●1	1○0	2○1	0●7		0●1	0●2	0●1	1○0	0△0	1○0	1△1	1●2	43	12	7	11	40	44	-4
		A	3○1	1△1	2●4	3○2	2△2	2●4	1○0		2○0	3○0	3○2	0●1	0●3	1○0	2△2	3○0							
9	鈴鹿ポイントゲッターズ	H	0●4	1●2	1●4	2○0	0△0	1△1	2○0	0●2		0△0	1○0	0△0	3○2	0●2	2○0	3○2	41	12	5	13	31	40	-9
		A	1△1	0●1	0●2	2○0	2●4	1○0	1●4	1○0		0●1	0●2	0●3	3○1	1●2	1○0	2○0							
10	ホンダロックSC	H	1●2	1○0	1△1	0●1	2○0	0●1	0●1	0●3	1○0		0●1	5○1	0●1	2○0	2○0	6○0	36	10	6	14	33	33	0
		A	0●1	0△0	1●3	2○1	1●2	0●2	1●3	2○0	0△0		0●3	1△1	0●3	0△0	3○1	1△1							
11	高知ユナイテッドSC	H	0●1	1●2	0●2	0●2	3●5	1△1	1△1	2●3	2○0	3○0		1○0	2○1	0△0	0●1	1△1	34	9	7	14	30	39	-9
		A	0●2	2●3	0●2	0△0	0●3	3○1	1●3	1○0	0●1	1○0		2○1	1△1	1△1	1○0	0●1							
12	FC神楽しまね	H	0●1	3○1	0△0	2△2	0△0	0●2	0●1	1○0	3○0	1△1	1●2		2△2	0●2	2○1	2△2	34	9	7	14	32	42	-10
		A	1●2	1●2	0●3	1●4	2○1	2●4	1○0	0●1	0△0	1●5	0●1		0●1	3○0	1○0	2○1							
13	FCティアモ枚方	H	1●2	1●2	1●2	0●1	0△0	0●2	2○1	3○0	1●3	3○0	1△1	1○0		2●3	2○0	4○1	32	9	5	16	40	50	-10
		A	1●3	3△3	0●2	1●2	1●4	0●4	1●2	0△0	2●3	1○0	1●2	2△2		2○1	2●4	1○0							
14	ソニー仙台FC	H	1△1	0●2	0●2	0●3	0△0	1△1	0●3	0●1	2○1	0△0	1△1	0●3	1●2		2●3	0△0	28	5	13	12	23	39	-16
		A	0△0	0●2	0●2	2△2	2○1	1△1	1△1	0●1	2○0	0●2	0△0	2○0	3○2		1△1	1△1							
15	クリアソン新宿	H	1●4	1●2	2△2	0●1	0●1	2●4	2○1	2△2	0●1	1●3	0●1	0●1	4○2	1△1		0●1	24	6	6	18	30	52	-22
		A	2△2	1●3	2○1	0●2	1●2	0●3	0△0	1△1	0●2	0●2	1○0	1●2	0●2	3○2		2○1							
16	MIOびわこ滋賀	H	0●1	0●4	1○0	1●2	0●3	0●1	2○1	0●3	0●2	1△1	1○0	1●2	0●1	1△1	1●2		21	5	6	19	21	57	-36
		A	0●2	1△1	0●1	0●2	1●5	1●4	0●1	2○1	2●3	0●6	1△1	2△2	1●4	0△0	1○0								

○：勝 ●：敗 △：引き分け、H：ホーム A：アウェイ

2022プレナスなでしこリーグ2部入替戦予選大会／2022プレナスなでしこリーグ2部入替戦

<2022プレナスなでしこリーグ2部入替戦予選大会>
プレナスなでしこリーグ2部加盟申請を行ったチームで、加盟相当とされた8チームにて実施。8チームを二つのグループに分け、4チーム1回戦総当たりのリーグ戦を行い、各グループ1位同士、また2位同士で順位決定戦を行い、1～4位を決定する。
<2022プレナスなでしこリーグ2部入替戦>
プレナスなでしこリーグ2部の10位のチームと予選大会1～3位の計4チームが1回戦総当たりの入替戦を行う。上位3チームがなでしこ2部へ残留または参入の権利を得る。

■2022プレナスなでしこリーグ2部入替戦予選大会

<Aグループ>

順位	Aグループ	山梨	R湘南	デイゴス	リラ	勝ち点	勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	FCふじざくら山梨		0△0 4PK3	2○0	2○0	8	2	1	0	0	4	0	4
2	SEISA OSAレイア湘南FC	0▲0 3PK4		1△1 5PK4	6○0	6	1	1	1	0	7	1	6
3	エナジック琉球デイゴス	0●2	1▲1 4PK5		1○0	4	1	0	1	1	2	3	-1
4	北海道リラ・コンサドーレ	0●2	0●6	0●1		0	0	0	0	3	0	9	-9

<Bグループ>

順位	Bグループ	D出雲	ヴィアマ	FC今治	レノファ	勝ち点	勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	ディオッサ出雲FC		2△2 4PK3	1○0	1○0	8	2	1	0	0	4	2	2
2	ヴィアマテラス宮崎	2▲2 3PK4		3○2	4○0	7	2	0	1	0	9	4	5
3	FC今治レディース	0●1	2●3		1△1 5PK3	2	0	1	0	2	3	5	-2
4	レノファ山口FCレディース	0●1	0●4	1▲1 3PK5		1	0	0	1	2	1	6	-5

○:勝ち(勝ち点3)、△:PK勝ち(勝ち点2)、▲:PK負け(勝ち点1)、●:負け(勝点0)

<順位決定戦>

<第1戦>　SEISA OSAレイア湘南FC　0-3　ヴィアマテラス宮崎
<第2戦>　FCふじざくら山梨　1-0　ディオッサ出雲FC

■2022プレナスなでしこリーグ2部入替戦

順位		ヴィアマ	山梨	湯郷ベル	D出雲	勝点	勝	引	負	得点	失点	差
1	ヴィアマテラス宮崎		2○0	6○0	3○1	9	3	0	0	11	1	10
2	FCふじざくら山梨	0●2		3○2	1○0	6	2	0	1	4	4	0
3	岡山湯郷Belle	0●6	2●3		3○2	3	1	0	2	5	11	-6
4	ディオッサ出雲FC	1●3	0●1	2●3		0	0	0	3	3	7	-4

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝点0)

⇒ ※1位・ヴィアマテラス宮崎、2位・FCふじざくら山梨は「プレナスなでしこリーグ2部」への参入の権利を獲得、3位・岡山湯郷Belleはなでしこリーグ2部に残留。

FIFA U-17女子ワールドカップインド2022

※69～73ページに関連記事あり

■グループステージ 試合結果

グループ	日時		対戦結果			会場
A	10月11日	20:00	インド	0-8	アメリカ	Bhubaneswar/Kalinga Stadium
		16:30	モロッコ	0-1	ブラジル	Bhubaneswar/Kalinga Stadium
	10月14日	20:00	インド	0-3	モロッコ	Bhubaneswar/Kalinga Stadium
		16:30	ブラジル	1-1	アメリカ	Bhubaneswar/Kalinga Stadium
	10月17日	20:00	ブラジル	5-0	インド	Bhubaneswar/Kalinga Stadium
		20:00	アメリカ	4-0	モロッコ	Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium
B	10月11日	20:00	ドイツ	2-1	ナイジェリア	Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium
		16:30	チリ	3-1	ニュージーランド	Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium
	10月14日	20:00	ドイツ	6-0	チリ	Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium
		16:30	ニュージーランド	0-4	ナイジェリア	Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium
	10月17日	16:30	ニュージーランド	1-3	ドイツ	Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium
		16:30	ナイジェリア	2-1	チリ	Bhubaneswar/Kalinga Stadium
C	10月12日	20:00	スペイン	1-0	コロンビア	Navi Mumbai/DY Patil Stadium
		16:30	メキシコ	1-2	中国	Navi Mumbai/DY Patil Stadium
	10月15日	20:00	スペイン	1-2	メキシコ	Navi Mumbai/DY Patil Stadium
		16:30	中国	0-2	コロンビア	Navi Mumbai/DY Patil Stadium
	10月18日	16:30	中国	0-1	スペイン	Navi Mumbai/DY Patil Stadium
		16:30	コロンビア	2-1	メキシコ	Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium
D	10月12日	20:00	**日本**	4-0	タンザニア	Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium
		16:30	カナダ	1-1	フランス	Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium
	10月15日	20:00	**日本**	4-0	カナダ	Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium
		16:30	フランス	1-2	タンザニア	Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium
	10月18日	20:00	フランス	0-2	**日本**	Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium
		20:00	タンザニア	1-1	カナダ	Navi Mumbai/DY Patil Stadium

■ノックアウトステージ 試合結果

	日時		対戦結果			会場
準々決勝	10月21日	16:30	アメリカ	1-1(PK3-4)	ナイジェリア	Navi Mumbai/DY Patil Stadium
		20:00	ドイツ	3-0	ブラジル	Navi Mumbai/DY Patil Stadium
	10月22日	16:30	コロンビア	3-0	タンザニア	Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium
		20:00	**日本**	1-2	スペイン	Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium
準決勝	10月26日	16:30	ナイジェリア	0-0(PK5-6)	コロンビア	Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium
		20:00	ドイツ	0-1	スペイン	Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium
3位決定戦	10月30日	16:30	ナイジェリア	3-3(PK3-2)	ドイツ	Navi Mumbai/DY Patil Stadium
決勝	10月30日	20:00	コロンビア	0-1	スペイン	Navi Mumbai/DY Patil Stadium

※キックオフ日時は現地時間

なでしこリーグ便り

ニッパツ横浜FCシーガルズ
https://seagulls.yokohamafc-sc.com/

愛されるクラブになるために

ニッパツ横浜FCシーガルズ　運営・広報担当　千葉 智子

創立10周年を迎え、今シーズンは、クラブのみならず女子サッカーの魅力はどのようにしたら伝わるのか、といったさまざまな課題と向き合った一年となりました。

なでしこリーグ1部で2シーズン目となる今年は来場者数1,000人を目標に掲げました。結果としては目標に届かず、ホーム最終戦では940人の方にご来場いただきました。

お客さまにスタジアムで観戦してもらい、プレーする選手の姿を五感で感じていただくことは、今の女子サッカー界にとって非常に大切なことであると考えています。なぜなら「実際にスタジアムで観戦したら面白くて、次の試合も観に行きたい」「どんなプレーも一生懸命で応援したくなる」「働きながらサッカーに打ち込む選手を尊敬する」など、来場者からのポジティブな声を受け、スタジアムだからこそ得られる魅力がたくさんあるのだとあらためて感じ取ることができたからです。

シーズンを通して、J2リーグを戦う横浜FCのホームゲーム開催時に試合の告知をしたり、横浜市内の学校や少年少女サッカーチーム、ホームタウンの皆さまを招待するなど、気軽にスタジアムに足を運んでいただけるような施策を昨年よりも大幅に増やし、多くの人々にクラブのことを知っていただくことができました。次のステップとして、「継続して応援していただく」「スタジアムに何度も通っていただく」ために、試合内外においてできることをさらに増やしていかなければならないと感じています。

コロナ禍の影響により、ファン・サポーターの皆さまと直接触れ合う機会を制限してきましたが、今シーズンは地域イベントに積極的に参加するなど、交流の機会を少しずつ増やしてきました。特に子どもたちとの関わりは、選手にとっても非常に大きな活力となりました。また、ピッチで選手と一緒にサッカーを楽しめるイベントやエスコートキッズの実施、地域の祭りやイベントなどが子どもたちにとっても財産となっていたら幸いです。

これらの活動を積み重ねていくことで、ニッパツ横浜FCシーガルズが地域にとって必要なクラブとなり、文化になるように。そして、子どもたちにとって夢や目標とする存在になれるように。女子サッカーにはまだまだできることがたくさんあります。試合に限らず、どんなときも「愛されるクラブ」を目指して引き続き活動していきます。

2022プレナスなでしこリーグ1部のホーム最終戦、水色に染まったスタンドの様子

JFL便り

ヴェルスパ大分
https://verspah.jp/

“地域の価値となれ”クラブとして挑戦し続けたシーズン

ヴェルスパ大分　運営担当　羽明 唯

ヴェルスパ大分は、大分県の大分市、別府市、由布市をホームタウンとするサッカーチームです。今シーズンはJ3リーグ参入に向けたクラブライセンスの取得とリーグ優勝を目標に、クラブとしても飛躍のシーズンにするという強い覚悟でチームを始動しました。クラブのミッションに「地域の価値となれ」を掲げ、発展途上のクラブだからこそできる豊かな発想と大胆な行動力を武器に2022シーズンを走り抜きました。

2022シーズンを振り返ると、同じJFLである鈴鹿ポイントゲッターズに三浦知良選手が加入したこともあり、JFLへの注目度も高く、リーグ全体が盛り上がっているように感じました。また、私たちのホームゲームにも年間で23,849人の方にご来場いただき、年間30,000人という目標は達成することはできませんでしたが、今まで以上にたくさんの方にヴェルスパ大分を知っていただくきっかけの一年となりました。

そのような中、クラブだけでなくファン・サポーターの皆さま、パートナー企業の皆さま、ホームタウン自治体の皆さまのご協力もあり、クラブ史上初となるJ3クラブライセンスが交付され、第77回国民体育大会のサッカー競技、成年男子で優勝したことは、地域とのつながりを強める大きなステップとなりました。

しかし、リーグ戦では目標である優勝を達成できず、8位で終了しました。この悔しさをバネに、来シーズンこそはJ3参入を目指します。大分県に2つ目のJクラブを誕生させ、大分県全体をサッカーの力でもっと盛り上げていきたいです。

クラブがこのように多くのことに挑戦できるのも、支えてくださっているパートナー企業さま、自治体関係者の皆さま、関係団体の皆さまのご理解とご協力があってこそだと思っています。そして、どんな時もチームを後押ししてくださるファン・サポーターの皆さまにも心から感謝しています。

クラブの活動はたくさんの人の支えや応援があって成り立っていることを忘れず、日々の活動に励んでいきたいと思います。

2023シーズンも常に変化・発展に挑む集団であり続け、“地域の価値”になるため、どんなに苦しいときでも地域の方々に勇気や活力を与えられるクラブを目指してこれからも全力で挑戦を続けます。

ファン・サポーターへの感謝の気持ちを忘れず、2023シーズンも共に挑戦していく

日本ビーチサッカー連盟便り

日本ビーチサッカー連盟
http://jbsf.or.jp/

ふたみシーサイドビーチサッカー交流大会
～ビーチサッカーから交流人口と環境教育の促進に向けて～

ふたみシーサイドビーチサッカー交流大会実行委員会　事務局
川本 英人

2007年、地域の少年サッカー関係者（保護者）が中心となり、夏祭りの一環として始まったのが双海町のビーチサッカーです。ふたみシーサイド公園の白い砂浜で子どもたちが一生懸命ボールを蹴る姿を見て、保護者の皆さんは一喜一憂していました。

当時のビーチサッカーのピッチは、不要になった消防ホースを青に着色してそれをラインにし、ゴールは少年サッカー用のものを近くのグラウンドから借りていました。手作りで地元感あふれる、そんな大会でした。

2013年から運営メンバーの世代交代に合わせ、ビーチスポーツの振興と地域、世代を超えた交流の促進を前面に出し、実行委員会を組織することにしました。委員会の設立総会の際、委員の大半がボランティアで海岸清掃をしていたことから、ビーチクリーンを取り入れることや、オリジナルTシャツの制作を検討したりするなど、わいわいみんなで話し合ったことを覚えています。このときに決めた大会名称や開催趣旨、内容などが現在の原形になりました。

新体制で臨んだ2013年9月の大会では、当日の豪雨と雷で警報が発令され、大会の中止を余儀なくされました。出鼻をくじかれた実行委員や地域の参加者は不完全燃焼で、すぐさま協議し、1カ月後の開催に踏み切りました。10月の大会当日は素晴らしい秋空に恵まれ、参加チームと共に満足のいくものとなりました。

大会を通じて友好関係を築いた参加チームや愛媛県サッカー協会とは、2014年夏に地域の少年サッカーチームなどを対象にビーチサッカー教室を、2018年夏には2日間かけてJFAビーチサッカークリニックを実施しました。これらの取り組みが10月の大会につながり、ビーチサッカーの普及と交流を促進していると感じています。

2020年からは新型コロナウイルス感染拡大の影響で大会を開催できていません。今年も大会を企画しましたが、参加チームを集めることができず未開催となりました。次年度の開催に向けて、現在は定期的に話し合いの場を設けて開催内容や運営体制などの見直しを図っています。参加チーム数など課題はありますが、前向きに「自分たちの大会」として今後も運営していきたいと考えています。

シーサイドビーチサッカーフェス2018で開催した「JFAビーチサッカー巡回クリニック」

日本フットサル連盟便り

日本フットサル連盟
http://www.jff-futsal.or.jp/

コロナ禍における葛藤と感謝

関西フットサル連盟　理事長　梅本 成彦

われわれ関西フットサル連盟は、地域におけるフットサルの普及と競技力向上を目指し、関西地域のトップリーグや入れ替え戦、選抜大会などを行っています。

2020年度と21年度はコロナ禍の影響もあり、多くの大会を中止し、メイン事業であるリーグ戦においても試合数を削減した変則的なリーグ（2ブロックに分けたリーグ戦後に順位決定戦を開催）の開催を余儀なくされました。残念ながら、活動を休止するチームや解散するチームも発生し、地域における登録チームと選手数は減少の傾向にありました。

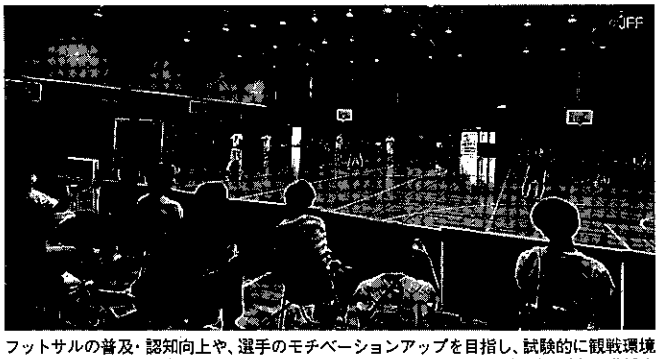
大会を開催・運営する側としては、選手の安全確保が最優先であり、室内競技という特性上、会場施設の理解を得ることや対策も簡単ではなく、仕方のない部分もあったかとは思います。しかし、事業規模を縮小するようなプレーの場を削減することが、プレーヤーズファーストにつながるのかは大いに疑問であり、連盟としては葛藤がありました。

チームと選手にとって、日々の練習や活動の成果を披露する公式戦は最大のモチベーションです。コロナ禍以前の環境に完全に戻るという保証もない状況ですが、会場での対策を講じながら、公式戦の場を最大限確保することを優先しました。

今年度は、コロナ禍ながら、社会人1部12チーム、同2部12チーム、女子8チームの全カテゴリーにおいて、総当たりリーグ戦形式に戻すことをいち早く決定。社会人2部リーグはチーム数の増加もあり、コロナ禍以前も含め、過去最大の試合数となっています。その結果、チームと選手には、年間を通じたリーグ戦を戦える喜びをプレーで表現してもらっており、棄権などによる試合中止もなく、無事に開催できています。

これはひとえに、関西地域6府県のフットサル連盟さまや施設担当者さま、円滑な試合進行にご尽力いただいている審判員の皆さま、人員を確保し派遣いただいている関西サッカー協会さま、各方面の協力のおかげです。以前は大会が開催できて当たり前でしたが、この困難な環境を経験し、あらためて感謝の気持ちを持って開催に当たることができています。

何より、参加チームと選手への感謝を忘れず、今後は彼ら選手たちのさらなるモチベーション向上を目指し、大会運営を工夫していかなければならないと考えています。課題も多くありますが、関係者の皆さまには今後も温かい目で見守っていただくとともに、今後も変わらぬご協力や連携、交流をお願いいたします。



フットサルの普及・認知向上や、選手のモチベーションアップを目指し、試験的に観戦環境を高める取り組みを実施している。写真は、関西学生フットサルリーグの会場（大阪成蹊大学）でバック側にコートサイドシートを設置して有観客とした例。コロナ対策はしつつ、臨場感を楽しんでもらっている

全国専門学校サッカー連盟便り

全国専門学校サッカー連盟
http://www.senmonsoccer.jp/

3年ぶりの開催となった 全国専門学校サッカー選手権大会

全国専門学校サッカー連盟　副理事長　坂元 敬介

2022年10月3日から7日にかけて福島県のJヴィレッジで第32回全国専門学校サッカー選手権大会が開催され、全国各地の予選を勝ち抜いた16チームがノックアウト方式で優勝を争いました。昨年と一昨年は新型コロナウイルスの影響で中止になったため、3年ぶりの開催となりました。

前回の長崎大会では、履正社国際医療スポーツ専門学校がルネス紅葉スポーツ柔整専門学校の大会6連覇を阻止しました。今大会では、履正社が連覇を達成するのか、ルネスが頂点に返り咲くのか、新たなチームが優勝を飾るのかなど、多くの見どころがありました。また、専門学校は2年で選手が入れ替わるため、3年ぶりの大会では全国大会経験者がほとんどおらず、コンディションづくりの難しさもあったと思います。

今大会は1回戦から決勝まで僅差の試合が多く、最後まで全力でプレーする選手が多く見られました。決勝ではルネス紅葉スポーツ柔整専門学校が履正社国際医療スポーツ専門学校を下して優勝を飾り、2019年の長崎大会の雪辱を果たしました。ルネス紅葉は参加チームの中でもまとまりがあり、チーム愛にあふれたチームでした。3位決定戦では宮崎情報ビジネス医療専門学校が北海道スポーツ専門学校に競り勝ちました。また、今大会は暴言、ラフプレーによるイエローカード、レッドカードが少なく、フェアプレーが多く見られる大会でもありました。互いに健闘をたたえる姿は学生スポーツの在りようとしてふさわしいものでした。

コロナ禍での大会にはなりましたが、大きな混乱もなく大会を終了することができました。3年ぶりの開催にあたり、ご支援いただいた福島県サッカー協会、Jヴィレッジのスタッフの皆さまをはじめ、大会に関わってくださった全ての方に感謝を申し上げます。2023年の第33回大会は大阪府堺市での開催を予定しています。今後ともご指導ご支援よろしくお願い申し上げます。

第32回全国専門学校サッカー選手権大会で優勝したルネス紅葉スポーツ柔整専門学校

日本障がい者サッカー連盟便り

日本ブラインドサッカー協会
https://www.b-soccer.jp/

ブラサカアジア・オセアニア選手権、女子は優勝、男子は3位入賞

NPO法人日本ブラインドサッカー協会
ハイパフォーマンスディレクター　魚住 稿

今年11月11日から18日にかけて、インドで「IBSAブラインドサッカーアジア・オセアニア選手権2022」が開催されました。今大会は初めて女子カテゴリーが開催され、初の男女同時開催となりました。

女子は日本とインドの2カ国が出場し、2試合が行われました。日本はエースの菊島宙選手が2試合で3得点をマークする活躍を見せ、守備ではインドを無失点に抑えて2勝し、初代チャンピオンになりました。また、菊島選手がPlayer of the Tournamentと得点王を、寺林眞智子選手と和地梨衣菜選手はベストGKを受賞しました。この結果、来年8月にイギリスで開催される世界選手権の出場権も獲得し、次は初代世界チャンピオンを目指します。なお、この世界選手権では女子カテゴリーは初開催となります。

男子は10カ国が2グループに分かれて総当たりの予選リーグを行い、準決勝と3位決定戦、決勝が行われました。予選グループリーグ初戦はウズベキスタンに11-0、2戦目はオーストラリアに8-0、3戦目は韓国に4-0で勝利。4戦目は、公式試合で一度も得点を挙げたことも勝利したこともないイランとの対戦でした。前半は0-0で折り返しましたが、後半2分に今大会で公式試合初出場を果たした平林太一選手がゴールを決め、1-0で日本が勝利。予選リーグを全勝し、首位で準決勝へ進出。今大会ベスト4以上のチームに付与される世界選手権（来年8月開催）の出場権を獲得しました。

準決勝ではタイと対戦し、タイの強固な守備を突破することができずにスコアレスで迎えたPK戦の末に敗戦。今大会の優勝国に与えられるパリ2024パラリンピック出場権獲得を逃しました。

3位決定戦は予選で勝利したイランとの再戦となりました。この試合も前日の準決勝と同様0-0でPK戦に突入。日本が2-1で勝利し、今大会3位入賞を果たしました。目標としていた優勝には届きませんでしたが、出場国の中で唯一、無失点で大会を終えるなど、チームの進化を体現することができました。また、大会通算9得点を挙げた黒田智成選手が得点王を受賞しました。今大会ではパラリンピック出場権獲得を逃しましたが、来年8月の世界選手権でのパラリンピック出場権獲得を目指し、強化していきます。引き続きご声援のほど、よろしくお願いします。

初の男女同時開催となったIBSAブラインドサッカーアジア・オセアニア選手権2022に男子日本代表と女子日本代表が共に出場。女子は初優勝を飾り、男子も3位に入賞した

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。
障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。
彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていくきっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。
私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。

切断障がい　脳性麻痺　精神障がい　知的障がい

電動車椅子　視覚障がい®　聴覚障がい

日本アンプティサッカー協会

アンプティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフストランドクラッチで体を支えながらプレーします。

日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアーフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral（脳からの）Palsy（麻痺）の頭文字をとり、そう呼ばれています。

日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

公式ユニフォームサプライヤー　adidas

パートナー　住友ベークライト　東京海上日動

支援団体　日本サッカー後援会　Bewith　MSOL　三菱商事

隔月連載

日本全国 FAコーチ巡り

第9回 徳島県サッカー協会

一人一人と真摯に向き合い、徳島県サッカー全体を発展させる

各都道府県サッカー協会（FA）で配置が進む技術担当専任者「FAコーチ」。その活動にスポットを当てた連載企画第９回は、徳島県サッカー協会の羽地登志晃FAコーチに話を聞いた。

○オンライン取材日：2022年11月24日

現状や課題を把握した中で改革を進めていく

――徳島県サッカー協会（FA）で活動し始めたのはいつ頃でしょうか。

羽地　徳島県FAとのつながりは、2017年に国民体育大会（国体）の少年男子チームの監督を引き受けたことがきっかけです。当初は徳島ヴォルティスユースの監督と兼任する形でチームを指揮していました。翌18年9月からは、ヴォルティスから出向して徳島県FAのテクニカルアドバイザーを務めるようになりました。その後、徳島県FAからオファーをいただき、20年2月にFAコーチに就任しました。テクニカルアドバイザーは徳島県サッカー全体を良くするため、普及・育成に関わる全てを担当する役割なのですが、その当時から徳島県の現状や課題を把握していたので、スムーズにFAコーチの仕事に取り掛かれましたね。国体の少年男子チームの監督は、現在も継続中です。

徳島県FAで活動する羽地FAコーチ

――あらためて専任のメリットをどのように感じられていますか。

羽地　多くの時間を費やせることが一番のメリットです。徳島県の指導者やサッカー関係者と幅広くコミュニケーションを取る機会が増えたことで、それぞれの現状や抱える課題などを知ることができます。3年前からは徳島県FAの技術委員長を兼任しており、FAコーチとして現場で感じた課題を組織の中でスピーディーに修正できる点もメリットだと感じています。

――さまざまな活動を通して感じる徳島県の強みや課題とは？

羽地　徳島県でも少子化が進んでいますし、他県と比べてサッカー人口が少ないことは課題です。人口に対して県土が広く、県内の移動時間が結構かかりますから、その部分で難しさを感じています。一方で、向上心を持ち、選手を成長させたいと考えている、若くて意欲のある指導者が多いことは強みです。彼らのモチベーションが向上するようなコミュニケーションを取れば選手たちにも良い影響を及ぼすと考えていますので、そうしたことを意識しながら活動を進めています。

――改善に向けて取り組まれたことを教えてください。

羽地　最初に取り掛かったのは技術委員会の改革です。多くの方々のご尽力によって少しずつ良くなってはいたのですが、それぞれが仕事や自チームの指導を抱えながらですので、なかなか組織としてうまく機能していませんでした。他の種別委員会と業務が重なっていたり、会議がただの報告会になっていたり、具体的に何をすべきかも曖昧だったんですね。そこでまずは業務のすみ分けをし、各委員会や各郡市サッカー協会ともうまく連携を取っていこうと働き掛けました。

例えばトレセン活動では、それまで4種年代は4種委員会が、3種年代は3種委員会が取り仕切っていました。本来であれば、技術委員会がトレセン全体を把握した上で各年代の活動を連携させなければならないのですが、それがぶつ切りになっているような状況でした。各年代の指導者の負担も偏っていたため、4種と3種のトレセンは技術委員会が引き受ける形にしました。

地区トレセンのスリム化 質の高い指導者を養成する

――現状を変えることには多くの労力を伴うかと思います。

羽地　4種年代の地区トレセンは、選手数が少ない地区では実施されていないケースもあり、そうした地区の選手にとっては自チームでの活動しかなく、成長や刺激を受ける場が他にありません。「選手のために変えていきましょう」と何度も話をさせていただき、皆さんの理解を得て今では地区トレセンの活動も充実しています。

――具体的にはどのような改革を図りましたか。

羽地　4種年代では、定期的に行われる地区トレセンが8地区のうち二つの地区にしかなく、6地区では県トレセンの選手を選考する程度の活動しかなされていませんでした。選手や指導者が少ない中、地区トレセン自体のスリム化を図れば、有望な選手が集まり、指導者の数も担保できるのではないかと。そこで3種年代と同様に五つの地区に再編成し、今では定期的に実施できるようになりました。5地区が集まる地区トレセン対抗戦も年2回開催し、選手や指導者の交流の場を設けています。

改革から2年ほどたちますが、どういう選手がいるかを把握できるようになったと感じています。定期的に選手を見ることで実力が分かりますし、各地区に配置した地区トレセンダイレクターからの推薦もあるなど、良い流れができています。

「選手目線で考えると変えなければいけないことも多かった」と羽地コーチは語る。トレセン活動を中心に多くの改革を進めている（写真は国体少年男子チーム）

――そのほか、育成ではどういった取り組みを進めていますか。

羽地　技術委員会として、ストライカープロジェクト、GKプロジェクト、国体の強化、インターハイ（全国高等学校総合体育大会）の強化、と四つの活動を進めています。中でもストライカープロジェクトは、私が現役時代にFWをやっていたのでこだわりがあるんですね（笑）。GKと同様に特殊なポジションでもあり、特化したトレーニングをしたいと考え、現在はU-12年代の選手を集めて実施しています。今後は、種別を越えて県内のストライカーを一同に集めて指導する構想もあります。

――国体の少年男子チームの監督も務められています。どのような選手を育てていきたいとお考えですか。

羽地　国体の少年男子チームではボールを保持する時間を長くし、主導権を握るサッカーをしたいと考えています。ですので、4種年代のトレセンから、ボールを持つことを恐れない選手の育成を図っています。その中で個性のある選手も見逃さない。3種年代ではグループ戦術を身に付け、国体の少年男子チームでチームとして機能させる流れに持っていきたいと思っています。

――指導者養成への関わりについても教えてください。

羽地　B級コーチ養成講習会のFAコースでインストラクターを務めています。トレセンに質の高い指導者を配置するべく、積極的に講習会を開催し、4年間でB級ライセンス保持者を60人ほど養成できたことは成果です。C級やD級コーチ養成講習会に関しても、チーフインストラクターと連携しながら分担して進めています。指導者が少ないことや移動距離の問題で開催場所が徳島市などに偏ってしまうという課題もあるので、今後は県西や県南での開催を増やしたり、週末や夜間コースを設けたりするなど、ニーズに合わせて講習会を開催し、上位ライセンス取得につなげていければと思います。

――女子やキッズに関してはいかがでしょうか。

羽地　女子は、技術委員会に女子担当ダイレクターを配置したことで現状は把握できるようになりましたが、まだあまり深く関われていません。女性指導者の少なさも課題ですので、その改善を含めて連携を深めていく考えです。

キッズの普及は、徳島県FAの課題の一つです。地区の少年団が行う普及活動に加え、FAとして巡回指導やフェスティバルでサッカーに触れてもらう機会をつくっています。そのほか、企業が所有する人工芝グラウンドを使ったサッカー教室も実施しています。人づてに話が広がり、今では週末の夕方になると15人ほどの子どもが集まるようになりました。これまで延べ約400人を指導しましたが、普及は地道な活動が必要ですので今後も継続していきたいと考えています。

――今後、徳島県サッカーをどのように盛り上げていきたいですか。

羽地　登録数の減少など少子化は顕著に進んでいます。急激に右肩上がりにするのは難しいと思いますので、地道な活動を続けていくことで、サッカーに関心を持ったり、意欲を持ってもらえる人を増やしていきたいと思います。また、育成や指導者養成においても、一人一人と真摯に向き合い、徳島県サッカー全体をさらに発展させていきたい。そうすることで、徳島県サッカーの明るい未来を築けると信じています。夢は、徳島県からFIFAワールドカップに出場する選手を輩出することです。

隔月連載

日本サッカータイムスリップ

1921年に誕生した日本サッカー協会（JFA）は、2021年9月に創立100周年を迎えた。
本連載では、JFA各種事業や日本サッカーの歩みを振り返っていく。
第26回はプロ化への道のりをテーマにお届けする。

※本連載は隔月での連載になります

第26回

プロ化への道のり

転機は1974年、国際オリンピック委員会（IOC）がオリンピックの存在を規定した「オリンピック憲章」から「アマチュア」という文言を削除し、アマチュア選手以外にも門戸を開いたことだった。第23回オリンピック競技大会（1984／ロサンゼルス）から、条件付きではあるが、サッカーやテニスでプロ選手の参加が認められるようになる。世界のサッカーにおいては、アマチュア選手しか出られないオリンピックとプロも出場できるFIFAワールドカップでは、そのレベルの差は明らかだった。選手の身分による制限がなく、代表チーム同士が高いレベルで競い合うワールドカップこそが世界最高峰の大会であると認識されていた。

70年代の日本サッカーに目を向けると、日本サッカーリーグ（JSL）の所属チームは、強化のためにブラジルから日系選手などを獲得するチームがある一方で、欧州やブラジルのプロチームに短期留学という形で選手を送り出しているところもあった。69年にはプロサッカークラブを志向する読売サッカークラブ（東京ヴェルディの前身）が誕生し、72年にJSL2部昇格を果たすなど頭角を現し始める。77年10月には、西ドイツ（当時）の強豪プロクラブ、1.FCケルンのオファーを受けて奥寺康彦（古河電工）がプロ契約を結び、日本人として初めて欧州のトップリーグでプレーするプロ選手となった。きっかけは日本代表監督だった二宮寛が1.FCケルンのバイスバイラー監督と親しかったこともあり、西ドイツでの代表合宿の際、奥寺らを同クラブの練習に参加させていたこと。そこでの評価と国際大会での活躍が認められてのプロ契約だった。

82年、JSLは、所属チームが試合運営と収支に責任を持つ「自主運営」を導入する。それまでは試合運営は全てリーグが行い、運営にかかる経費は加盟チームが均等に拠出する分担金方式を採っていた。この変更によって各チームは試合運営と観客動員、損益と収支をリンクさせてホームゲームを開催することになる。しかし、JSLの入場者数は低迷しており、独立採算に近づけるための努力が必要だった。

自主運営にしてもチームによって意識の差は大きく、サッカー活動によって報酬を得る社員（選手）を採用するなど、プロ志向を強めるチームも出てきた。こうしてJSLは従来の実業団のアマチュアチームとプロ志向のチームが混在するリーグへと変化していった。

85年にJSL総務主事に就任した森健兒は、こうしたリーグの実態に鑑み、選手と企業およびチームの関係性に関する調査を実施。プロ選手の存在を認知し、実態に即した新しい選手登録カテゴリーの創設に着手する。

こうした動きに加え、83年、日本の好敵手であった韓国にプロリーグが誕生した。85年、ワールドカップ・メキシコ大会のアジア地区最終予選で韓国に敗れてワールドカップ出場を逃すと「代表チーム強化のためにはプロ化が不可欠」という声が関係者から上がるようになる。銅メダルに輝いた68年のメキシコ大会以来、日本はオリンピックに出場できておらず、ワールドカップもアジア予選を突破できずにいた。プロ化の機運が高まるのは自然の流れだったといえる。

86年には日本体育協会（現、日本スポーツ協会）が「アマチュア規定」を改定し、傘下の競技団体にアマチュア以外の選手（プロ選手）の登録を認める。IOCの改定から遅れること12年のことだった。日本サッカー協会（JFA）はすでにこのとき、プロ選手の存在を認める登録規程の作成などを進めていた。86年5月には、選手登録カテゴリーを「アマチュア選手」「ノン・プロフェッショナル（ノン・プロ）選手」、そして、事実上のプロとなる「スペシャルライセンスプレーヤー」に改定。日本サッカー史上初めてアマチュア以外の選手を公認するJFAの規約改定は、プロ化への第一歩と位置付けられる大きな出来事だった。この年の9月には、西ドイツから帰国した奥寺と日産自動車の木村和司の2人がスペシャルライセンスプレーヤーとして登録、そのほかJSL所属の60人の選手をノン・プロ選手として登録することがJFAによって承認された。

JSLは88年3月、「JSL活性化委員会」を設置し、リーグを活性化させてサッカーのレベルアップを図るための議論を開始する。JSLは現状分析と情報収集などを行った上で「商業ベースによるリーグの事業化を図っていくことも必要」とする報告書をまとめた。プロリーグの発足へ、具体的に動き出すことになる。

プロ化の構想が練られ始めた1980年代。1986年にはJSLのキャンペーンポスターに1.FCケルンとプロ契約を結んだ奥寺康彦が起用された

JFA DREAM
夢があるから強くなる

JYD
JFA YOUTH & DEVELOPMENT PROGRAMME

日本サッカーの発展のため、
さらなる普及や次世代選手育成の促進を。

JFA Youth & Development Programme

OFFICIAL PARTNER

TOYOTA　ニチバン　molten For the real game

GREENPROJECT PARTNER

TOA 東亜道路工業　FUJITA Daiwa House Group

JYD SUPPORTER

Deloitte. デロイト トーマツ　日本総研 The Japan Research Institute, Limited　The Pokémon Company　あそびと教育 BørneLund ボーネルンド

JYD

隔月連載

サッカー心育論 Vol.77

～指導者は何を考えるべきか～

中山 雅雄（JFA技術委員会普及部会部会長／JFA普及ダイレクター／JFAキッズプロジェクトメンバー／筑波大学体育系教授）

大木を見習う

ユリノキやイチョウ並木の紅葉に秋の静けさを感じながら、積もった落ち葉に足を滑らさないようにゆっくり歩きます。風が日に日に冷たくなり、冬が近づいています。今は存在感のある大木ですが、40年ほど前の写真を見ると木々は細く一帯の風景も随分と違って見えます。年月を重ねて成長していることに畏怖の念を覚えます。

国立競技場でJFAユニクロサッカーキッズが行われました。未就学児のピッチでのプレーは、まだまだ未熟で微笑ましいです。この中から一人でも多くの子が十数年後に再びサッカー選手としてここに戻ってきてくれたらと思います。その過程には、楽しいことやうれしいことばかりでなく、苦しいことやつらいこと、悔しいこともあるでしょう。それら全てが成長の糧になります。

コロナ禍との向き合い方も変わってきています。石川県での「JFAファミリーサッカーフェスティバル"First Touch"」の視察に行く際、新幹線は満席でした。このフェスティバルは、小学校1～3年生のサッカー未経験者とその保護者が対象です。親子で協力したり、競ったりしながら体を動かし、ボールを足で扱います。サッカー好きも、普段は運動しない人も楽しんでおり、少女たちも喜んでいます。子どものサッカーへの関心が、保護者の共感によって膨らんでいきます。このフェスティバルは、常に満点に近い評価を得ています。企画面や運営面をはじめ、ピッチ上で参加者と直接関わるコーチやアシスタントの高校生の取り組みも素晴らしいのです。

島根県の出雲ドームでU-10年代の子どもを指導する機会がありました。11月は神々が出雲に集う神在月で、飛行機は満席でした。私は出雲大社を訪れることはできませんでしたが、サッカーキッズと楽しい時間を過ごしました。それぞれの力を引き出すきっかけになるようにと思って取り組みました。一人でボールを持って投げたり取ったり、運んだりといった基礎的な運動から始まり、二人組でのボールフィーリング、グループでの鬼ごっこといった課題は、サッカーに直結する運動ではありませんが、認知や運動に多様な刺激を与えます。4対2のボールキープでは、ボールを失わない、ボールを奪うという課題を意識させ、どうしたらうまくできるかについてはほとんどコーチングしませんでした。最後は5対5のスモールサイドゲームで思い切り、サッカーを楽しんでもらいました。

サッカーのゲームでは、ボールを扱うための、多くの技術を発揮しなければなりません。ボールを持っていないときは味方をサポートしたり、守備ではゴールを守って相手からボールを奪うといった多様なプレーが必要です。これら一つ一つを取り出して練習し、習得して組み合わせれば良いプレーが完成するかといったら、そうはいかないのが現実です。サッカーはプラモデルの部品を組み立てるようにはいかないのです。サッカー上達の礎は、そうした細かいことを気にせずに楽しむことです。

相手のボールを奪う守備のトレーニングをしているとき、コーチから「アプローチを強くして、相手にプレッシャーをかけよう！」といった声が掛かりました。その指示に応じて、勢いよく相手にプレッシャーを掛けに行くと、簡単に裏を取られて抜かれてしまいました。よくある光景です。相手からボールを奪うプレーにおいて、強いアプローチは一つの手段です。奪う瞬間のポジショニング、相手の動きや意図に対する予測、ステップワークなど、さまざまな要素がボールを奪うプレーに影響します。「全体は部分の総和以上である」と複雑系の科学では言われます。ここにコーチングにおける一つの落とし穴があります。つまり、目的は「ボールを奪うこと（全体）」ですが、その手段（部分）の一つである「強いアプローチ」が、いつの間にか目的になってしまうのです。選手が真に学ばなければならないことは、ボールを奪うために、強いアプローチをどこで生かすかという知識です。私もこの落とし穴に落ちてしまいがちです。次のトレーニングがベストになるよう、出雲でのコーチングを振り返っています。

FIFAワールドカップが始まり、大学生のサッカーの授業に活気が出てきたように感じます。サッカー専門でなくても、体育を専攻している学生たちですのでスポーツへの関心は高いです。ワールドカップで見たプレーを自分もやってみたい、仲間との華麗なパスワークで守備を崩してみたいと張り切っています。私は彼らのプレーを見ながら「時にサッカーの指導者が選手の成長を阻害しているのではないか」と感じることがあります。彼らのゲームでは、ほとんどのプレーが純粋にゴールに向かっていきます。見ていて楽しく、学生たちも喜々としています。

自然界の厳しい環境にさらされながら、根から大地の栄養をもらい、葉で光のエネルギーを取り入れながら自分の力でじっくりと成長していく大木のような選手を、私たちはもっと意識的に育てていく必要があるのではないかと思っています。

Vol.9 隔月連載 茂怜羅オズの ビーチサッカーNAVI ナビ

若手とベテランの融合を目指して

ビーチサッカー日本代表の茂怜羅オズ監督兼選手による連載コラム。隔月でお届けします。

海外チームと数多く対戦した秋

FIFAワールドカップカタール2022は大いに盛り上がりました。テレビ観戦も楽しいですし、日本サッカー協会（JFA）の公式YouTubeチャンネル「JFA TV」で公開されている「Team Cam」のSAMURAI BLUE（日本代表）の密着映像などを見て、私も「早くワールドカップを戦いたい！」という気持ちになりました。

さて、ビーチサッカーでは来年にワールドカップを控え、3月にはその予選となるAFCビーチサッカーアジアカップが行われます。そこに向けた強化として、今年10月、久しぶりに国内で行われた国際親善試合でウクライナと2試合を戦い、11月には「Intercontinental Beach Soccer Cup Dubai 2022」（アラブ首長国連邦）と「Neom Beach Soccer Cup」（サウジアラビア）の2大会に参加しました。

ウクライナとの国際親善試合は有観客で行われ、なおかつライブ配信もあり、多くの皆さんにビーチサッカー日本代表を見てもらう機会になりました。結果を求めてプレーしようと選手たちに伝えていたので、2連勝することができて良かったです。

中東で行われた2大会はアジアや世界の強豪チームが集まり、日本はいずれの大会も5位という結果でした。若手選手にチャンスを与えつつも、勝利を目指して戦いに挑んだので結果には満足していません。Neom Beach Soccer Cupではオマーンに負けるなど、アジアカップを見据えた上でも悔しい内容となりました。

GKの攻撃参加は必要不可欠

それでも、若手選手とベテラン選手を融合させ、緊張感のある戦いの中で多くの経験を積むことができました。また、日本人選手の特長としてスピードと技術の高さが挙げられますが、代表常連の選手たちの高い技術を用いたパスのつなぎやピヴォを使った崩しなどは世界の強豪に匹敵するレベルだと感じました。ただ、以前もお話ししたと思いますが、やはりフィニッシュの部分の課題が依然として残っています。

一方、「GKの攻撃参加」には可能性を感じました。これまではフィクソに入る私がゲームメークをすることが多かったのですが、マンツーマンでマークされ、ボールに触る回数が少なくなってしまうことがあるんです。そうなると日本の武器が一つ減ってしまうわけです。そんなときに、GKがボールを運んでゲームをつくり、またシュートでゴールを奪えるようになれば、確実に攻撃の選択肢が増えます。GKを使った攻撃は世界のトレンドです。

2大会では異なる特長を持つ3人のGKを招集し、積極的に攻撃参加してもらいました。1人のGKが試合に出場し続けて、ゴールを守りながら攻撃参加し、ボールを運びシュートも打つ…となると、試合が進むにつれて疲労がたまり、シュートの精度や威力が落ちるということもあります。そこで田畑輝樹コーチと相談し、第1ピリオドと第2ピリオドでGKを交代し、第3ピリオドは試合の状況と選手の特長を見て使い分けることにしました。

実際に、Intercontinental Beach Soccer Cupのイラン戦では第3ピリオドにGKがゴールを奪うなど成果がありました。まだミスもありますが、私が目指すビーチサッカーを表現するにはGKの有効活用が必須です。

トレーニングでさらなる積み上げを

若手選手との融合を図る上で、チーム全体のコンビネーションをもっと積み上げる必要があります。来年3月のアジアカップに向けて、国内でのトレーニングキャンプを数回実施し、準備を進めたいと考えています。

今回の活動中、全ての選手と1対1で話し、それぞれに良いところ、まだ足りないところ、継続して取り組んでほしいことなどを伝え、“宿題”を出しました。もちろん代表の門戸は常に開かれているので、今回呼ばれなかった選手たちにもチャンスはあると伝えています。

これから寒くなり、ビーチでトレーニングするのが大変な季節ですが、選手たちには所属チームでしっかりコンディションを整え、レベルアップしてまた代表に集まってもらいたい。そして代表合宿ではシステムやセットプレーなどチームの戦術に主眼を置き、ビーチサッカー日本代表としてさらに進化していければと思います。

10月に兵庫県で行われたビーチサッカー日本代表の国際親善試合。「勝利とともにビーチサッカーの魅力も伝えようと試合に臨んだ」と茂怜羅オズ監督は話す

オリンピックの開会式は、それ自体で重要な一種目のように注目を集め、大きな予算を割かれて準備が行われます。

私たちの年代だと、1964年の東京オリンピックの開会式をカラーテレビで見て、真っ青な秋晴れの下、国立競技場のアンツーカーのトラックの上を行進する真っ赤なブレザーの日本選手団の姿に感動したのを覚えています。近年のオリンピックでは、3時間、4時間にわたる開会式もあります。

それに比べるとFIFAワールドカップの開会式は簡素なものです。開会式だけ単独に行われることはなく、開幕戦に先立って30分間ほど行われるだけだからです。しかし短時間でも、ホスト国は世界にアピールできる機会と、張りきって準備します。ミラノのサンシーロ・スタジアムで行われた1990年のイタリア大会開会式では、スカラ座でルチアーノ・パバロッティが歌う『誰も寝てはならぬ』(プッチーニ)が生中継され、感動を呼びました。

オリンピックを含め、こうした開会式に共通するのは、自国の歴史を紹介し、文化を見せることです。それによって開催国がいかに偉大か、素晴らしい文化を持っているかを、世界に強く訴えかけようとするのです。もちろん、「人類の調和」のようなテーマもありますが……。

そうした「開会式あるある」から見ると、「FIFAワールドカップカタール2022」はとても変わっていました。自国をアピールするより、世界中からのサッカーファンを歓迎するというホスピタリティーの意識に満ち溢れていたからです。

もちろん、序盤には、「海の民」であるカタールという国を紹介するパートもありました。幻想的で、芸術性の高いものでした。しかしそれが終わると、いきなり出場各国のサポートソングが始まります。アルゼンチンからABC順に、おなじみのサポートソングがメドレーで流れるのです。そしてそれに合わせて、出場各国のユニフォーム姿の大きな着ぐるみが行進してきました。大型映像装置には、歌に合わせた各国のサポーターの様子が映し出されます。

それが一段落すると、今度はワールドカップマスコットです。初登場した1966年イングランド大会以来、過去14大会の着ぐるみが行進してくると、音楽はそれぞれの大会の公式ソングに変わります。そして最後に、今大会のマスコット「ライーブ」が巨大な姿で登場し、空中を泳ぎ回ります。カタールに最初に定住したのは海の幸を求めた人々で、穏やかなペルシャ湾の海のシンボルが巨大なエイ。ライーブはその姿を模していますが、その下を半世紀以上にわたる大会のマスコットがカラフルに乱舞する姿は楽しさに満ちたものでした。

カタール大会の開会式は、自国の歴史や文化をアピールする以上に、世界のサッカーファンを歓迎し、ワールドカップの歴史そのものにリスペクトを示すものでした。その姿勢に、私は大きな感銘を受けたのです。

もちろん、カタールの王族がワールドカップ招致を強く推し進めたのは、現在この国を潤している化石燃料が枯渇した後にもしっかりとした経済が保てるよう、「観光立国」に向けてイメージアップしようという狙いがあったと思います。さらに、何よりも名誉を大切にするアラブ社会での「功名心」もあったかもしれません。そして強引な招致活動の中で、さまざまな不正もあったでしょう。それによって国際サッカー連盟(FIFA)の旧体制は転覆しました。さらにはスタジアム建設やインフラ整備で外国人労働者を酷使し、死者も出したと、欧米のメディアが毎日のように伝えています。

しかし自国を誇るのではなく、世界のサッカーファンへの愛情、そしてワールドカップの歴史に対するリスペクトを、これほどストレートに表現した開会式は、これまでにないすがすがしいものでした。そんな開会式を用意したカタールの人々ですから、きっと楽しいワールドカップになるだろうと、日本対ドイツ戦の朝、私は考えています。

11月20日に行われたFIFAワールドカップカタール2022の開会式。
それは出場国とファン・サポーターを歓迎するものだった

いつも心に リスペクト 連載 Vol.116

大住良之
(サッカージャーナリスト)

RESPECT 大切に思うこと

世界のサッカーファンに対するリスペクト

いつも心にリスペクトのバックナンバーはこちら ▷▷▷ https://www.jfa.jp/respect/heart/

日本 1-2 カナダ

終盤に逆転を許すも、一定の収穫を得る

FIFAワールドカップカタール2022に臨むサムライブルー（日本代表）は、11月11日に大会の拠点となるドーハ市アルサッドの練習場で国内組が練習を開始した。同13日と14日には海外でプレーする選手たちも合流、カナダとの国際親善試合に向けて調整した。

カナダ戦はリーグ戦で負傷した影響で遠藤航と守田英正が欠場に。体調不良により合流が遅れた三笘薫も不在となった。カナダ戦は「チームのコンディションとコンセプトを確認する」（森保一監督）ためにも、本大会の初戦であるドイツ戦に向けても重要な一戦。試合は11月17日、アラブ首長国連邦のアルマクトームスタジアム（ドバイ）でキックオフを迎えた。

序盤、試合を動かしたのは日本だった。8分、低い位置でボールを受けた柴崎岳（レガネス／スペイン）が浮き球の縦パスを送ると、このボールに走りこんだ相馬勇紀（名古屋）がジャンプしながら右足を伸ばしてコースを変え、日本に先制点をもたらした。

この1点で勢いに乗った日本は、追加点を狙って攻勢に出る。19分には久保建英（レアル・ソシエダ／スペイン）がドリブルを開始、際どいミドルシュートを放つなど、積極的に相手ゴールへと迫った。

しかし、36年ぶりにFIFAワールドカップ出場を決めたカナダも、サイド攻撃を軸に反撃に出る。21分にCKにスティーブン・ビトリアが詰めて同点に。これで試合の流れをつかんだカナダは28分にテイジョン・ブキャナン、34分にはジョナサン・デービッドがシュートを放つなど、日本の守備陣にプレッシャーをかけてくる。

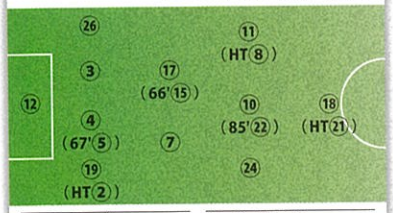
日本は後半から堂安律（フライブルク／ドイツ）、上田綺世（セルクル・ブルージュ／ベルギー）、山根視来（川崎F）を投入し、攻撃のオプションを試す。59分には高い位置でボールを奪い、最後は南野拓実（モナコ／フランス）がシュートを放つが、うまくミートせず、勝ち越しはならず。この後も鎌田大地（フランクフルト／ドイツ）や長友佑都（FC東京）をピッチに送り込み、フレッシュな陣容でカナダゴールに迫っていく。85分には吉田麻也（シャルケ／ドイツ）が途中出場し、布陣を4バックから3バックに変更。ボールを持つ時間を増やし、攻撃の糸口をつかもうとするが、89分に山根のシュートがゴールポストに嫌われるなど、得点には至らない。

すると試合終了間際、ドリブルを仕掛けてきた相手を山根が倒し、PKの判定に。これを決められ、試合は1-2で終了。日本は勝利を手にすることができなかった。それでも、FIFAワールドカップに臨む前の一戦で戦術や選手起用など複数の選択肢を試した。また、負傷明けの選手たちのコンディションを確認できたことも大きな収穫だった。

シュートを放つ南野。日本の攻撃陣は最後まで奮闘したが、後半は追加点を奪うことができなかった

■国際親善試合
2022年11月17日　17：40（現地時間）
アラブ首長国連邦／アルマクトームスタジアム

日本	1-2	カナダ
8' 相馬 勇紀	1-1 / 0-1	21' スティーブン・ビトリア 90+5' ルーカス・カバリーニ



GK ⑫ 権田 修一
FP ③ 谷口 彰悟
④ 板倉 滉
→ 67' ⑤長友 佑都
⑦ 柴崎 岳
⑩ 南野 拓実
→ 85' ㉒吉田 麻也
⑪ 久保 建英
→ HT ⑧堂安 律
FP ⑰ 田中 碧
→ 66' ⑮鎌田 大地
⑱ 浅野 拓磨
→ HT ㉑上田 綺世
⑲ 酒井 宏樹
→ HT ②山根 視来
㉔ 相馬 勇紀
㉖ 伊藤 洋輝

森保一監督コメント（要約）

結果は残念だが、FIFAワールドカップへの良い準備になった。けが人の回復や体調不良、出場停止などを想定して、大会にどう臨むかを確認することができた。後半は失点を抑えながら得点を奪うことを考えて3バックを採用した。得点はならなかったが、悪くない形をつくることができた。しかし、2失点はともにセットプレーからだった。できるだけセットプレーを与えないように、最初に相手に寄せるディフェンスを考え、相手に狙い通りプレーさせないよう修正しなければならない。

※SAMURAI BLUEメンバーおよび公式記録は38ページに掲載

FIFAワールドカップカタール2022

優勝経験国から逆転勝利を収め、2大会連続のベスト16

11月20日に開幕したFIFAワールドカップカタール2022。
SAMURAI BLUE（日本代表）はドイツとスペインという優勝経験国が同居するグループで歴史に残る戦いを繰り広げた。

SAMURAI BLUE試合結果 ※カッコ内は前半のスコア

〔グループステージ〕
第1戦　11月23日
ドイツ　1-2（1-0）　日本
日本の得点＝75'堂安律、83'浅野拓磨

第2戦　11月27日
日本　0-1（0-0）　コスタリカ

第3戦　12月1日
日本　2-1（0-1）　スペイン
日本の得点＝48'堂安律、53'田中碧

〔ラウンド16〕
12月5日
日本　1-1（1-0）PK1-3　クロアチア
日本の得点＝43'前田大然

■グループステージ　衝撃の幕開け　ドイツに逆転勝ち

サムライブルー（日本代表）のFIFAワールドカップカタール2022は、11月23日のドイツ戦で幕を開けた。

4万2608人が押し寄せた会場は開始早々、大歓声に包まれる。8分、鎌田大地（フランクフルト／ドイツ）からパスを受けた伊東純也（ランス／フランス）が右サイドから低く鋭いクロスボールを送ると、前田大然（セルティック／スコットランド）が合わせて先制かと思われたが、オフサイドでノーゴールに。31分には、GK権田修一（清水）がペナルティーエリア内でダビド・ラウムを倒してPKを献上してしまう。これをイルカイ・ギュンドアンに決められ、0-1で前半を折り返した。

後半、日本は選手交代と戦術変更に勝機を見いだす。久保建英（レアル・ソシエダ／スペイン）を冨安健洋（アーセナル／イングランド）に代えて布陣も4バックから3バックに変更。これによって守備時にプレッシャーをかける相手が明確になり、ボールを奪ってから攻撃へとつなげる時間が増える。

会場も日本の粘り強い戦いに手拍子を送り、同点を期待する雰囲気がつくられた。そして75分、途中から出場した攻撃陣が相手ゴールをこじ開ける。三笘薫（ブライトン／イングランド）がペナルティーエリア内にパスを送ると、縦に走り込んだ南野拓実（モナコ／フランス）がゴール前に折り返す。このボールは、一度は相手GKにセーブされたが、ゴール前に詰めていた堂安律（フライブルク／ドイツ）が押し込み、1-1とした。

勢いはさらに加速する。83分、自陣でFKを得た日本は板倉滉（ボルシアMG／ドイツ）のフィードに浅野拓磨（ボーフム／ドイツ）が抜け出すと、見事なトラップからニアサイドを破るシュートを放ち、逆転に成功。日本はこのまま2-1でドイツを振り切り、FIFAワールドカップで初の逆転勝利を収めた。

ドイツとの初戦は「俺が決めるという気持ちで（ピッチに）入った」という堂安（写真中央）。こぼれ球を押し込み、反撃の口火を切る同点ゴールを挙げた

コスタリカ戦、まさかの足踏み　勝ち点を取り逃す

ドイツ戦の勝利の興奮も冷めやらぬまま、日本は11月27日にコスタリカとの第2戦を迎えた。日本は初戦から5人のメンバーを変更。上田綺世（セルクル・ブルージュ／ベルギー）が1トップとして先発、中盤の底では守田英正（スポルティング／ポルトガル）がけがから復帰して遠藤航（シュツットガルト／ドイツ）とコンビを組んだ。試合は、序盤から探り合いの状態が続いた。スペインとの第1戦を0-7で落とし、この一戦で勝ち点3がほしいコスタリカだが、

ドイツの名手ノイアーを破り、決勝点を決めた浅野（背番号18）。「今日のために全力で準備してきた。それが結果につながっただけ」と冷静だった

チーム全体の重心が低く、攻撃には出てこない。対する日本もまずは無失点を意識して戦ったことにより、前半は0-0で終わった。

後半、日本は62分に山根視来（川崎F）に代えて三笘を投入、67分は堂安に代えて伊東をピッチに送り込むが、こう着状態を破るには至らない。ともにチャンスをつくることができない中、先に試合を動かしたのはコスタリカだった。81分、日本が自陣でのクリアが小さくなったところを突き、最後はパスに抜け出したケイシェル・フジェルがゴール左上にシュートを決める。

窮地に立たされた日本は88分、三笘が左サイドをえぐってゴール前にパスを送るが、鎌田の放ったシュートはGKにセーブされる。この後も日本はコスタリカの堅守を崩すことができず、試合は0-1のまま終了を迎えた。日本は勝ち点を積み上げることができなかった。

ドイツ戦に続き、コスタリカ戦も途中出場し、左サイドでチャンスをつくった三笘。試合後、「スペイン戦は後悔しない戦いをしなければならない」と語った

攻めの守備から得点 勢いでスペインを飲み込む

12月1日、日本はグループ首位のスペインと対戦した。勝てば無条件でグループステージ突破が決まる一戦、日本は今大会で初めて試合開始から3バックを採用、板倉、吉田麻也（シャルケ／ドイツ）、谷口彰悟（川崎F）が最終ラインに入った。

圧倒的な攻撃力を持つ相手を向こうに回し、前半は失点を抑えたかった日本だが、序盤から劣勢に陥る。12分、セサル・アスピリクエタのクロスボールをアルバロ・モラタに頭で合わせられ、早々にリードを許した。

この後も試合はスペインがボールを握り、日本が粘り強く守る展開が続く。前半はスペインが8割近くボールを保持したが、日本は追加点を許さず。「最少失点を維持して我慢強く戦おうと話していた」（谷口）というチームは0-1で試合を折り返す。

コスタリカ戦の終盤、ミスが重なったところを相手に突かれ、失点を喫した。試合後、日本の選手たちは口々に「次のスペイン戦に切り替える」と話した

日本は後半から三笘と堂安を投入。ドイツとの初戦で得点に絡んだ二人が、この一戦でも大仕事をやってのける。48分、三笘と前田が高い位置から猛然とチェイスを開始すると、これに面食らったGKウナイ・シモンがたまらず味方DFにパスを送る。伊東が相手と競ってマイボールにすると、これを拾った堂安が左足一閃、強烈なミドルシュートで同点とした。

この一発で勢いに乗った日本は攻勢を強める。51分、右サイドで田中碧（デュッセルドルフ／ドイツ）のパスを受けた堂安が相手GKとDFの間にグラウンダーのクロスボールを送ると、ゴールライン際で三笘が折り返し、最後は田中がネットを揺らす。主審はゴールラインを割ったと判定したが、直後にVARのチェックが入った結果、ゴールが認められ、日本は2-1と逆転に成功する。わずか数分で試合をひっくり返した日本はこの後、鎌田に代わって冨安が登場。守備を固めて最後まで1点を守り、スペインをかわして首位でグループEを突破した。

スペイン戦は守備の時間が長くなったが、日本は粘り強く対応。「試合を通してよく声を掛け合いながら、体を張っていた」と板倉（写真中央）

■ラウンド16 120分におよぶ死闘の末 試合巧者クロアチアに屈す

12月5日、8強進出を懸けて対戦した相手は、グループF2位のクロアチアだ。序盤、日本はシンプルな攻撃を仕掛ける相手に苦戦する。8分には縦パスに抜け出したイバン・ペリシッチがGKと1対1になる場面をつくられるが、ここは権田がうまく対応し、難を逃れた。堅守をベースにしながらも得点機をうかがう日本は43分、今大会で初めて先制点を奪う。CKを堂安、鎌田、伊東とつないでリターンを受けた堂安がゴール前に送ると、吉田がこれを折り返し、最後は前田がゴールに押し込んだ。

しかし、クロアチアも黙っていない。55分にはデヤン・ロブレンのクロスボールをペリシッチが合わせて同点に。さらに63分にモドリッチが強烈なミドルシュートを放つなど、徐々に攻勢を強めていく。対する日本も南野や三笘を投入して再度、突き放しにかかるが、ゴールには至らず。試合は一進一退のまま延長戦に突入する。しかし、ここでも決着がつかず、その行方はPK戦に委ねられることになった。先行の日本は南野、三笘が立て続けにGKにセーブされたのに対し、クロアチアは4人中3人がキックを成功。日本は120分におよぶ死闘の末、ベスト8への壁を阻まれることになった。

モドリッチらクロアチアの中盤と渡り合った遠藤（写真中央）。「プラン通りに試合を進めた中、一本のクロスでやられたのは悔いが残る」と振り返る

SAMURAI BLUE、帰国記者会見を実施

12月7日、森保一監督をはじめ、一部の選手らが帰国した。成田空港にはチームを出迎えようと700人近くのファンが集い、「お疲れさま」「ありがとう」などとねぎらいの言葉を送った。SAMURAI BLUEはこの後、千葉県成田市内のホテルで記者会見を開催。会見には森保監督、キャプテンの吉田麻也のほか、田嶋幸三会長、反町康治技術委員長が登壇した。森保監督は「日本人の魂、誇りを持って戦い、日本のサッカーの価値を世界に認めてもらうという目標を共有しながら活動してきた。それをサポーターの皆さん、国民の皆さんと共有して世界と戦うことができてうれしく思う」とリラックスした表情で語った。

※大会およびSAMURAI BLUEの戦いの詳細は次号に掲載

サッカーファミリー広場

SAMURAI BLUEに応援メッセージを届けよう ～折り紙プロジェクト／全国バスキャラバン

サッカーファミリーの応援メッセージが選手たちのロッカールームへ

SAMURAI BLUE（日本代表）の応援プロジェクト「新しい景色を2022」の一環として、日本サッカー協会（JFA）は9月から「SAMURAI BLUEに応援メッセージを届けよう～折り紙プロジェクト/全国バスキャラバン～」を実施した。全国のサッカーファミリーから寄せられたメッセージが11月16日、カナダ代表との国際親善試合の前日にSAMURAI BLUEの選手たちの元に届けられた。

応援メッセージが書かれた折り紙は選手一人一人のメッセージボードに貼付され、アラブ首長国連邦・ドバイのアルマクトゥームスタジアムのロッカールームに展示。選手たちにとっては元気を与えてくれるうれしいサプライズとなった。

女子サッカーの未来を変える adidas「HER TEAM」プロジェクト 2022年度募集開始

12月31日締切

アディダス ジャパン株式会社がJFAとのパートナーシップの下、2020年より実施している「HER TEAM」プロジェクトの2022年度の募集がスタートした。

同プロジェクトは、中学生年代の女性がサッカーを続けられる環境づくりをサポートすることを目的とし、アディダスが女子チームの創設を支援するというもの。当選したチームを対象に、メンバー募集のための告知ツールやユニフォームの提供、アディダスによるサッカークリニックの開催などを行う。これまでに計20チームが創設サポートを受けている。募集期間は12月31日まで。プロジェクトの詳細、募集概要は31ページおよびアディダス オンラインストア内の特設応募ページ参照。

●特設応募ページ
https://shop.adidas.jp/football/herteamproject/

2021年度は元日本代表の香川真司選手（シント=トロイデンVV）も創設チームを激励。2022年度はなでしこジャパン（日本女子代表）の長野風花選手（ノースカロライナ・カレッジ）とのスペシャルイベントを実施予定

サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会（JFA）は、東日本大震災などで被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座　三菱UFJ銀行（0005）　渋谷支店（135）
普通預金　口座番号0290451　公益財団法人日本サッカー協会
サッカーファミリー復興支援金口
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会（JFA）は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

利用方法：
【電話】03-5276-8838
【フォーム】https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0TvrvO-Leh64Nomkz4YOCQAVouVhhmWtVs3EGjIW_ZdkU5w/viewform?usp=sf_link
利用時間：平日12：00～18：00（土日祝、年末年始等除く）

U-17日本女子代表、前回王者スペインに敗れてベスト8

FIFA U-17女子ワールドカップインド2022が10月11日から30日にかけて開催された。U-17日本女子代表は3連勝でグループステージを突破するも、準々決勝でスペインに敗れ、ベスト8で大会を後にした。

※U-17日本女子代表メンバーおよび公式記録などは42～43ページに掲載

4年ぶりの大会開催 日本は白星発進

7度目の開催を迎えたFIFA U-17女子ワールドカップは、インドのブバネーシュワルとマーガオ、ムンバイの3都市で開催された。前回の2020年大会は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となり、8月にコスタリカで行われたU-20女子ワールドカップと同様、4年ぶりの開催となった。U-20女子ワールドカップでは、日本が2大会連続で決勝に進出する快挙を遂げ、決勝でスペインに敗れたものの準優勝の成績を残した。U-17日本女子代表もその勢いを受けて2014年大会以来となる優勝を目指した。

狩野倫久監督の下で2020年に発足したチームは、この2年間、国内合宿などを重ねてチームを強化、8月のフランス遠征を経て本大会に臨んだ。「技術と戦術、フィジカルに加えてメンタル面でも明るくチャレンジできる選手を選んだ」という狩野監督。複数のポジションでプレーできるユーティリティプレーヤーが多く、21人の平均身長は163・9㎝と、U-20女子ワールドカップに出場したチームの平均身長（163・4㎝）を上回る高さも武器となった。

新型コロナウイルスの影響で活動休止や各種大会の中止・延期などを強いられてきた年代だけに、狩野監督は「大好きなサッカーができる喜びや世界で戦う喜びを体現しながら、喜怒哀楽を精いっぱいピッチで表現できるように取り組みたい」と話した。

■グループステージ第1戦 VSタンザニア

30度を超える高温多湿の環境下、グループステージは夕方から夜にかけて行われた。日本は、タンザニア、カナダ、フランスと同じグループD。キックオフは3試合いずれも20時となった。日本は、大会直前にはアラブ首長国連邦（UAE）のドバイで暑熱対策と時差調整を行ってコンディションを高め、全員がピッチに立てる状態でグループステージ初戦を迎えた。

最初の相手は、全カテゴリーを通じて初のワールドカップ出場となるタンザニア。アフリカのチームらしい身体能力の高さを生かした球際の強さとスピードを見せる相手に、日本は立ち上がりから主導権を握りながらも慎重な入りを見せた。8分、柴田瞳（N相模原ドゥーエ）の折り返しに辻澤亜唯（藤枝順心高）が合わせる。13分には吉岡心（AC福島）のクロスから波状攻撃を仕掛ける

日本は中谷莉奈（写真）と古賀塔子のセンターバックコンビが守備の安定感を生んだ

が、相手GKの好セーブに阻まれる。18分、相手選手が一発退場となり、一人多い状況となった日本。それでも、狩野監督が「初戦の硬さが見られた」と振り返ったように、ミスもあってなかなかゴールを割ることができなかった。

均衡が破れたのは33分。左サイドの松永未夢（日テレ・東京ヴェルディメニーナ）がドリブル突破から中に折り返し、それに白垣うの（C大阪堺L）が走り込んで先制に成功した。1-0で前半を折り返すと、後半は交代選手が攻撃のギアを上げる。67分、板村真央（AC福島）が相手陣内でボールを奪い、ドリブルで2人をかわしてニアサイドに決めるファインゴール。75分には板村のスルーパスから辻澤がGKとの1対1を落ち着いて制し、3-0とリードを広げる。81分には谷川萌々子（AC福島）が直接FKを決めて4-0と快勝し、勝ち点3を積み上げた。

2試合で全選手が出場 準々決勝進出を決める

■グループステージ第2戦 VSカナダ

中2日で迎えたカナダ戦は、初戦から先発メンバー4人を入れ替え、システムを初戦の4-4-2から4-2-3-1に変更。立ち上がりから連動した守備と速いパス回しで攻撃のテンポを上げると、9分に先制点が生まれる。相手陣内の中央で3人で囲んでボールを奪うと、久保田真生（藤枝順心高）が右足を豪快に振り抜き、ミドルシュートで先制。このゴールで主導権を握った日本は、眞城美春（メニーナ）が谷川とのダブルボランチで好連係を見せ、12分と18分には谷川がミドルシュートでチームを勢いづける。37分には、ペナルティーエリアの手前でボールを受けた白垣のシュートが相手に当たり、ゴール左隅へ吸い込まれた。白垣は、初戦は右サイドハーフ、この試合は右サイドハーフと異なるポジションで出場し、2戦連続ゴールを記録。52分には谷川がカットインから力強く3点目をたたき込み、3-0とした。

後半、カナダも個の強さを生かして反撃を仕掛けるが、日本は交代でピッチに送り出された松永が攻撃のスイッチを入れてボールを支配。後半アディショナルタイムには高岡澪（藤枝順心高）が自ら得たPKを決め、初戦に続く4-0の大勝を飾った。そして、他チームの結果により1試合を残して日本のグループステージ突破が決定。2試合で交代枠を使い切り、GKを含む登録選手21人全員がピッチに立ち、試合の中でポジションやフォーメーションを柔軟に変化させるなど層の厚さを示した。狩野監督は、「これまでも選手はいろいろなポジションで出場したり、途中からピッチに立ったときも、役割をしっかりと理解してプレーしてきた。それがこの2試合で成果として見て取れ、チームとしての成長を感じる」と、手応えを口にした。

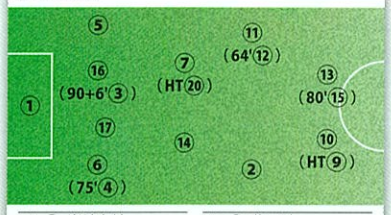
■グループステージ第3戦 VSフランス

グループステージ第3戦は、2012年大会を制したフランスと対戦。1分け1敗で勝たなければ後がないフランスに対し、日本が試合を優位に進める。開始30秒で久保田がファーストシュートを放つと、2分には谷川がミドルシュート。9分には連係プレーから辻澤がシュートを打つが、惜しくもゴールはならず。17分には左サイドを突破されたが、これは、GK岩崎有波（N相模原ドゥーエ）の好セーブで難を逃れた。

29分、試合が動く。高岡のパスを受けた谷川がドリブルで切り込みながら左足でグラウンダーのミドルシュートを決める。3戦連続

■グループD　第1戦
2022年10月12日　20：00（現地時間）
Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium

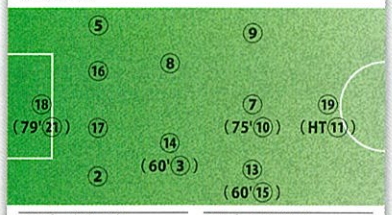
日本 **4-0** タンザニア
（1：0、3：0）
33'白垣うの
67'板村真央
75'辻澤亜唯
81'谷川萌々子



GK ① 岩崎有波
DF ⑤ 大矢さくら
⑥ 吉岡心 → 76' ④楠さやみ
⑯ 中谷莉奈 → 90+6' ③岡村來佳
⑰ 古賀塔子
MF ② 白垣うの
⑦ 今野真帆 → HT ⑳丸井優奈
MF ⑩ 柴田瞳 → HT ⑨樋渡百花
⑭ 谷川萌々子
⑪ 松永未夢 → 64' ⑫板村真央
FW ⑬ 辻澤亜唯 → 80' ⑮高岡澪

■グループD　第2戦
2022年10月15日　20：00（現地時間）
Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium

日本 **4-0** カナダ
（2：0、2：0）
9'久保田真生
37'白垣うの
52'谷川萌々子
90+2'高岡澪



GK ⑱ 鹿島彩莉 → 79' ㉑ウルフ・ジェシカ結更
DF ⑤ 大矢さくら
⑯ 中谷莉奈
⑰ 古賀塔子
MF ② 白垣うの
⑦ 今野真帆 → 75' ⑩柴田瞳
MF ⑧ 眞城美春
⑭ 谷川萌々子 → 60' ③岡村來佳
FW ⑨ 樋渡百花
⑬ 辻澤亜唯 → 60' ⑮高岡澪
⑲ 久保田真生 → HT ⑪松永未夢

全4試合で得点した谷川萌々子（写真左）はボランチとしてチームの舵取り役も担った

©2022 FIFA

となる谷川のゴールで日本が先制する。その後、36分と39分には決定的なピンチを迎えたが、守備陣が体を投げ出してゴールを守った。

後半、守備をコンパクトに修正してカウンターを狙うフランスに対し、日本は交代で入った柴田や樋渡百花（メニーナ）らが躍動し、再三ゴールに迫った。そして、アディショナルタイムにはCKから楠さやみ（C大阪堺ガールズ）が頭で合わせて2-0とし、試合終了。3試合で7人がゴールを決め、無失点を遂げた日本は、7大会連続となるノックアウトステージに駒を進めた。

3試合でゴールマウスを守ったGK岩崎有波。好セーブで何度も日本のピンチを救った

©2022 FIFA

準々決勝でスペインに惜敗

■準々決勝 VS スペイン

準々決勝は、前回王者のスペインと対戦することになった。グループステージ3試合でフル出場した古賀塔子（AC福島）は、「U-20女子ワールドカップではスペインに負けて準優勝という結果だった。勝ってその借りを返し、次のステージに進みたい」と語った。日本は立ち上がり、3試合連続で先発出場となった谷川と眞城のボランチを中心にボールを動かしてチャンスをつくる。しかし、10分を過ぎるとスペインの組織的なハイプレスに押し込まれ、耐える時間帯が続いた。

「これまでのチームとは個々の技術の高さが違った」と今野真帆（浦和ユース）が振り返ったように、連動した攻守と正確なパスに個人技を織り交ぜるスペインから日本はボールを奪うことができず、何度も決定機を与えてしまう。しかし、全員が素早く戻ってスペースを埋め、GK岩崎が再三のファインセーブで得点を許さない。その守備に応えるかのように、66分、谷川がゴールまで約30mの位置からミドルシュートをたたき込み、劣勢だった日本がリードを奪った。

対するスペインは、攻撃的なカードを次々と切って猛反撃を見せる。すると87分、日本は自陣ゴール前の混戦から同点ゴールを許してしまう。大会初失点を喫した日本は、後半アディショナルタイムにも右サイドを突破され、ロペスに痛恨の勝ち越しゴールを許し、1-2で惜敗した。1対1の局面では競り勝つ場面があったものの、スペインとの差はボール支配率34%対66%、シュート数5本対21本という数字に表れた。

スペインは大会を通して交代枠をフルに使い、1点差をものにする粘り強さで優勝を飾る。大会連覇と同時に、8月のU-20女子ワールドカップに続く二世代での優勝を達成した。また、南米初の決勝進出を果たしたコロンビアが準優勝に輝いた。今大会は、全32試合で18万5000人を超える観客数を記録。28万人超が入った2014年のコスタリカ大会以来の盛り上がりとなった。

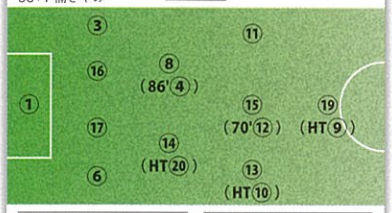
日本はベスト8に終わったが、5大会連続でフェアプレー賞を受賞し、個人では通算4得点の谷川がシルバーブーツ賞に輝いた。最終ラインからチームを鼓舞し続けたキャプテンの中谷莉奈（C大阪堺ガールズ）は、「世界では通用しないことも多かった。もっと強くならないと上に行くことはできない」と大会を振り返った。初のワールドカップで世界の壁と対峙した若き原石たちは、悔しさと経験を糧に次のステージを目指す。

©2022 FIFA

前回大会に続いてスペインが優勝。準決勝のドイツ戦、決勝のコロンビア戦ともに1-0で勝利を収めた

■グループD　第3戦
2022年10月18日　20：00（現地時間）
Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium

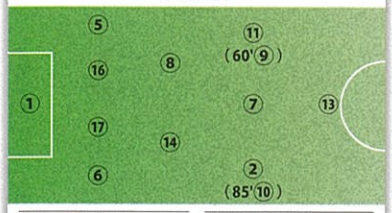
日本 **2-0** フランス（1：0、1：0）
29'谷川萌々子
90+1'楠さやみ



GK ① 岩崎有波	MF ⑭ 谷川萌々子 → HT ⑳丸井優奈
DF ③ 岡村來佳	FW ⑬ 辻澤亜唯 → HT ⑩柴田瞳
⑥ 吉岡心	⑮ 高岡澪 → 70' ⑫板村真央
⑯ 中谷莉奈	⑲ 久保田真生 → HT ⑨樋渡百花
⑰ 古賀塔子	
MF ⑧ 眞城美春 → 86' ④楠さやみ	
⑪ 松永未夢	

■準々決勝
2022年10月22日　20：00（現地時間）
Goa/Pandit Jawaharlal Nehru Stadium

日本 **1-2** スペイン（0：0、1：2）
66'谷川萌々子
87'、90+3' LOPEZ Vicky



GK ① 岩崎有波	MF ⑦ 今野真帆
DF ⑤ 大矢さくら	⑧ 眞城美春
⑥ 吉岡心	⑪ 松永未夢 → 60' ⑨樋渡百花
⑯ 中谷莉奈	⑭ 谷川萌々子
⑰ 古賀塔子	FW ⑬ 辻澤亜唯
MF ② 白垣うの → 85' ⑩柴田瞳	

■大会各賞

adidas Golden Ball : Vicky Lopez（スペイン）
adidas Silver Bal l: Linda Caicedo（コロンビア）
adidas Bronze Ball : Mara Alber（ドイツ）
adidas Golden Boot : Loreen Bender（ドイツ）
adidas Silver Boot : **谷川萌々子（日本）**
adidas Bronze Boot : Linda Caicedo（コロンビア）
adidas Golden Glove : Sofia Fuente（スペイン）
FIFA Fair Play award : **日本**

©2022 FIFA

悔しさも含めて、次につなげてほしい

FIFA U-17女子ワールドカップインド2022が2大会ぶりに開催され、U-17日本女子代表は前回大会に続いてベスト8の成績を収めた。チームを率いた狩野倫久監督に大会での戦い、今後の選手たちに期待することを聞いた。

狩野倫久
U-17日本女子代表監督
インタビュー

○オンライン取材日：2022年11月29日

コロナ禍を乗り越え暑熱対策をして大会へ

——この2年間、チームづくりで大切にされたことを教えてください。

狩野　新型コロナウイルス感染拡大の影響で学校が休校になったり、各種イベントや大会が中止されたり、サッカー活動の自粛を余儀なくされるなど、さまざまな経験をしてきました。ですから、選手たち一人一人の「大好きなサッカーを思い切りやりたい」という思いや目標を明確にし、逆算して、いま自分に何ができるかを考えて取り組もうと働き掛けました。国内合宿では個々に目標やタスクを与えてそれを持ち帰ってもらい、所属チームの指導者の方々と連携してチームの底上げを図りました。男子高校生やなでしこリーグ、WEリーグのチームの協力もあり、国際試合ができない中でもトレーニングマッチを組むことができました。

——選手21人の平均身長は163・9㎝と高く、全員が複数ポジションをこなせるチームでした。

狩野　選手たちの平均身長は以前に比べて高くなってきており、スピードや技術などのアベレージも向上しています。その強みをU-20日本女子代表やなでしこジャパンにつなげていくことが大切ですので、どのような状況や相手でも柔軟な対応ができるように経験を積んでワールドカップに臨みました。

——開催地のインドは高温多湿で、グループステージは全て20時キックオフでした。コンディション面で意識されたことは？

狩野　時差調整や暑熱対策を含めて、直前合宿をドバイ（アラブ首長国連邦）で行いました。水分摂取量を少しずつ調整したり、トレーニング時間を1時間ずつ遅らせるなどして、時差にも徐々に慣れていきました。インドに入国する際は航空会社のチェックインがうまくいかないアクシデントもありましたが、選手たちに動じる様子はなく、メンタル面の成長も見られました。

——初戦は、タンザニアに快勝しました。

狩野　相手チームにはアフリカらしい特徴のある選手がいましたし、目に見えない心理的なプレッシャーがあったせいか、われわれの立ち上がりは硬さも見られました。

どんな相手にも自分たちのストロングポイントを最大限に発揮して勝負できるように取り組んできた中で、4得点を奪って勝ったことは、次戦の勝利につながったと思います。

貴重な国際経験を積む準備と努力が結実

——2試合目は前回大会ベスト4のカナダに対し、良い入りを見せ、2連勝でグループステージ突破を決めました。

狩野　「失敗したくない」という思いから、選手たちに思い切りの良さを出せない部分がありましたので、やってきたことを思い出してチャレンジしようと働き掛けました。選手たちが輝けるよう、初戦からシステムを変えて臨みました。カナダはトップカテゴリーから一貫したチームづくりをしており、個の強さを持った選手もいましたが、日本の選手たちはそれを上回る自分たちの良さを発揮してくれたと思います。

——2試合で全員がピッチに立ち、一体感の高まりも見られました。

狩野　誰が出ても遜色なく戦えるように全員が準備をしてくれていました。試合の展開によって出場するタイミングを個別に伝えてもいました。この年代はできるだけ多く国際経験を積むことが大切ですから、試合展開も含めて全員が出場できたことは良かったです。

——3戦目のフランスは日本に勝たなければ後がない状況でしたが、見事に3連勝を達成しました。

狩野　8月のU-20女子ワール

ドカップで日本がフランスに勝ち、われわれも大会直前のフランス遠征で対戦し、本気でリベンジを挑んでくるフランスに勝利しました。相手の特徴や狙いは分かっていましたから、相手が「次こそは」という思いで向かってくる中でわれわれはさらに強い気持ちと高い集中力で臨むことができました。選手たちのメンタル面での強さも感じられた試合でした。

――中盤の谷川萌々子選手（JFAアカデミー福島）と眞城美春選手（日テレ・メニーナ）のダブルボランチが効いていましたし、途中出場の楠さやみ選手（セレッソ大阪堺ガールズ）にも得点が生まれました。

狩野　ボランチの2人はセカンドボールを拾ったり、相手の攻撃の芽をつぶして起点になったりするなど、中盤の攻防で際立った活躍を見せてくれました。また、楠選手が得意とするヘディングで決めた2点目は、ずっと取り組んできたことの成果です。見えない準備と努力が結果につながり、継続することの大切さを示してくれました。

――3試合無失点はどう評価されていますか。

狩野　紅白戦や練習のミニゲームでもわれわれは常に失点ゼロにこだわってきました。シュートを打たれても精神的なプレッシャーを与えれば、相手は枠を外すことがある。諦めずに最後まで戦えたことが無失点につながったと思います。

前回大会ベスト4のカナダにも4-0の快勝を収めたU-17日本女子代表

2大会連続でベスト8 柔軟な判断が大切

――スペインとの準々決勝は後半、谷川選手のゴールで先制しましたが、終盤に逆転を許しました。

狩野　前半は非常に苦しい展開でした。判断ミスでピンチを招くシーンもありましたが、踏ん張って無失点で抑えることができました。後半は「今までやってきたことをどれだけ追求できるか、苦しい中でも成長できるチャンス」と伝えました。セットプレーで必ず決定機は巡ってくると考えていました。その中で谷川選手の素晴らしいゴールが生まれ、リードした後は守備をよりコンパクトにして中盤のポジションを入れ変えました。しかし、試合の流れを含めて、守備への意識を統一しきれなかったことが失点につながったと思います。

――日本は2大会連続で準々決勝敗退となりました。今後はどのようなことが大切でしょうか。

狩野　試合の強度が高い中でも相手の変化に応じて柔軟に判断し、技術や戦術を発揮していくことが大切だと思います。個人の力で試合を決められる選手を育成するためには、さらに下の年代から指導者が個々の良さを認め、その強みで勝負させていくことが大きなポイントになると思います。

――個人では4試合連続ゴールを決めた谷川選手がシルバーブーツに輝きました。

狩野　谷川選手はゴール前の攻防だけでなく、ミドルレンジから左右の足で狙ったところに蹴る技術があり、苦しい時間帯でも2列目から飛び出してスペースを見つけて仕掛け、フィニッシュに持ち込むことができます。フランス戦の楠選手のヘディングもそうですが、日本の課題とされてきた部分で、世界基準の高さを見せることはできたのではないかと思います。

――フェアプレー賞は、2012年から5大会連続の受賞です。

狩野　本当に光栄ですし、育成年代からなでしこジャパンまで一貫した取り組みをしている成果だと思います。ひたむきで明るく、芯が強くて礼儀正しいところは「なでしこらしさ」だと思います。選手の所属チームやトレセン、高校でも、自発的に元気よくあいさつをしたり、練習や試合後にロッカーをきれいにして帰る光景が見られます。そうした日本人のマインドやサッカー界全体の揺るぎない信念があるからこそ、代表でも当たり前のようにできますし、日常の成果が今回のフェアプレー賞につながっていると思います。

狩野監督は「世界大会は誰もが経験できるものではない。この経験を次につなげていってほしい」と選手たちに期待を寄せる

――最後に、これからの選手たちに期待することを教えてください。

狩野　目標とするなでしこジャパンが世界で活躍することを願っています。今大会の悔しさと経験を次につなげてほしい。日常の取り組みが上のカテゴリーでの活躍につながります。私自身も監督としてここからまたいろいろなものを積み上げて、もう一度世界でタイトルを取ることを目標にチャレンジしていきます。スタッフ、ファン・サポーター、メディア、いろいろな方に支えられた大会でした。皆さまの応援とサポートに心から感謝しています。

なでしこジャパン、スペイン遠征で2連戦

なでしこジャパン（日本女子代表）は、11月11日にイングランド女子代表、同15日にスペイン女子代表と国際親善試合を行った。スペインでの2連戦はいずれも完封負けを喫したが、来年のFIFA女子ワールドカップを見据えたチャレンジもあり、収穫の多い内容となった。

※なでしこジャパンメンバーおよび公式記録は41～42ページに掲載

イングランド戦では4失点を喫したなでしこジャパン。サイド攻撃を封じることができず課題も残った

欧州王者イングランドに4失点の完封負け

11月のスペイン遠征に向け、日本サッカー協会（JFA）は10月28日、なでしこジャパンのメンバー23人を発表した。同22日にはFIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023の組み合わせが決まったばかり。このスペイン遠征では、7月のUEFA女子ヨーロッパ選手権2022で初優勝したイングランド女子代表、そして、女子ワールドカップのグループステージでも対戦するスペイン女子代表と国際親善試合を行う。メンバーは、10月に国内で開催された2試合の参加選手に、イングランドでプレーする長谷川唯（マンチェスター・シティ）、岩渕真奈（アーセナル）らが加わったほか、JFAアカデミー福島出身のGK大場朱羽（イーストテネシー州立大／アメリカ）が初めて招集された。池田太監督は「（イングランドとスペインは）女子ワールドカップで同組になる可能性も承知の上でマッチメイクした。欧州の強豪と対戦することは私自身にとっても楽しみであり、選手にとってもチームも上積みにできる機会。自分たちの今の力を試したい」と語った。

けがから復帰した岩渕（右）はイングランド戦で先発出場。攻撃の起点となるも得点はならず

チームは11月7日に日本を発ってスペインへ渡り、同11日、ムルシアでイングランドとの国際親善試合に臨んだ。日本は10月の2試合で採用した3バックで挑み、ヨーロッパでプレーする熊谷紗希（FCバイエルン・ミュンヘン／ドイツ）、岩渕らが先発メンバーに名を連ねた。

10分、前線でボールを奪った遠藤純（エンジェル・シティFC／アメリカ）がクロスを上げるなど積極的なプレーを見せるが、イングランドは、武器であるサイド攻撃から起点をつくる。38分、イングランドの左クロスに対し、杉田妃和（ポートランド・ソーンズFC／アメリカ）が一度はボールを保持するも、パスミスから失点。0-1で前半を折り返した。

「引いたところからの攻撃の仕方が課題」と長谷川が試合後に語ったように、守備から攻撃に移る際、パスがうまくつながらない状況は後半も続く。58分にはまたも相手のサイド攻撃から失点を許してしまう。日本は打開を図ろうと、10月の2試合で活躍した田中美南（I神戸）や藤野あおば（東京NB）らを投入。田中美のキープ力と藤野のドリブル突破が光る場面もあったが、イングランドの勢いを止めることはできず、終盤にも素早い攻撃から2点を献上し、0-4で完封負けを喫した。

「イングランドとの差を結果と

イングランドのマンチェスター・シティに所属する長谷川。序盤から積極的にゴールを目指した

ともに見せつけられてしまった印象。なぜこういう結果やパフォーマンスになったのか、チームとして向き合わなければいけない」と熊谷が危機感を口にすると、岩渕も「今日の結果がシンプルに実力だと思う。しっかりと受け止めて、切り替えて次に臨むしかない」と、4日後のスペイン戦を見据えた。

イングランド戦から守備を修正して臨んだスペイン戦。先制された直後、ピッチで話し合う選手たち

スペインに善戦も最後までゴールを奪えず

イングランド戦後、セビージャに移動したなでしこジャパンは、11月15日にスペインと対戦した。イングランド戦から4人の先発を入れ替え、猶本光（浦和）と林穂之香（ウェストハム・ユナイテッド／イングランド）がボランチ、田中美はセンターフォワードに位置し、右サイドの藤野らとチャンスをうかがう。守備ではイングランド戦に続き、3バックを形成した。

「全体的に意図を持って奪いにいけるシーンは多かった」と南萌華（ASローマ／イタリア）。日本はイングランド戦の反省を生かしてボールを奪いに行く。3分には右サイドの清水梨紗（ウェストハム・ユナイテッド／イングランド）のクロスから藤野がシュート。これは相手GKに阻まれたが、日本はリズムよく攻撃を仕掛ける。ところが9分、相手のロングシュートのはね返りを押し込まれて失点。19分には田中美が相手GKとの1対1からゴールを狙ったが得点には至らず、1点ビハインドで前半を折り返した。

後半、日本は植木理子（東京NB）や乗松瑠華（大宮V）をピッチに送り、スペインの攻撃を封じながらチャンスをうかがう。藤野はドリブルでの仕掛けから多くのFKを獲得し、セットプレーから得点を狙うが、決めきれない。87分には藤野と清水の連係から右サイドを崩してクロスを上げる。しかし、杉田のシュートはゴールを割る直前でクリアされてしまう。日本は0-1で敗れ、スペインに一歩及ばなかった。

スペイン戦では猶本、長野とボランチを組んだ林（右から2人目）。3バックの間で攻守にバランスを保った

藤野は「代表活動後も試合の成果や課題を一人一人が忘れてはいけない。自分自身ももっとレベルを上げ、女子ワールドカップのメンバーに選ばれるようプレーしたい」と話し、猶本は「2連敗を重く受け止めている。チーム、個人として成長し、成熟していかなければならないと強く思わされた」と決意を新たにしていた。

なでしこジャパンにとって今年最後の活動となったスペイン遠征は、多くの課題と収穫を得られるものとなった。これらの経験を糧に女子ワールドカップに向けてさらに強化を進めていく。

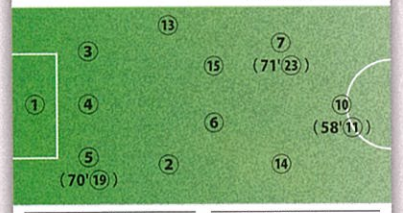
センターフォワードの田中美南は好機を迎えるも決められず。フィニッシュの精度はチームの課題となった

■国際親善試合
2022年11月11日　20：00（現地時間）
スペイン／Pinatar Arena（ムルシア）

日本 **0-4** イングランド

0-1
0-3

38'RACHEL DALY
58'CHLOE KELLY
77'ELLA TOONE
90'JESSICA PARK



GK ① 山下杏也加	MF ⑦ 宮澤ひなた → 71' ㉓藤野あおば
DF ② 清水梨紗	⑬ 遠藤純
③ 南萌華	⑭ 長谷川唯
④ 熊谷紗希	⑮ 杉田妃和
⑤ 三宅史織 → 70' ⑲宝田沙織	FW ⑩ 岩渕真奈 → 58' ⑪田中美南
MF ⑥ 長野風花	

池田太監督コメント（要約）

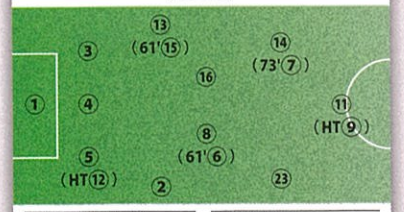
欧州王者のイングランドと対戦する上で、最初から相手の力を受けて立つのではなく、自分たちが今トライしているアグレッシブさを出してぶつかっていこうと試合に臨んだ。前半はプレスに迷いがあり、守備がはまらないなど、少し消極的なプレーもあった。前線から奪いに行く姿勢は求めており、今日の試合で見えたところもある。後半はトライしてきたことが成果として見える部分も少しあった。まだ完成したチームではないので一つずつ積み上げていきたい。

■国際親善試合
2022年11月15日　20：00（現地時間）
スペイン／Estadio La Cartuja（セビージャ）

日本 **0-1** スペイン

0-1
0-0

9'Alba Redondo Ferrer



GK ① 山下杏也加	MF ⑬ 遠藤純 → 61' ⑮杉田妃和
DF ② 清水梨紗	⑭ 長谷川唯 → 73' ⑦宮澤ひなた
③ 南萌華	⑯ 林穂之香
④ 熊谷紗希	㉓ 藤野あおば
⑤ 三宅史織 → HT ⑫乗松瑠華	FW ⑪ 田中美南 → HT ⑨植木理子
MF ⑧ 猶本光 → 61' ⑥長野風花	

池田太監督コメント（要約）

イングランド戦から中3日、守備面でいろいろな整理をしてスペイン戦を迎えた。前半は相手のボールを見てしまうところがあり、早々に失点してしまった。後半は守備の圧力を高め、連動してボールを奪えたので攻撃の形をつくることができた。ただゴールを決めないと勝てない。そこの精度は追求し続けなければならない。10月、11月は自分たちの器を広げることを目指した。この4試合でトライしたことは自分たちの成長につながるもの。いろいろなアイデアや関わりを増やしながら精度を上げていきたい。

世界をつなぐ旅が、ここからはじまる。

AL RIHLA

アル・リフラ

U-21日本代表　国際親善試合

欧州の強豪を相手に1勝1敗

※U-21日本代表メンバーおよび公式記録は39ページに掲載
※選手の所属は試合時

なかなかペースがつかめず苦しい展開となったスペイン戦は後半に2点を奪われて敗戦

2024年のパリオリンピックを目指すU-21日本代表が11月13日から24日に欧州遠征を行い、スペインのセビージャでU-21スペイン代表、ポルトガルのポルティマンでU-21ポルトガル代表と国際親善試合を行った。

今年3月に立ち上がったU-21日本代表にとってこの遠征が年内最後の活動となる。9月のスイス戦、イタリア戦に続く欧州の強豪との対戦に向け、大岩剛監督は23人の選手でチームを編成。「欧州（の強豪国）は自分たちの強みを出してくる。試合前の準備やプレー面でのスピード・強度が全く異なる。9月の欧州遠征で2試合できたことは非常に有意義で、そこでできることとできないことが明確になった。われわれの基準を一つ、二つ上げた状態で今回も2試合できる。しっかりと準備をして乗り込みたい」と語った。

18日のスペイン戦は、藤田譲瑠チマ（横浜FM）や鈴木唯人（清水）、斉藤光毅（スパルタ・ロッテルダム）らが先発に名を連ね、6月のAFC U23アジアカップウズベキスタン2022以来の招集となった山本理仁（G大阪）もスタートからピッチに立った。4-2-3-1の布陣で臨んだ日本は、立ち上がりから相手の素早いパス回しに苦戦を強いられる。「ゲームの入りは良かった」（大岩監督）が、徐々に相手にペースをつかまれてしまう。32分、ディフェンスラインの裏に抜け出した鈴木唯が決定機を演出するが、これはGKに阻まれた。後半もスペインのペースで試合が進む。47分に右サイドを崩されると、混戦から押し込まれて失点。日本はメンバーを代えて反撃を試みるが、69分に追加点を許し、0-2で初戦を落とした。

ポルトガルとの対戦前、大岩監督は、「自分たちがどのように試合をコントロールしていくか、そこは積み上げていかなければならない」とコメント。反省を踏まえて臨んだこの一戦は、スペイン戦から先発5人を変更し、小田裕太郎（神戸）や松村優太（鹿島）らが起用された。

立ち上がりから一進一退の攻防が続いたが、21分にバングーナガンデ佳史扶（FC東京）のクロスから小田が先制点を奪う。その後は相手の攻撃に耐えながら、速攻を主体に仕掛けていく。後半はメンバーを入れ替えながら試合をコントロールして戦ったが、78分にPKを献上。これを決められ同点とされる。それでも粘り強く戦い、試合終了間際にゴールをこじ開ける。左サイドから加藤聖（長崎）がゴール前にボールを送ると、ファーサイドに走り込んだ藤尾翔太（徳島）が決めて勝ち越し。これが決勝点となり、2-1で勝利を収めた。試合後、大岩監督は「今日の勝利は評価するが、選手たちは2試合を通してもっとレベルアップしなければならないと気付かされたはず。高い目標、目的意識を持ったグループにしていく」と話した。

スペイン戦の反省を生かして臨んだポルトガル戦は小田（写真）と藤野の得点で勝利をつかんだ

第1戦　11月18日
U-21日本代表　0-2　U-21スペイン代表

第2戦　11月22日
U-21日本代表　2-1　U-21ポルトガル代表
日本の得点：21'小田裕太郎、92'藤尾翔太

JAPAN NATIONAL TEAM

REPORT

初の公式アプリ

「JFA Passport」配信スタート ～サッカーファミリー1000万人を目指す

個人の活動を記録 充実したサッカーライフを

日本サッカー協会（JFA）は11月10日から、JFA初の公式アプリ「JFA Passport」の配信をスタートさせた。

「JFA Passport」は、JFAが推し進める新しいメンバーシップ構想の一環として立ち上げたもので、従来の「選手」「指導者」「審判員」を対象とした登録制度に加え、ファン・サポーターやこれからサッカーを始める、あるいはピッチからしばらく離れていた人、選手らの家族など、全てのサッカーファミリーをつなぎ、その輪を広げていくために開発したものだ。

JFA Passportをダウンロード（無料）すると、サッカーに関するオリジナル動画や読み物を閲覧できるほか、それぞれ個人が属するカテゴリーや地域に関連するニュース、イベント情報などが届く。アプリ上で会員証も発行され、JFA IDにひも付くサッカー活動の実績がサッカーライフログ（生涯の記録）として蓄積。来年には、サッカーと出合った日から今日までの自身のサッカーライフをたどることができる予定となっている。また、インタラクティブ（双方向）なコミュニケーションも可能になることからアンケート機能も搭載。JFA・各地域主催のフェスティバルやイベントへの登録も簡素化される。勝負メシや育ち盛りの選手に適した食事のレシピ、フィジカル強化のポイントの動画や記事、キッズやその保護者向けの情報といったオリジナルコンテンツも充実させていく。

FIFAワールドカップカタール2022の期間中は、SAMURAI BLUEにフォーカスした、アプリ限定のコンテンツを配信した。

自分だけのパスポート 日常にサッカーを届ける

公式アプリの運用開始にあたり、JFAは11月10日、報道関係者を対象にオンラインでブリーフィングを実施し、宮本恒靖JFA理事が経緯や狙いなどを説明した。

JFAは「JFA2005年宣言」で2050年までにサッカーファミリーを1000万人とすることを“約束”している。この目標はフットボールをプレーする人やファン・サポーターを増やすことだけではない。宮本理事は、「中央競技団体として、また公益財団法人として、サッカーを通じて社会課題を解決すること、そのために健康や教育、地域促進といった面で人々の幸福に貢献したいというJFAのミッションを実現するために掲げているもの」と説明。これまでの登録制度では、選手や指導者、審判員がそれぞれ活動を終えるとJFAとの接点がなくなってしまうことが課題だった。サッカーから離れ、つながりがなくなってしまった元登録者は約230万人いると推定される。その現状を変えるため、JFAは2020年10月にプロジェクトチームを立ち上げた。翌年4月にはJFA Growth Strategistに就任した中村憲剛氏も加わり、生涯にわたってスポーツやサッカーに関わり続けるためのプラットフォームを構築してきた。そして、「パスポートのように、サッカーに関わる活動一つ一つを生涯の記録・資産として蓄積していく」というコンセプトの下で、JFA初の公式アプリを開発したのだ。ロゴはパスポートを開いたイメージとサッカーボールを組み合わせたデザインが採用されている。

宮本理事は「無料でJFAの会員になってもらえる新しい制度。手軽に、毎日、何回でも触ってもらえるようなアプリにしたいと思いながら内容を考えてきた。当たり前のようにサッカーがある日常が日本にも広がってほしい。その未来への一つのツールとしてこのアプリを愛してもらえたら」と力を込める。

JFAは全ての人がサッカーに対する楽しい記憶を持ち続けられるよう、アプリを通じてさまざまなコンテンツを届けていく。

●中村憲剛 Growth Strategist コメント

Growth Strategistに就任して一年半、サッカーファミリーの輪を大きくするチャレンジに対し、選手や指導者、そしてサッカー少年少女の子を持ついち父親としてのバックグラウンドを僕なりに生かしながら議論に参加させていただきました。大事にしたのは、サッカーに触れていない人をどう巻き込むことができるか、スポーツが人々の生活に寄り添うには何が必要なのかということです。本日、JFA Passportがスタートを切りましたが、機能やコンテンツはニーズに合わせてアップデートされていきますし、メンバーシップの在り方も社会背景に応じて変わっていくと思います。

サッカーが持つ魅力がより多くの人に届くよう、スポーツ界の外からの新しい視点も柔軟に取り入れながら、継続して取り組んでいきたいと考えています。

JFA Passport

サッカーがもっと楽しくなる
あなただけのパスポート

あなたに合った、ニュース、動画、お知らせ等を閲覧できる、
JFAが提供するサービスを総合的に利用できるアプリ！

いつでも、どこでもあなたの楽しみ方で
サッカーとつながろう！

✓ 01
アプリでしか見られない動画やニュースが満載！

JFA Passport限定のサッカー日本代表の動画のほか、保護者向け、指導者向けといったオリジナルの動画も配信！
YouTubeチャンネルの動画やJFA公式サイトのニュースもまとめてチェック可能！

✓ 02
あなたに合ったイベントやプログラムに参加！

全国各地で開催されているさまざまなイベント・フェスティバルにアプリ内のフォームや会員証を使って、簡単に参加可能！
サッカーを始めたい小学生未満のお子さま向けには、課題をクリアするとスターターキットがゲットできるプログラムも開催中！

✓ 03
お得なクーポンやプレゼントをゲット！

サッカー活動に役立つ会員限定のお得なクーポンを入手できるほか、うれしいプレゼントがもらえるキャンペーンも順次開催！

※本紙に記載されている内容は予告なく変更になる場合があります。最新内容はWebサイトをご確認ください。

今後も様々なサービス・コンテンツが続々登場予定！

▼ダウンロードはこちらから

QRコードからダウンロード

App Store からダウンロード

Google Play で手に入れよう

App Storeまたは Google Playで検索 | JFA Passport | 検索

AppleおよびApp Storeロゴは米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
Google Play および Google Play ロゴは、Google LLC の商標です。

※通信量などはお客様のご負担となります。
問い合わせ先：公益財団法人日本サッカー協会　050-2018-1990(代表)

読者プレゼント

応募締切：2023年1月16日（月）当日消印有効

アディダス ジャパン（株）提供

日本代表のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン（株）より、「adidas スポーツタオル（サイズ：70cm×140cm）」を1名様にプレゼント。

JFA STORE 提供

「JFA STORE」は日本代表のグッズなどがそろうJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーン、目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページも用意しました。
今号では「#つな超え フォトフェイスタオル」と「#つな超え フォトアクリルスタンド」をそれぞれ1名様にプレゼント。

◀#つな超え フォトフェイスタオル

https://official-store.jfa.jp/
JFA STORE

▶#つな超え フォトアクリルスタンド

プレゼント応募方法

■Web

プレゼント応募URL
https://forms.gle/ufwhfXAj5kE9VsDH8

上記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご応募ください。

■はがき

〒113-8311
東京都文京区サッカー通り（本郷3丁目10番15号） JFAハウス
公益財団法人日本サッカー協会・広報部
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnewsのご感想・ご意見などを明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。発送は2023年1月下旬の予定ですが新型コロナウイルスの感染拡大対策の影響により、お届けに大幅な遅れが生じる場合があります。予め、ご了承ください。
※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用しません。また、お送りいただいた葉書は返却しません。

公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

JFAnews

発行人　：須原清貴
発行所　：公益財団法人日本サッカー協会
〒113-8311
東京都文京区サッカー通り（本郷3-10-15）JFAハウス
TEL.050-2018-1990（代）／FAX.03-3830-2005
URL https ://www.jfa.jp
監　修　：公益財団法人日本サッカー協会 広報部
編　集　：編集長 加藤秀樹
JFAnews編集部／（株）ウォールニクス
印　刷　：サンメッセ（株）
定　価　：600円／本体545円

日本サッカー協会（JFA）は現在、主にウェブ会議システム等を用いて会議や会見、取材等を実施しています。本誌の取材につきましてもウェブ会議システムや電話、書面による取材で皆さまに変わらぬ情報を届けてまいります。

JFAはこうした取り組みが新型コロナウイルス感染拡大を抑止し、一日も早い終息に寄与するとともに、働き方改革の推進などより良い社会の実現に向けた仕組みづくりの一助になればと考えております。

次号2023年1月情報号は、2023年1月24日発売予定

［特集］
FIFAワールドカップカタール2022

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

ご購読のお知らせ

・インターネットからのご購入
日本サッカー協会 Official Online Shop
https://webshop.jfa.jp/fs/jfagoods/c/top
※クレジットカード決済のみ。
上記サイトでは本誌のほかJFA関連発行物の購入が可能です。

・年間購読
JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間（12冊）5,000円で、年間2,200円お得です。
ご希望の方は上記URLよりお申し込みください。

・チーム登録をされているご購読者さまへ
JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインしていただき、変更をお願いします。

よろこびがつなぐ世界へ

KIRIN

あなたに
元気な毎日を。
キリンの免疫ケア。

機能性表示食品

届出表示 本品には、プラズマ乳酸菌（*L. lactis* strain Plasma）が含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC（プラズマサイトイド樹状細胞）に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。●本品は、国の許可を受けたものではありません。●本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

のんだあとはリサイクル。 IMUSE-P.jp/plasma キリンホールディングス株式会社

JFA news

2022 12 NO.464

特集 WEリーグ2年目の挑戦

発行人 須原清貴

〒113-8311
東京都文京区サッカー通り(本郷3丁目10番15号)JFAハウス

JFA DREAM
夢があるから強くなる

CARBON OFF SET

VEGETABLE OIL INK

FSC www.fsc.org
ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC® C014969

アスパス!

定価600円(本体545円)